

市民意識調査

令和2年3月

座間市

はじめに

座間市では、目指すまちの姿を「ともに織りなす 活力と個性 きらめくまち」として、その実現に向けて諸施策に積極的に取り組んでいるところであります。

この「市民意識調査」は、市民の皆さまの意識や市政に関するご意見、ご要望を把握し、市政に反映させるため昭和59年から実施しており、調査結果は、市政運営や政策立案の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

今回の調査では、定住意識や市政に関する基礎事項についてお尋ねしたほか、将来のまちづくり計画や都市環境、防災・減災対策などの課題についても調査させていただき、たくさんのご意見をいただくことができました。

調査にご協力いただきました多くの皆さまに心からお礼申し上げますとともに、今後も市政に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年3月

座間市長 遠藤 三紀夫

も く じ

I 調査概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の仕様.....	1
3 回収結果.....	1
4 調査結果をみる上での注意事項.....	2
II 調査結果の概要	3
III 調査結果	9
1 回答者の属性.....	9
(1) 性別.....	9
(2) 年齢.....	9
(3) 職業.....	10
(4) 勤務地(通学地).....	10
(5) 家族構成.....	11
(6) 住まいの形態.....	12
(7) 在住年数.....	13
(8) 住まいの地域.....	14
2 生活環境について.....	15
(1) 座間市に住んだ理由.....	15
(2) 定住意識.....	16
(3) 今の場所に住み続けたい理由.....	20
(4) 他のところに移りたい主な理由.....	21
(5) 住まいの周辺環境についての満足度.....	22
(6) 総合的なまわりの環境.....	35
3 健康づくりについて.....	37
(1) 健康づくりのために重要だと思うこと.....	37
4 市民生活・広報について.....	39
(1) 要求や問題を市政に反映させる方法.....	39
(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア).....	41
(3) 市のお知らせの便利な伝達方法.....	44
(4) 座間市のホームページの閲覧経路.....	46
(5) 座間市のホームページの満足度.....	47
5 公園・広場・緑地について.....	49
(1) 自宅周辺の緑の満足度.....	49
6 景観形成について.....	51
(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと.....	51
(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方.....	53
(3) 中高層建築物の具体的問題点.....	56
(4) 建築物の高さ制限の必要性について.....	58
7 防災について.....	60
(1) 地震や火災に備えてとっている対策.....	60
(2) 防災対策として力を入れるべき施策.....	62
(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度.....	64
8 コミュニティ活動について.....	66
(1) 今後の近所づきあい.....	66

(2) 実際に参加している団体・活動.....	70
(3) 地域活動をしていない主な理由.....	74
9 男女共同参画について	76
(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて	76
(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由	78
(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由	80
(4) パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験	82
10 資源循環社会について	85
(1) ごみの減量化や資源化を推進していく上で力を入れていくべき施策	85
11 環境問題について	87
(1) 一番気になる環境問題.....	87
(2) 環境に配慮した取組を行ったかどうか.....	89
12 自由時間(余暇)について	96
(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策、施設.....	96
13 商業施設の利用・イベントについて.....	98
(1) 日常的な買い物をする場所	98
(2) 座間市内でのイベントの参加について.....	101
14 市制施行 50 周年について	104
(1) 座間市の市制施行 50 周年に関する認知度	104
(2) 市制施行 10 周年ごとの記念事業について	106
15 自由意見	108
IV 調査票	119

I 調査概要

1 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望などを的確に把握し、今後の市政運営に反映させることを目的とする。

2 調査の仕様

調査の仕様は以下の表に示すとおりである。

(1) 調査地域	座間市全域
(2) 調査対象	令和元年 11 月 1 日現在、座間市在住の 18 歳以上の男女個人
(3) 対象者数	2,500 人
(4) 抽出方法	住民基本台帳から単純無作為抽出
(5) 調査方法	郵送調査法(回答者は無記名)
(6) 調査期間	令和元年 11 月 16 日(土)～12 月 20 日(金)

3 回収結果

全体の回収結果

抽出数	不明戻り	回収数	回収率
2,500	8	1,134	45.5%

地区別回収数・回収率

地区名	新田宿・四ツ谷	座間	入谷・入谷東・明王	立野台	緑ヶ丘	相武台・栗原・広野台	相模が丘	小松原	ひばりが丘	東原・さがみ野	栗原中央・西栗原・南栗原	地域名無回答	全体
抽出数	110	113	369	98	150	292	456	103	291	214	304		2,500
回収数	49	74	171	46	59	137	193	46	120	100	126	13	1,134
回収率	44.5%	65.4%	46.3%	46.9%	39.3%	46.9%	42.3%	44.6%	41.2%	46.7%	41.4%		45.5%

4 調査結果をみる上での注意事項

- ①本文、表、グラフなどに使われる n は、質問の回答者数を表す。
- ②百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ③複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える。
- ④文、表、グラフの表示の都合上、項目名を省略して表現する場合がある。
- ⑤標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団(座間市在住の18歳以上の男女)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っているため、母集団に対して標本誤差が生じることがある。

本報告書で表現された百分率には、95%の信頼度(信頼度係数1.96)で、下表のような誤差がある。例えば、n=1,134 のとき、ある設問の「はい」という回答比率が20%であった場合、真の値は20%を中心に±2.3%の範囲内に、つまり17.7%~22.3%の間に入ることとなる。

回答者数(n)	1,134	1,000	800	600	400	200	100
回答比率	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±
10%, 90%	1.7	1.9	2.1	2.4	2.9	4.2	5.9
20%, 80%	2.3	2.5	2.8	3.2	3.9	5.5	7.8
30%, 70%	2.7	2.8	3.2	3.7	4.5	6.3	9.0
40%, 60%	2.8	3.0	3.4	3.9	4.8	6.8	9.6
50%	2.9	3.1	3.5	4.0	4.9	6.9	9.8

◆標本誤差の算出式

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{調査対象の母集団} - \text{質問の回答者数}}{\text{調査対象の母集団}-1} \times \frac{\text{回答比率} \times (1-\text{回答比率})}{\text{質問の回答者数}}}$$

- ⑥本報告書に掲載している地域図の空欄部分は、米軍キャンプ座間及び企業用地である。

Ⅱ 調査結果の概要

1 回答者の属性

- (1) 性別
「男性」(43.0%)、「女性」(56.1%)、「その他」(0.1%)、「回答しない」(0.1%)、「無回答」(0.7%)
- (2) 年齢
「18～29歳」(8.3%)、「30～39歳」(10.9%)、「40～49歳」(15.5%)、「50～59歳」(16.1%)、「60～69歳」(18.3%)、「70～79歳」(21.9%)、「80～89歳」(6.8%)「90歳以上」(1.1%)、「無回答」(1.0%)
- (3) 職業
「商工業」(2.4%)、「サービス業」(8.9%)、「農林業」(0.5%)、「専門・技術職」(8.5%)、「事務職」(10.8%)、「労務職」(4.8%)、「人材派遣会社への登録」(1.9%)、「パート、アルバイト」(15.6%)、「学生」(2.9%)、「専業主婦・主夫」(17.1%)、「無職」(20.9%)、「その他」(4.3%)、「無回答」(1.4%)
- (4) 勤務地（通学地）
「自宅」(5.0%)、「座間市内」(23.7%)、「県央地域」(34.2%)、「横浜市・川崎市」(12.7%)、「その他の県内」(5.2%)、「東京都内」(16.6%)、「その他」(0.8%)、「無回答」(1.9%)
- (5) 家族構成
「単身世帯」(12.8%)、「夫婦のみ」(26.8%)、「二世帯世帯(親と子)」(52.0%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(4.5%)、「その他」(2.6%)、「無回答」(1.3%)
- (6) 住まいの形態
「持家(一戸建て)」(61.6%)、「持家(共同住宅)」(21.7%)、「民営借家(一戸建て)」(1.9%)、「民営借家(共同住宅)」(10.4%)、「公営住宅」(1.6%)、「官・公舎」(0.2%)、「その他」(1.3%)、「無回答」(1.4%)
- (7) 在住年数
「昭和19年以前」(1.1%)、「昭和20年～昭和29年」(0.9%)、「昭和30年～昭和39年」(3.1%)、「昭和40年～昭和49年」(9.8%)、「昭和50年～昭和59年」(12.9%)、「昭和60年～平成6年」(14.3%)、「平成7～平成16年」(21.0%)、「平成17年～平成26年」(20.4%)、「平成27年以降」(15.2%)、「無回答」(1.5%)
- (8) 住まいの地域
「新田宿・四ツ谷」(4.3%)、「座間」(6.5%)、「入谷・入谷東・明王」(15.1%)、「立野台」(4.1%)、「緑ヶ丘」(5.2%)、「相武台・栗原・広野台」(12.1%)、「相模が丘」(17.0%)、「小松原」(4.1%)、「ひばりが丘」(10.6%)、「東原・さがみ野」(8.8%)、「栗原中央・西栗原・南栗原」(11.1%)、「無回答」(1.1%)

2 生活環境について

- (1) 座間市に住んだ理由
座間市に住んだ理由を聞いた結果、最も多かったのは、「手ごろな家や土地があったから」(31.2%)であった。
- (2) 定住意識
定住意識を聞いた結果、最も多かったのは、「住み続けたい」(61.5%)であった。過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は前回から引き続き増加傾向がみられる。
住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率は11地域中10地域で5割を超え、最も高い地域は、68.9%を示した座間となった。

(3) 今の場所に住み続けたい理由

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果、最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(53.1%)であった。

過去の調査結果と比較すると「自分の家や土地があるから」の比率は前回よりも高くなった。「人間関係が良いから」は年々比率が低くなっていく傾向がみられる。

(4) 他のおところに移りたい主な理由

他のおところに移りたい主な理由を聞いた結果、最も多かったのは、「通勤・通学などが不便だから」(15.0%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「人間関係が良くないから」、「子どもの教育の関係で」、「地代・家賃が高いから」は年々増加する傾向にある。また、「航空機騒音がひどいから」は大幅に低下している。

(5) 住まいの周辺環境についての満足度

周辺環境を18項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」+「不満」の比率を《住まいの周辺環境についての満足度》とすると、30ポイントを超える評価だった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「日常の買い物」、「ごみ処理」、「台所・風呂などの排水処理」、「周囲の自然環境」、「雨水の排水処理」であった。-30ポイントを下回る評価だった項目はない。

(6) 総合的なまわりの環境

総合的なまわりの環境を聞いた結果、最も多かったのは、「まあ住みやすい」(54.6%)であった。「住みやすい」+「まあ住みやすい」-「やや住みにくい」+「住みにくい」の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は64.7ポイントであった。

過去の調査と比較すると、《住みやすさ》は前回調査の55.1ポイントから9.6ポイント増加している。

3 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果、最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(59.4%)であった。次いで、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(34.7%)、「過労防止のための適切な休養」(21.2%)となっている。

過去の調査と比較すると、「特にない」が年々高くなっている傾向がみられる。

4 市民生活・広報について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果、最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(41.1%)であった。次いで、「自治会を通して連絡する」(15.3%)が続く。また、「言っても無駄だと思う」(23.3%)の比率も高くなっている。

(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「インターネット」(24.7%)であった。

過去の調査と比較すると、前回まで最も多かった「テレビ」に替わり、「インターネット」が最も多くなったほか、「携帯電話、スマートフォン」が急速に増加しているのが目立つ。反対に、「『広報さま』などの広報紙」、「新聞・雑誌」など活字媒体で減少している傾向がみられる。

(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果、最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(27.1%)であった。次いで、「録音テープによる電話サービス」(17.4%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(15.8%)となっている。

過去の調査と比較すると、前回(平成26年)と同じ調査項目の「ビデオテープやDVD等の貸し出し」と「ファクスサービス」を除く項目で比率が高くなっている。

(4) 座間市のホームページの閲覧経験

座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果は、「ある」とした人は53.9%であった。

年齢別にみると、閲覧経験が「ある」と回答した比率について、69歳以下ではどの年代も5割を超えている。反対に、70歳以上では3割台以下になり、高齢層の閲覧が少ないことが見受けられる。

(5) 座間市のホームページの満足度

座間市のホームページの満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「普通」(62.2%)であった。「満足」+「まあ満足」-「やや不満」+「不満」の比率を《座間市のホームページの満足度》とすると、《座間市ホームページの満足度》は7.0ポイントであり、前回(平成26年)の調査よりも3.5ポイント増加し、満足度は高くなっている。

5 公園・広場・緑地について

(1) 自宅周辺の緑の満足度

自宅周辺の緑の満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「普通」(37.9%)であった。「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は42.2%となっている。また、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」+「不満」を《自宅周辺の緑の満足度》とすると、《自宅周辺の緑の満足度》は23.1ポイントとなった。

住まいの地域別にみると、《満足》の回答は、緑ヶ丘、入谷・入谷東・明王、立野台で比較的高く、反対に相模が丘、ひばりが丘、小松原で比較的低くっており、座間市の中心部と東部で比率に差がみられる。

6 景観形成について

(1) 良好な都市景観、都市環境を形成するのに必要なこと

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果、最も多かったのは、「緑地の保全」(44.1%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(13.1%)、「身近な地区を対象としたルールづくり」(9.5%)、「並木の創出」(8.7%)が続く。

過去の調査と比較すると、「建築物の高さ規制の導入」が減少傾向にある。

(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果、最も多かったのは、「気になる」(40.0%)であった。また、「大変気になる」と「気になる」を合わせた《気になる》は70%以上となっている。

過去調査と比較すると、前回(平成26年)より、《気になる》は4.5ポイント減少した。

(3) 中高層建築物の具体的問題点

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果、最も多かったのは、「日照」(77.8%)であった。次いで、「圧迫感」(45.0%)、「電波障害」(31.3%)、「周囲との不調和」(21.5%)、「風害」(19.9%)となっている。

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

建築物の高さ制限の必要性について聞いた結果、最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(50.5%)であった。次いで、「どちらともいえない」(23.2%)、「わからない」(14.0%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(9.0%)が続く。

過去の調査と比較すると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」は前回より1.0ポイント増加しているが、傾向はほぼ変わっていない。

7 防災について

(1) 地震や火災に備えてとっている対策

地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果、多かったのは、「飲料水や食料を準備している」(59.8%)、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(47.9%)などとなった。

過去の調査と比較すると、「飲料水や食料を準備している」、「消化器の設置や水のため置きをしている」、「特に何もしていない」の比率が前回(平成26年)より高くなっているが、その他の項目では低くなっている。

(2) 防災対策として力を入れるべき施策

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(42.2%)であった。次いで、「飲料水、食料などの確保」(19.9%)、「避難場所の確保」(14.0%)となっている。

(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度を聞いた結果、最も多かったのは、「防災行政無線(スピーカー放送)」(61.2%)であった。次いで、「緊急速報メール」(51.4%)となっている。反対に「音声自動応答サービス」(2.5%)は極端に認知度が低くなっている。

8 コミュニティ活動について

(1) 今後の近所づきあい

今後の近所づきあいを聞いた結果、最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(43.4%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「あいさつ程度のつきあいをしたい」、「近所づきあいはしたくない」は前回(平成26年)調査より比率が高くなっている。反対に「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は前回(平成26年)調査より比率が低くなっている。

(2) 実際に参加している団体・活動

実際に参加している団体・活動を聞いた結果、最も多かったのは、「自治会」(40.8%)であった。また、「特に活動していない」(47.4%)も高い比率となっている。

過去の調査結果と比較すると、「老人クラブ」、「高齢者、身体・知的・精神障がい者などに対する社会福祉活動」、「リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動」、「婦人会」で前回(平成26年)よりわずかに比率が高くなっているが、その他の項目については減少している。特に「自治会」の減少傾向が目立っている。

(3) 地域活動をしていない主な理由

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果、最も多かったのは、「活動する時間がないから」(49.3%)であった。次いで、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(37.1%)となっている。

9 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果、最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(34.6%)であった。次いで、「反対」(31.4%)、「わからない」(16.0%)、「どちらかといえば賛成」(11.7%)、「賛成」(3.4%)が続く。「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》が、6割を超える結果となった。また、過去調査と比較すると、前回(平成26年)より《反対派》が 11.0 ポイント増加する結果となった。

(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、推し量れない状況となっているから」(30.1%)であった。次いで、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(28.5%)、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなってきたから」(25.1%)となっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」(50.3%)であった。次いで、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」(18.7%)、「従来の経験や習慣から」(17.5%)となっている。

(4) パートナー（配偶者・恋人）からされたドメスティック・バイオレンスの経験

パートナー（配偶者・恋人）からされたドメスティック・バイオレンスの経験を聞いた結果、最も多かったのは、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、その他被害のすべての項目で「まったくない」であった。項目別に比べると、精神的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高い。

性別にみると、どの項目でも男性よりも女性の方で被害にあっている比率が高い。

10 資源循環社会について

(1) ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策

ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」(44.3%)であった。次いで、「生ごみの減量化、資源化対策」(30.1%)、「分別品目の拡充」(18.2%)、「周知、啓発活動の推進」(18.1%)となっている。

11 環境問題について

(1) 一番気になる環境問題

一番気になる環境問題を聞いた結果、最も多かったのは、「航空機騒音」(45.8%)であった。次いで、「まちの美化（ペットのフンの放置、ポイ捨て、落書きなど）」(38.0%)、「地下水の保全」(24.0%)となっている。

「航空機騒音」が前回（平成26年）調査では極端に多く、今回（令和元年）の調査では前々回（平成20年）調査とほぼ同じ比率となった。

多くの項目で前回調査を下回っており、「気になる環境問題はない」も4.4ポイント増加している。

(2) 環境に配慮した取組を行ったかどうか

最近1～2年の間に、環境に配慮した取組を行ったかどうかを聞いた結果、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいる」を合わせた《取組を行った》とする回答が最も多かった項目は、「ごみの減量化やリサイクル活動」で、7割を超えた。

12 自由時間（余暇）について

(1) 自由時間（余暇）を過ごすために必要な施策・施設

自由時間（余暇）を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果、最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(29.8%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(24.7%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(19.3%)、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」(14.6%)、「市民農園の整備」(11.3%)となっている。

13 商業施設の利用・イベントについて

(1) 日常的な買い物をする場所

日常的な買い物をする場所を聞いた結果、最も多かったのは、「市内スーパーマーケット」(64.3%)であった。次いで「市内大型商業施設(ショッピングモール)」(17.3%)、「市外」(8.8%)、「市内商店街等の個店」(2.3%)が続く。

年齢別にみると、全世代で「市内スーパーマーケット」の比率が最も高く、30～79歳の世代では、2位が「市内大型商業施設(ショッピングモール)」、3位が「市外」となっている。

(2) 座間市内でのイベントの参加について

座間市内でのイベントの参加について聞いた結果、最も多かったのは、「大凧まつり」(53.0%)であった。次いで「ひまわりまつり」(51.9%)、「ふるさとまつり」(46.0%)、「緑化祭り」(28.7%)と続いている。

「行ったことがない」は19.2%となっている。

年齢別にみると、「大凧まつり」ではおおむね全年代を通して同じ比率となっているが、「緑化祭り」と「ふるさとまつり」では年代が上がるにつれて参加している比率が高くなり、「ひまわりまつり」では減少する傾向にある。

また、「行ったことがない」は18～29歳で25.5%と最も高く、若年層ほど参加していない比率が高くなっている。

14 市制施行 50 周年について

(1) 座間市の市制施行 50 周年に関する認知度

座間市の市制施行 50 周年に関する認知度について聞いた結果、最も多かったのは、「市制施行何周年を迎えるか知らなかった」(75.9%)であった。次いで、「そろそろ市制施行 50 周年を迎えることは知っていたが、令和3年度とは知らなかった」(15.5%)、「令和3年度に市制施行 50 周年を迎えることは知っていた」(4.6%)と続く。

年齢別にみると、「令和3年度に座間市が市制施行 50 周年を迎えることは知っていた」は70歳以降の年代では7.0%を超えているが、全体的に低い比率となっている。

(2) 市制施行 10 周年ごとの記念事業について

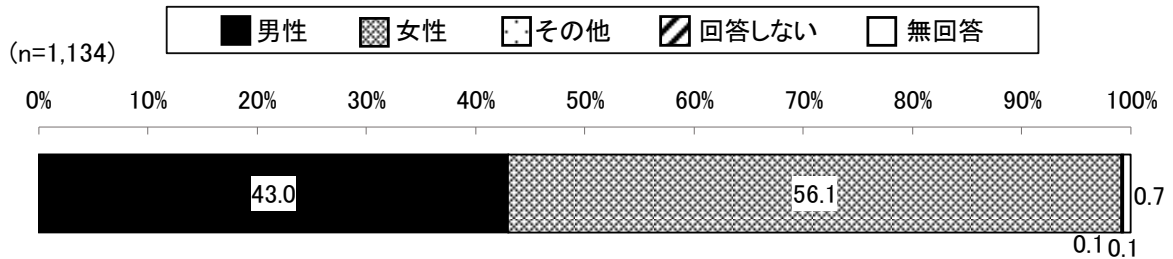
市制施行 10 周年ごとの記念事業について聞いた結果、最も多かったのは、「できるだけ費用を抑え、その費用の範囲内で、魅力的な事業を実施してほしい」(53.0%)であった。次いで、「実施しなくてよい」(18.0%)、「分からない」(16.0%)と続く。

また、「費用が掛かっても、大いに魅力的な事業を実施してほしい」は8.7%で、1割未満となっている。

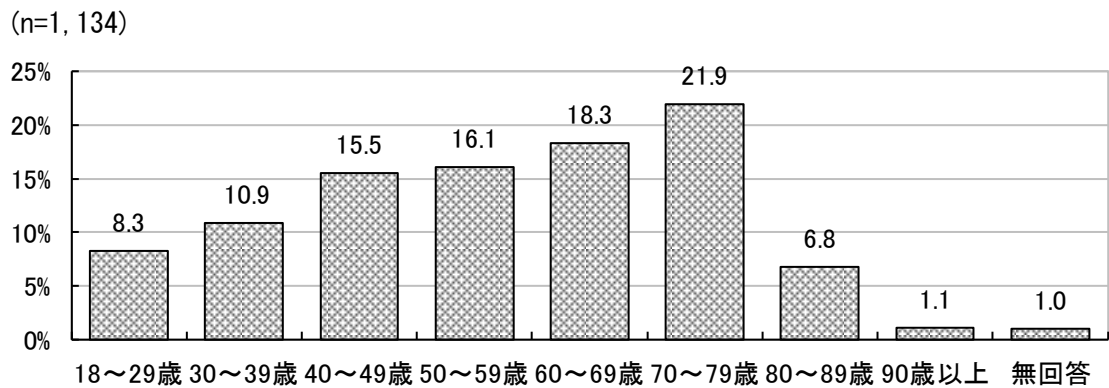
Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

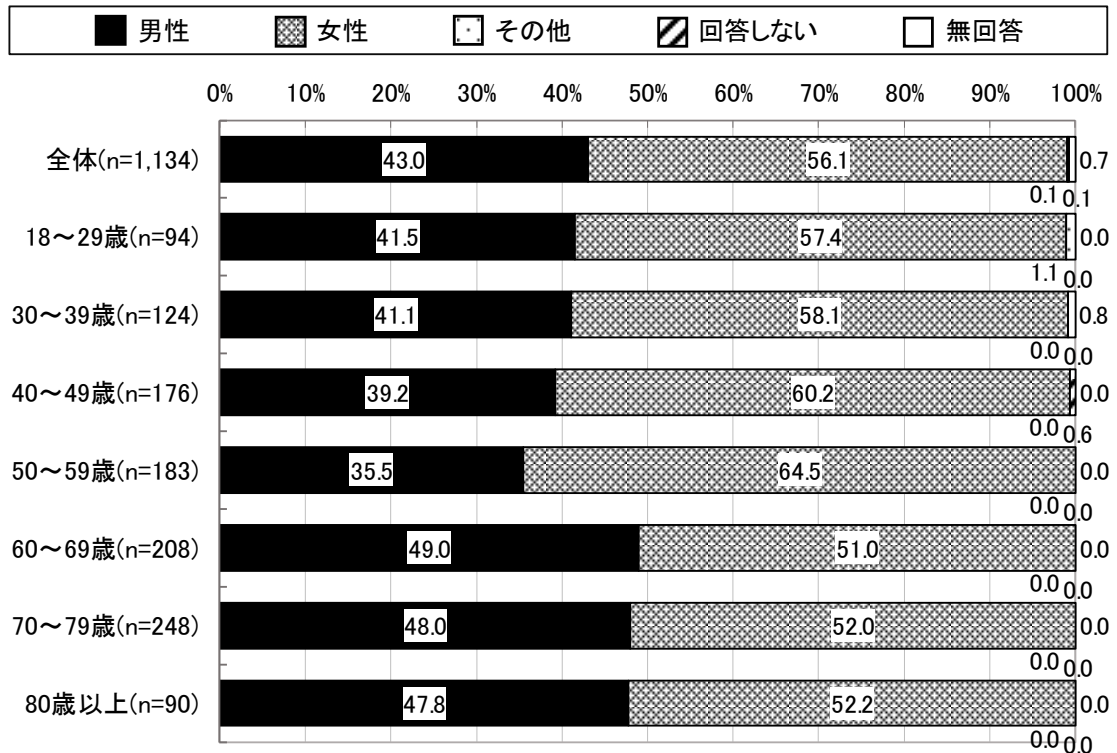
(1) 性別



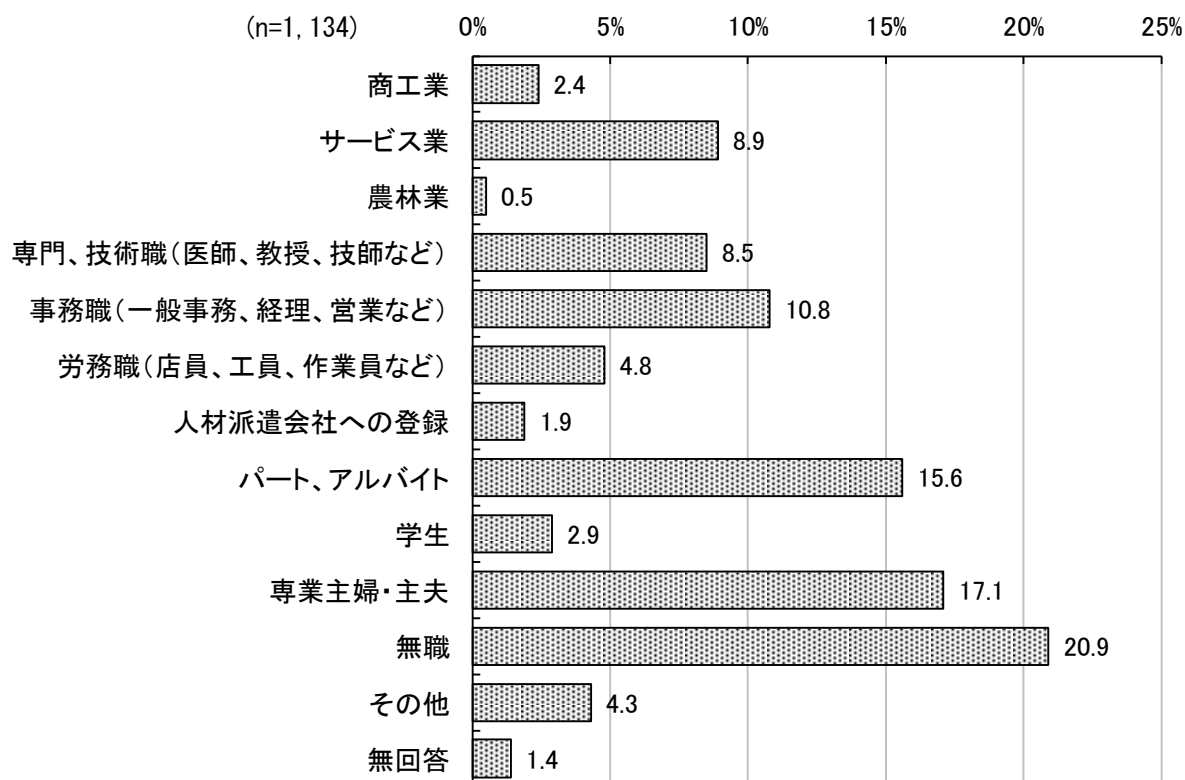
(2) 年齢



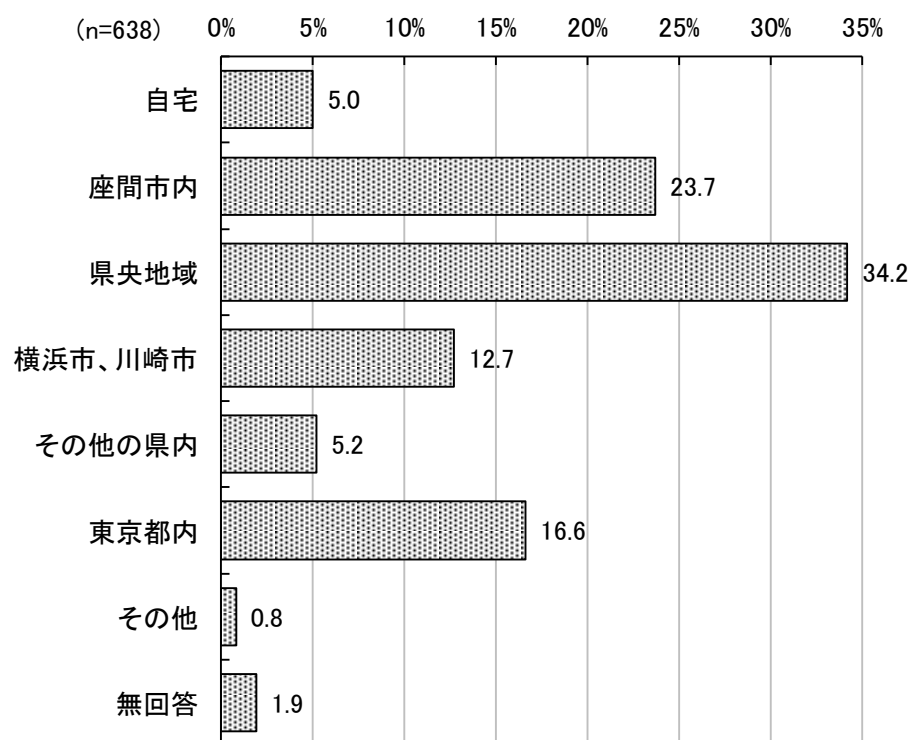
【年齢別】性別



(3) 職業

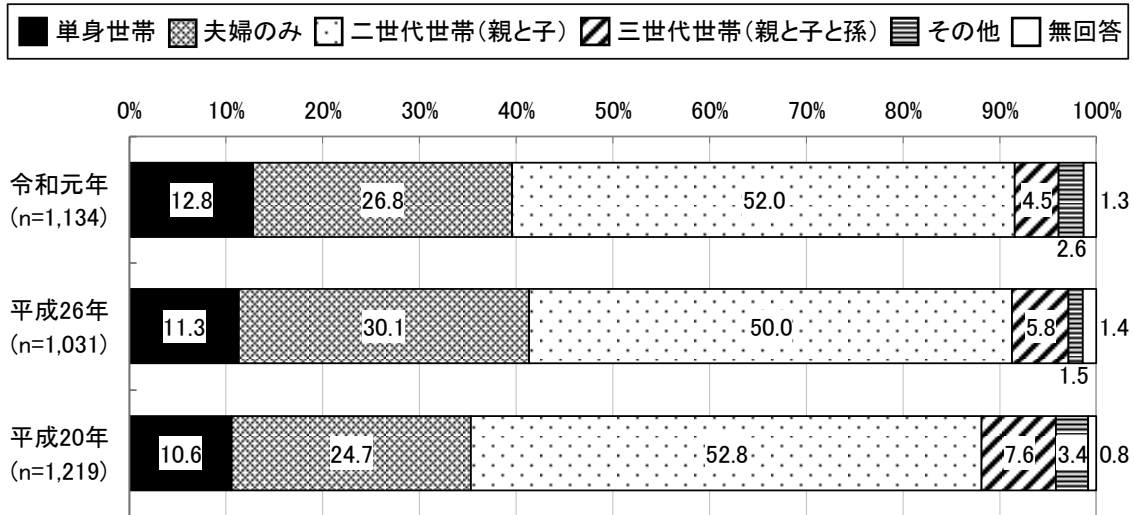


(4) 勤務地 (通学地)

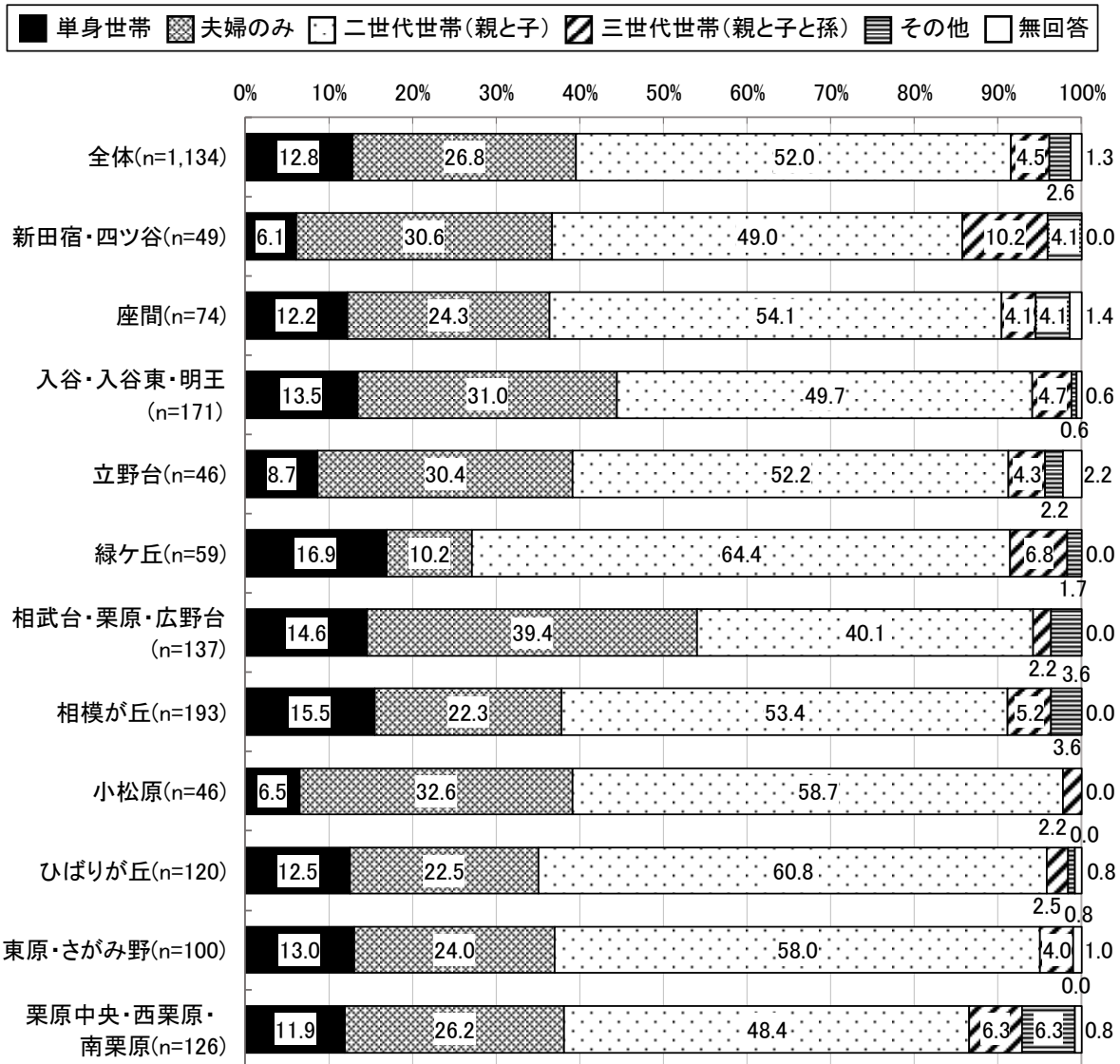


※県央地域(相模原市・厚木市・大和市・海老名市・綾瀬市・愛川町・清川町)

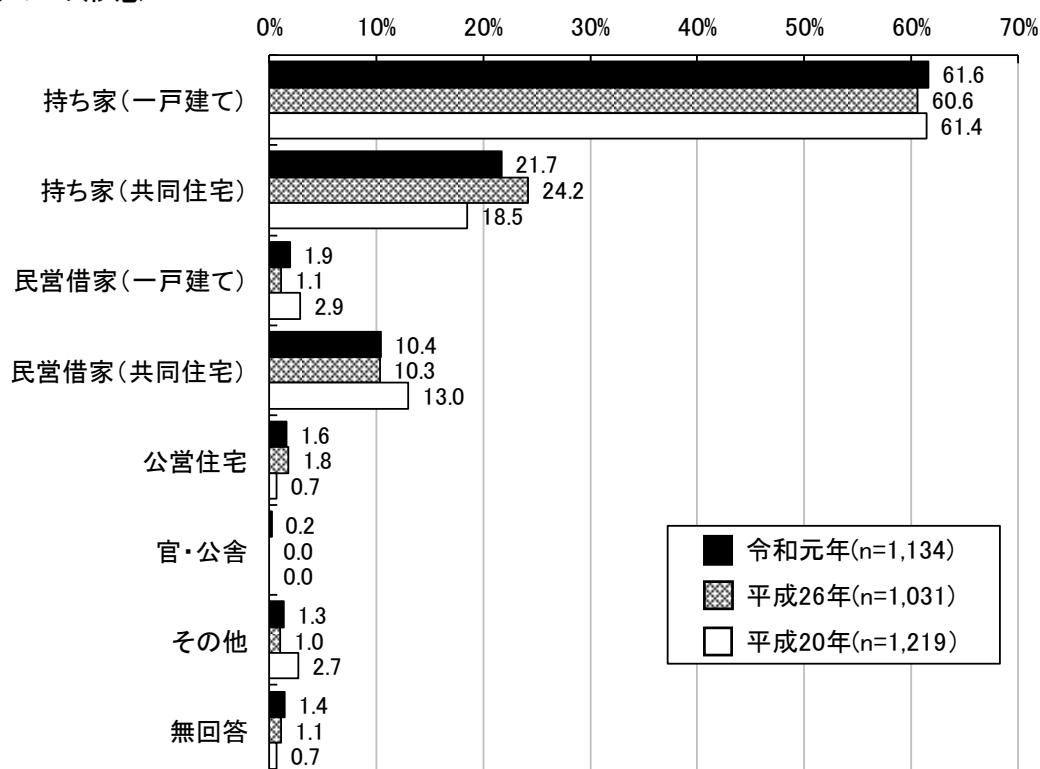
(5) 家族構成



【住まいの地域別】 家族構成



(6) 住まいの形態



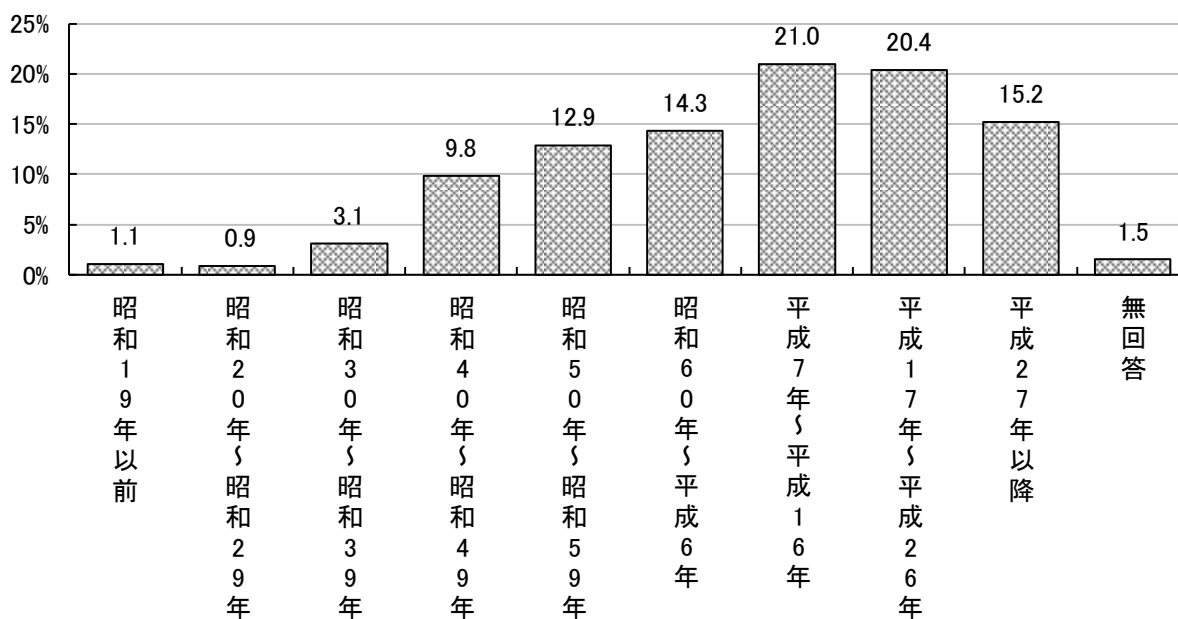
※平成20年調査まで調査項目であった「公社・公団の共同住宅」は、平成26年調査より削除されたため、過去データ分は「その他」へ分類している。

【住まいの地域別】住まいの形態

	%	全 体 【 実 数 】	住まいの形態							
			持ち家 (一戸建て)	持ち家 (共同住宅)	民営借家 (一戸建て)	民営借家 (共同住宅)	公営住宅	官・公舎	その他	無回答
全体		1,134	61.6	21.7	1.9	10.4	1.6	0.2	1.3	1.4
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	49	85.7	-	4.1	8.2	2.0	-	-	-
	座間	74	68.9	9.5	-	9.5	5.4	-	5.4	1.4
	入谷・入谷東・明王	171	59.1	27.5	1.2	9.4	0.6	-	1.2	1.2
	立野台	46	69.6	4.3	2.2	13.0	8.7	-	2.2	-
	緑ヶ丘	59	78.0	8.5	5.1	6.8	-	-	1.7	-
	相武台・栗原・広野台	137	48.9	29.2	0.7	16.8	0.7	1.5	0.7	1.5
	相模が丘	193	55.4	29.0	2.6	13.0	-	-	-	-
	小松原	46	60.9	30.4	-	6.5	-	-	2.2	-
	ひばりが丘	120	61.7	24.2	0.8	7.5	1.7	-	2.5	1.7
	東原・さがみ野	100	55.0	22.0	3.0	14.0	5.0	-	1.0	-
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	73.8	18.3	1.6	5.6	-	-	0.8	-
	無回答	13	15.4	7.7	7.7	-	-	-	-	69.2

(7) 在住年数

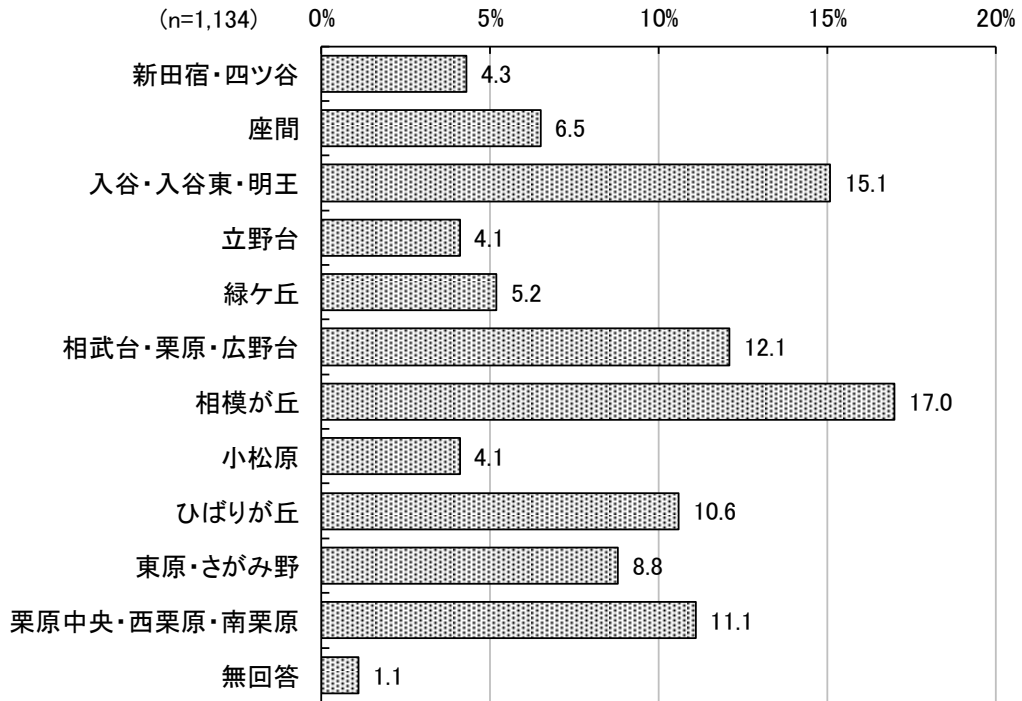
(n=1,134)



【住まいの地域別】在住年数

%	全体【実数】	昭和19年以前	昭和20年～昭和29年	昭和30年～昭和39年	昭和40年～昭和49年	昭和50年～昭和59年	昭和60年～平成6年	平成7年～平成16年	平成17年～平成26年	平成27年以降	無回答	
		全体	1,134	1.1	0.9	3.1	9.8	12.9	14.3	21.0	20.4	15.2
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	49	4.1	-	6.1	8.2	12.2	16.3	14.3	22.4	14.3	2.0
	座間	74	1.4	5.4	9.5	2.7	9.5	12.2	20.3	14.9	21.6	2.7
	入谷・入谷東・明王	171	1.2	1.8	0.6	11.7	18.1	14.0	18.7	15.8	17.5	0.6
	立野台	46	-	-	4.3	15.2	8.7	19.6	17.4	19.6	13.0	2.2
	緑ヶ丘	59	-	1.7	1.7	10.2	16.9	16.9	11.9	27.1	13.6	-
	相武台・栗原・広野台	137	0.7	-	2.9	8.8	13.1	8.0	22.6	21.9	21.2	0.7
	相模が丘	193	0.5	0.5	4.7	8.8	8.3	13.5	27.5	25.9	9.8	0.5
	小松原	46	2.2	-	2.2	2.2	26.1	21.7	21.7	15.2	8.7	-
	ひばりが丘	120	-	0.8	3.3	14.2	11.7	13.3	22.5	21.7	11.7	0.8
	東原・さがみ野	100	1.0	-	1.0	8.0	9.0	17.0	24.0	21.0	19.0	-
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	2.4	-	1.6	13.5	13.5	15.9	19.0	17.5	15.9	0.8
	無回答	13	-	-	-	-	15.4	15.4	-	7.7	-	61.5

(8) 住まいの地域

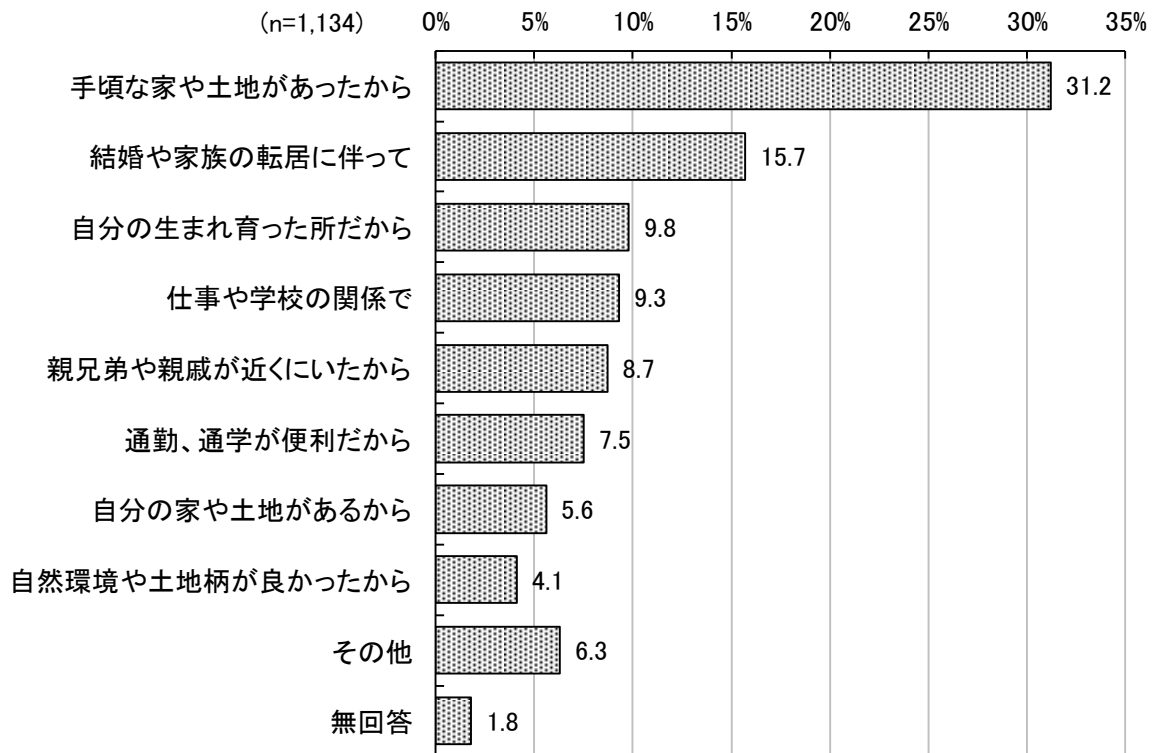


2 生活環境について

(1) 座間市に住んだ理由

問9 あなたが座間市に住んだ主な理由は何ですか。
【〇は1つ】

座間市に住んだ理由を聞いた結果、最も多かったのは、「手ごろな家や土地があったから」(31.2%)であった。次いで、「結婚や家族の転居に伴って」(15.7%)、「自分の生まれ育った所だから」(9.8%)、「仕事や学校の関係で」(9.3%)が続く。



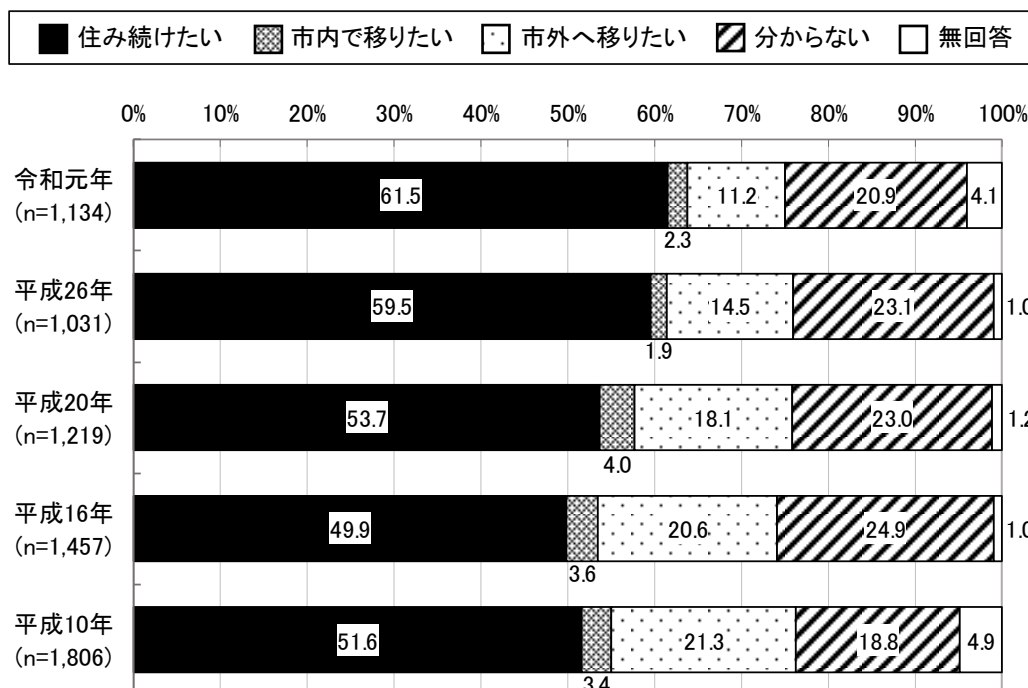
(2) 定住意識

問10 今後も今の場所に住み続けたいと思いますか。
【〇は1つ】

これからも今の場所に住み続けたいかを聞いた結果、最も多かったのは、「住み続けたい」(61.5%)であった。次いで、「分からない」(20.9%)、「市外へ移りたい」(11.2%)、「市内で移りたい」(2.3%)が続く。

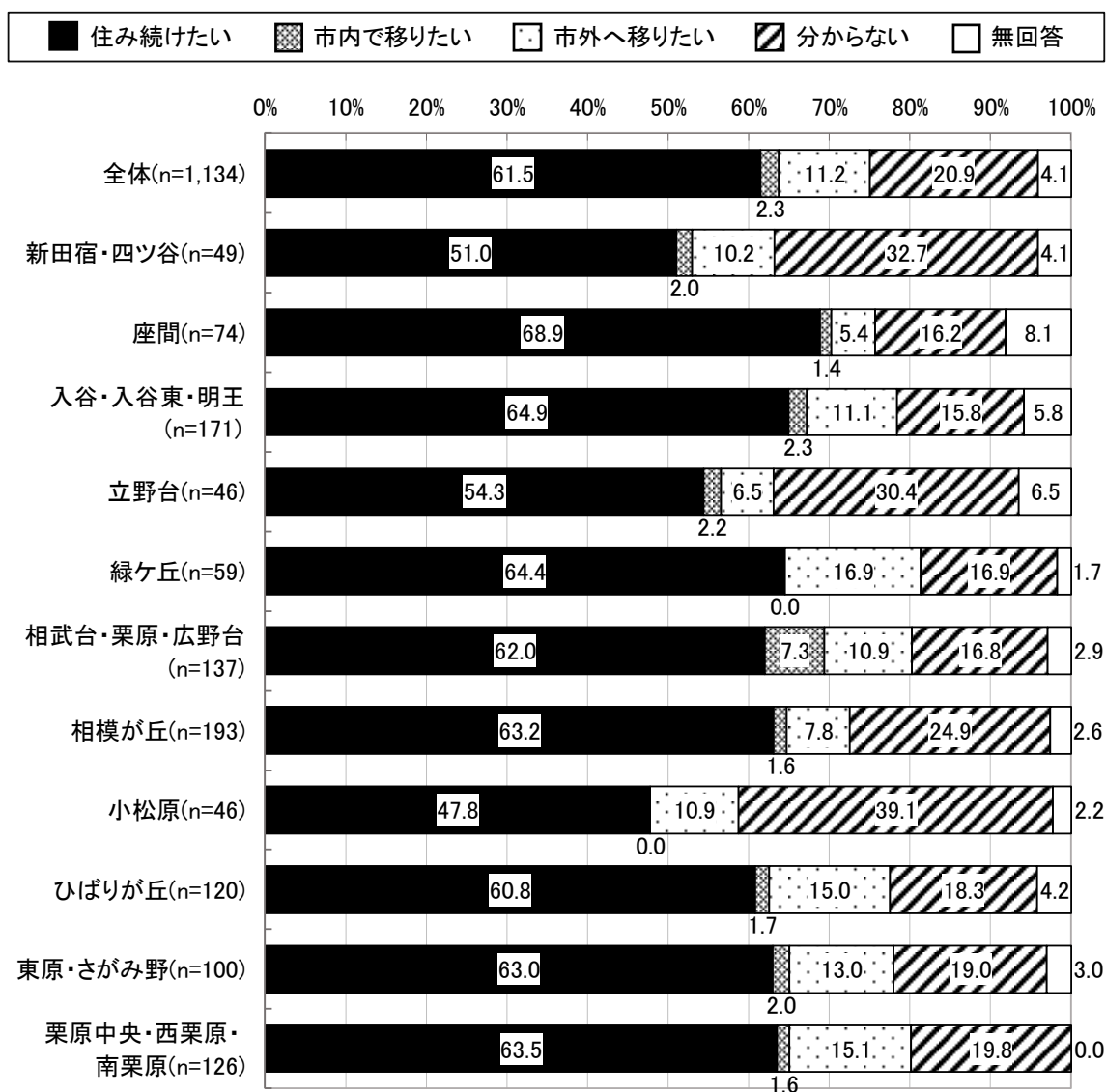
過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は前回(平成26年)の調査より 2.0 ポイント引き続き増加傾向がみられる。反対に「市外へ移りたい」は 3.3 ポイントの減少となっている。

また、「市内で移りたい」は、前回(平成26年)の調査より 0.4 ポイント増加となっている。



【住まいの地域別】定住意識

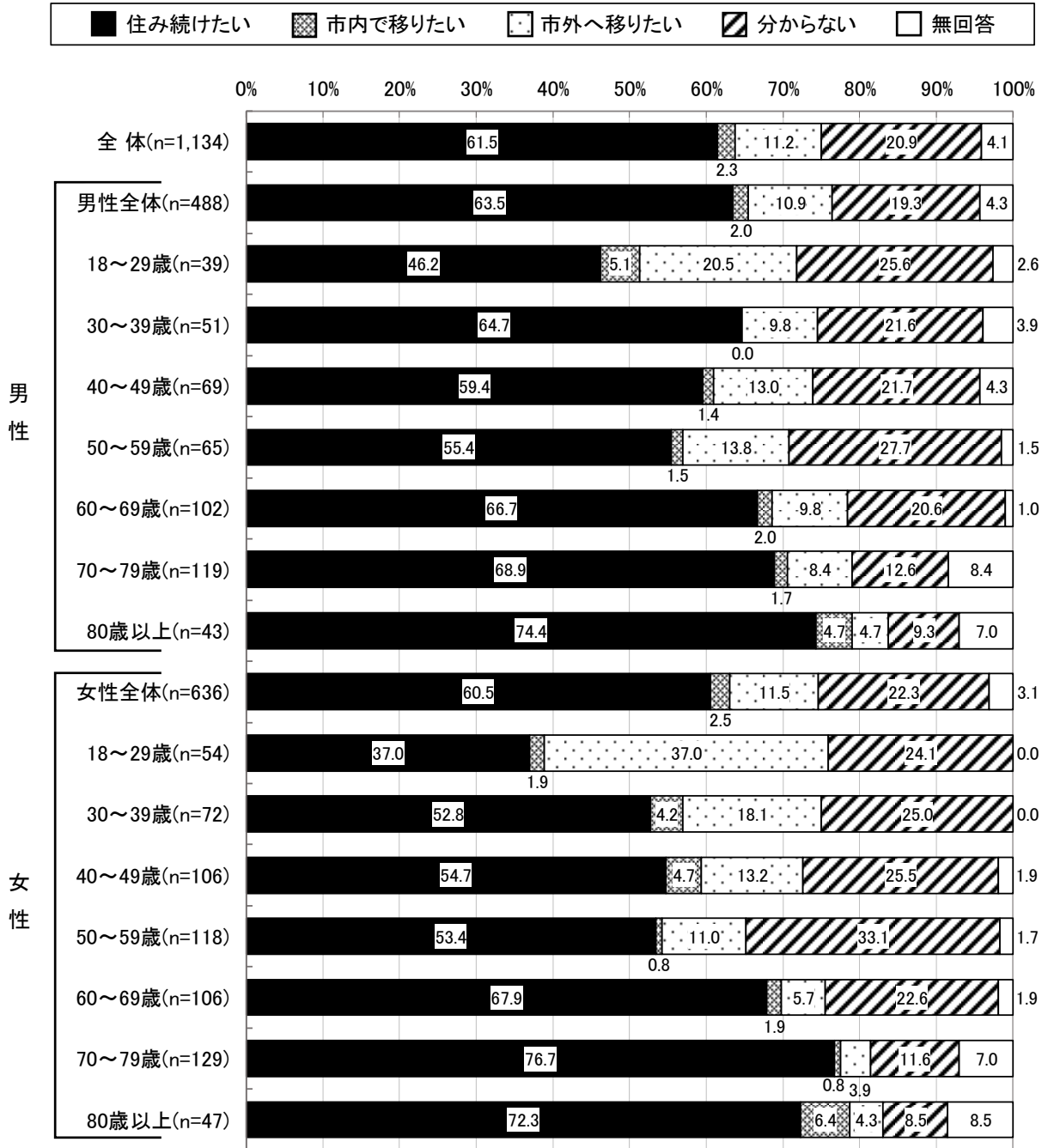
住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率が高い地域は座間(68.9%)であった。次いで入谷・入谷東・明王(64.9%)、緑ヶ丘(64.4%)と続く。最も低い比率は小松原(47.8%)であり、次いで新田宿・四ツ谷(51.0%)が続く結果となった。



【性別・年齢別】定住意識

性別・年齢別にみると、男女とも60歳代から80歳以上で「住み続けたい」比率が高く、高齢になると定住意向が高まる傾向がみられる。

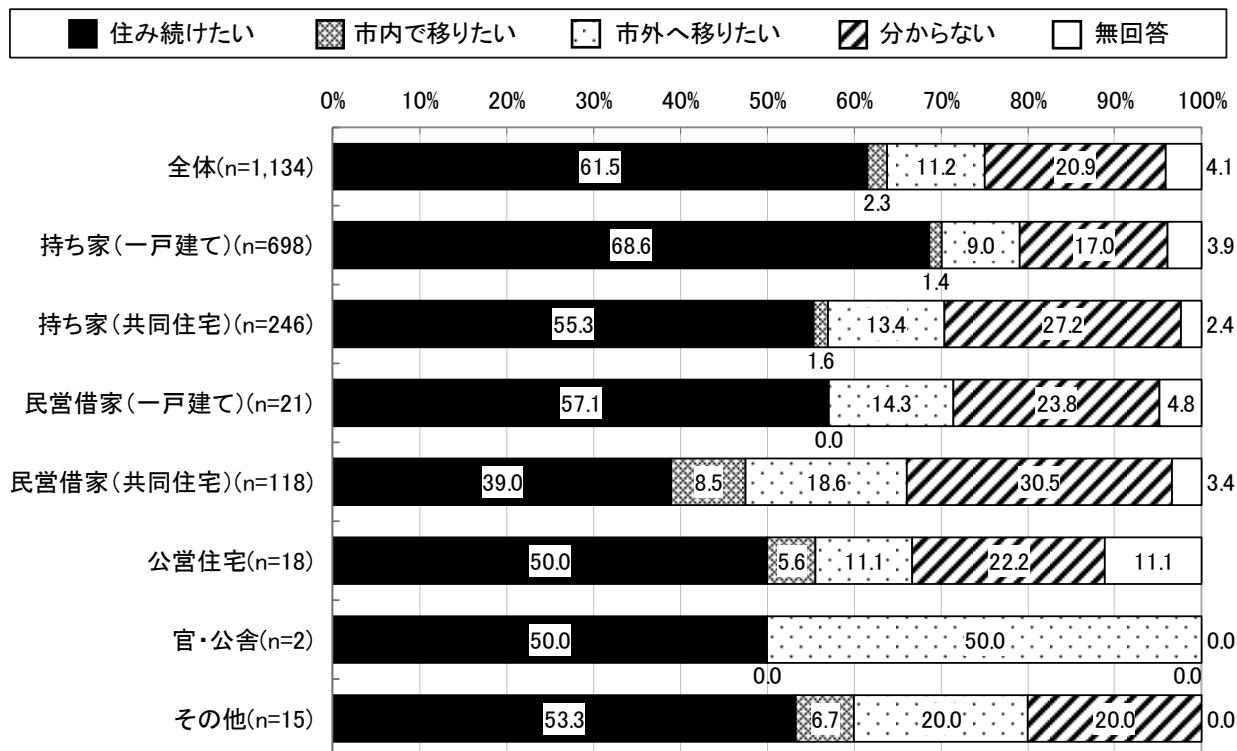
「住み続けたい」比率を男性と女性で比べると、60～69歳と70～79歳以外のすべての年代で、女性が男性を下回っており、男性に比べて女性の定住意向が低い傾向がみられる。



【住まいの形態別】定住意識

住まいの形態別にみると、持ち家の方が民営借家よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。また、持ち家、民営借家ともに、一戸建ての方が共同住宅よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。

※ただし、「民営借家（一戸建て）」、「公営住宅」、「官・公舎」はサンプル数が少ないため、極端な結果になりやすいことに留意する必要がある。



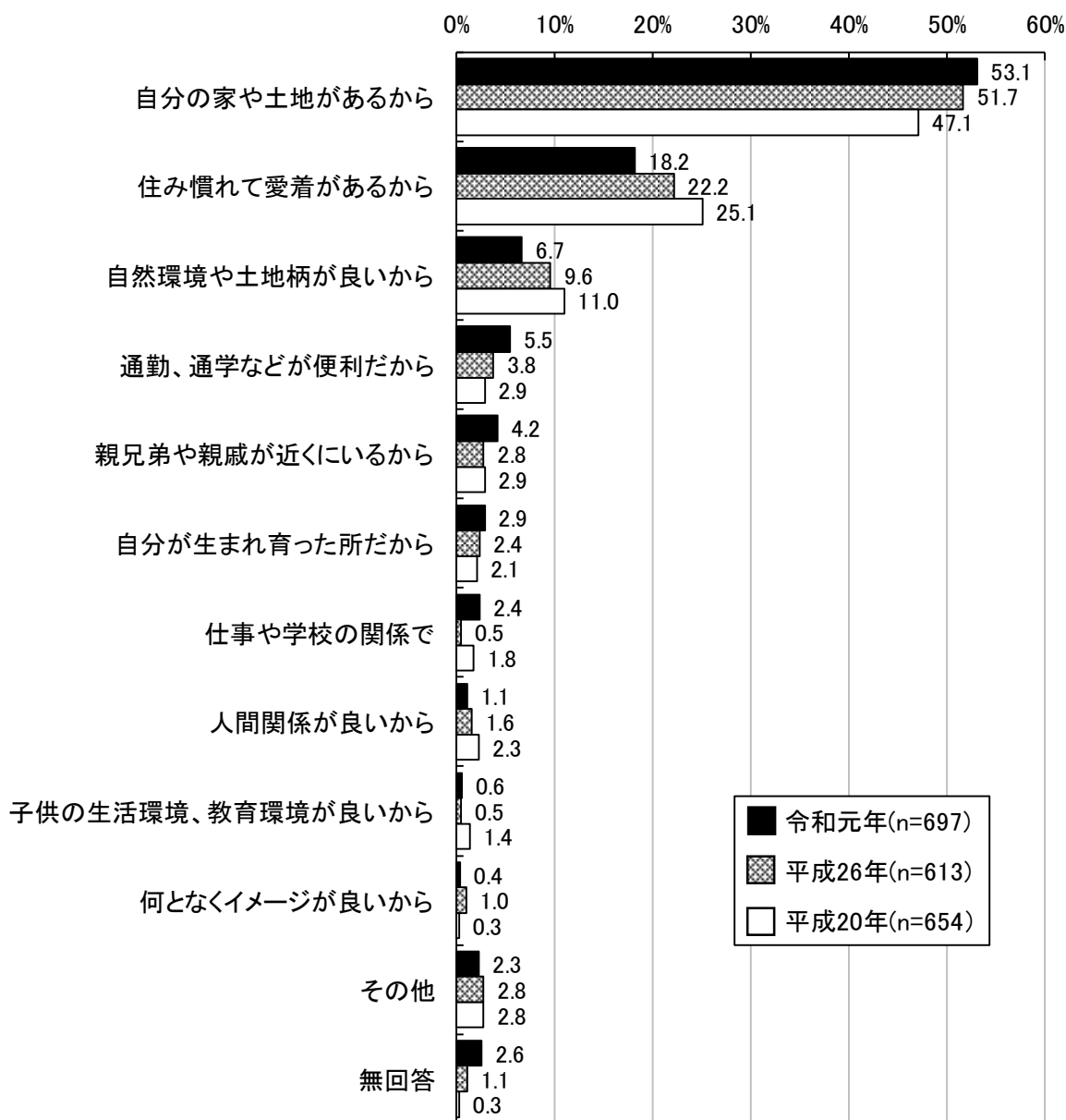
(3) 今の場所に住み続けたい理由

問11 問10で「1 住み続けたい」を選択された方に伺います。今の場所に住み続けたい理由は何ですか。【〇は1つ】

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果、最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(53.1%)であった。次いで、「住み慣れて愛着があるから」(18.2%)、「自然環境や土地柄が良いから」(6.7%)、「通勤、通学などが便利だから」(5.5%)、「親兄弟や親戚が近くにいるから」(4.2%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「自分の家や土地があるから」の比率は前回(平成26年)より高まり、増加傾向にある。また、「住みなれて愛着があるから」と「自然環境や土地柄がよいから」は前回よりもやや低い比率となり、年々低下傾向にある。

そのほか、「通勤、通学などが便利だから」、「自分が生まれ育った所だから」は年々比率が高くなる傾向にあり、「人間関係が良いから」は年々比率が低くなっていく傾向がみられる。



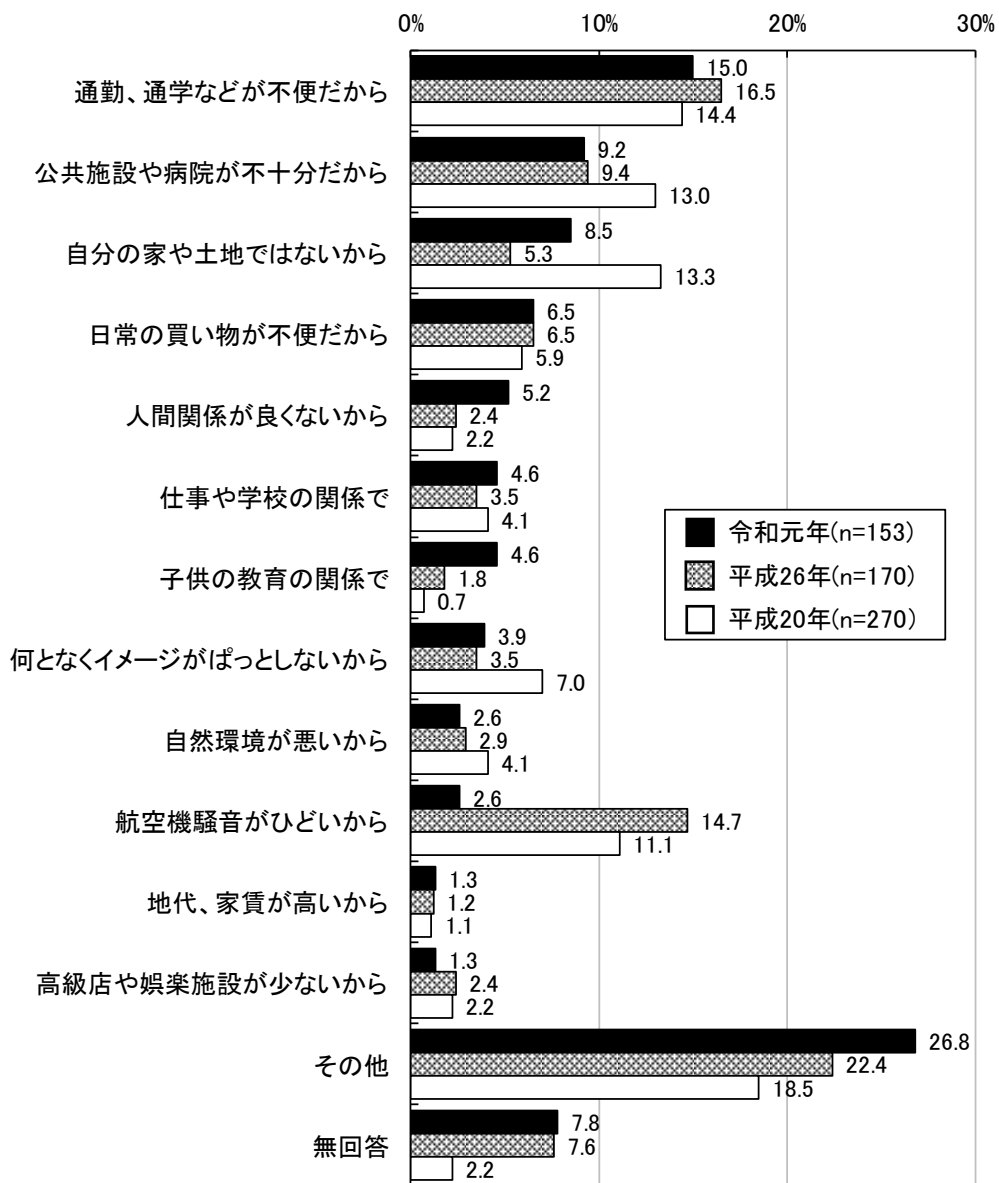
(4) 他のところに移りたい主な理由

問12 問10で「2 市内で移りたい」または「3 市外へ移りたい」を選択された方に伺います。他の場所へ移りたい主な理由は何ですか。【〇は1つ】

他のところに移りたい主な理由を聞いた結果、最も多かったのは、「通勤・通学などが不便だから」(15.0%)であった。次いで、「公共施設や病院が不十分だから」(9.2%)、「自分の家や土地ではないから」(8.5%)、「日常の買い物が不便だから」(6.5%)、「人間関係が良くないから」(5.2%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「人間関係が良くないから」、「子どもの教育の関係で」、「地代・家賃が高いから」は年々増加する傾向にある。反対に、「公共施設や病院が不十分だから」、「自然環境が悪いから」は減少傾向にある。

また、前回(平成26年)比率が高かった「航空機騒音がひどいから」は、今回(令和元年)では大幅に低下している。

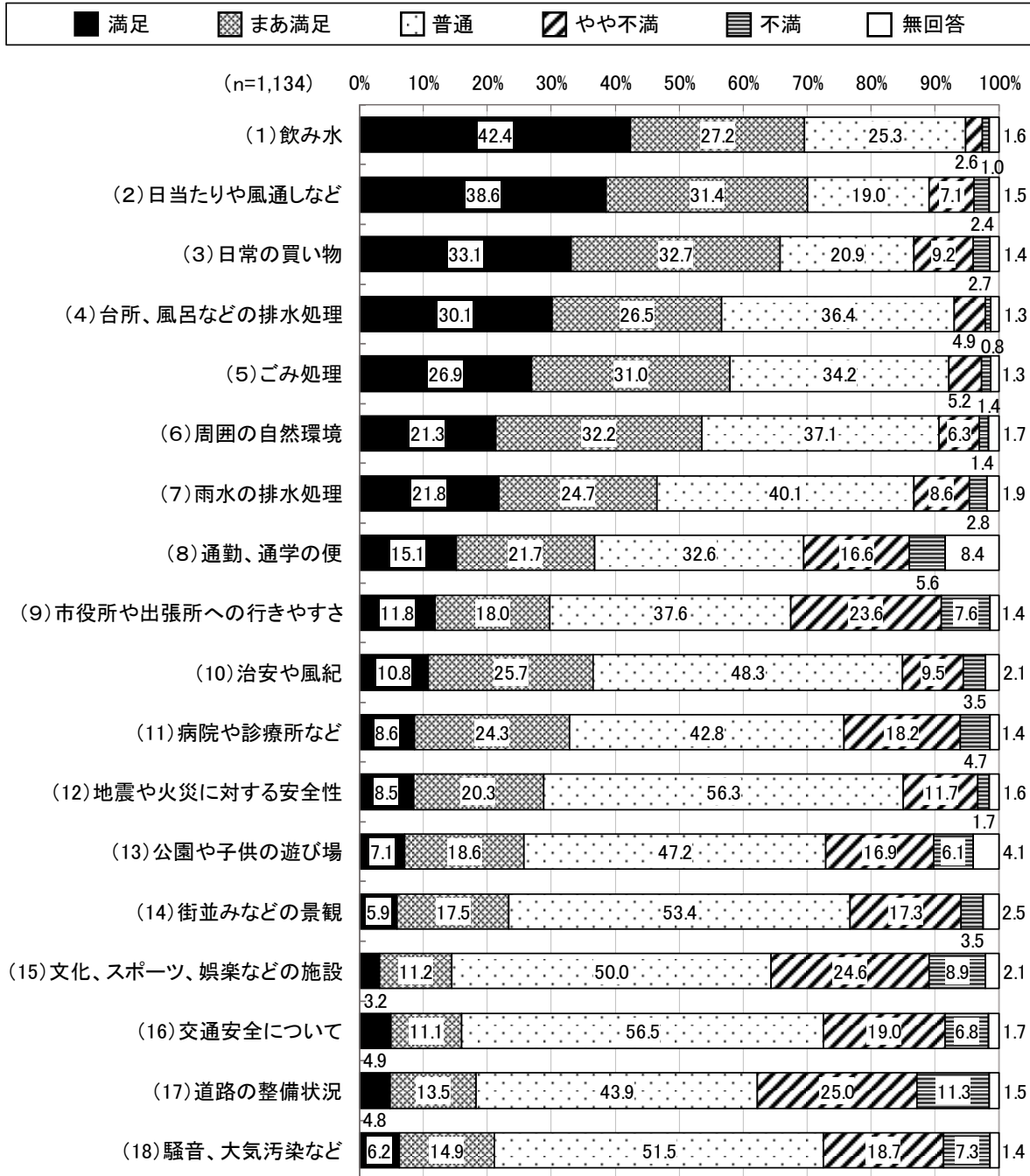


(5) 住まいの周辺環境についての満足度

問13 お住まいの周辺の環境にどの程度満足されていますか。当てはまる番号をそれぞれ1つ選んでください。【1つの項目について、○は1つずつ】

周辺環境を下記の18項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-（「やや不満」+「不満」）の比率を《住まいの周辺環境についての満足度》とすると、30ポイントを超える評価だった項目は、評価が高い順に「(1) 飲み水」、「(2) 日当たりや風通しなど」、「(3) 日常の買い物」、「(5) ごみ処理」、「(4) 台所・風呂などの排水処理」、「(6) 周囲の自然環境」、「(7) 雨水の排水処理」の7項目であった。

反対に-30ポイントを下回る評価だった項目はない。

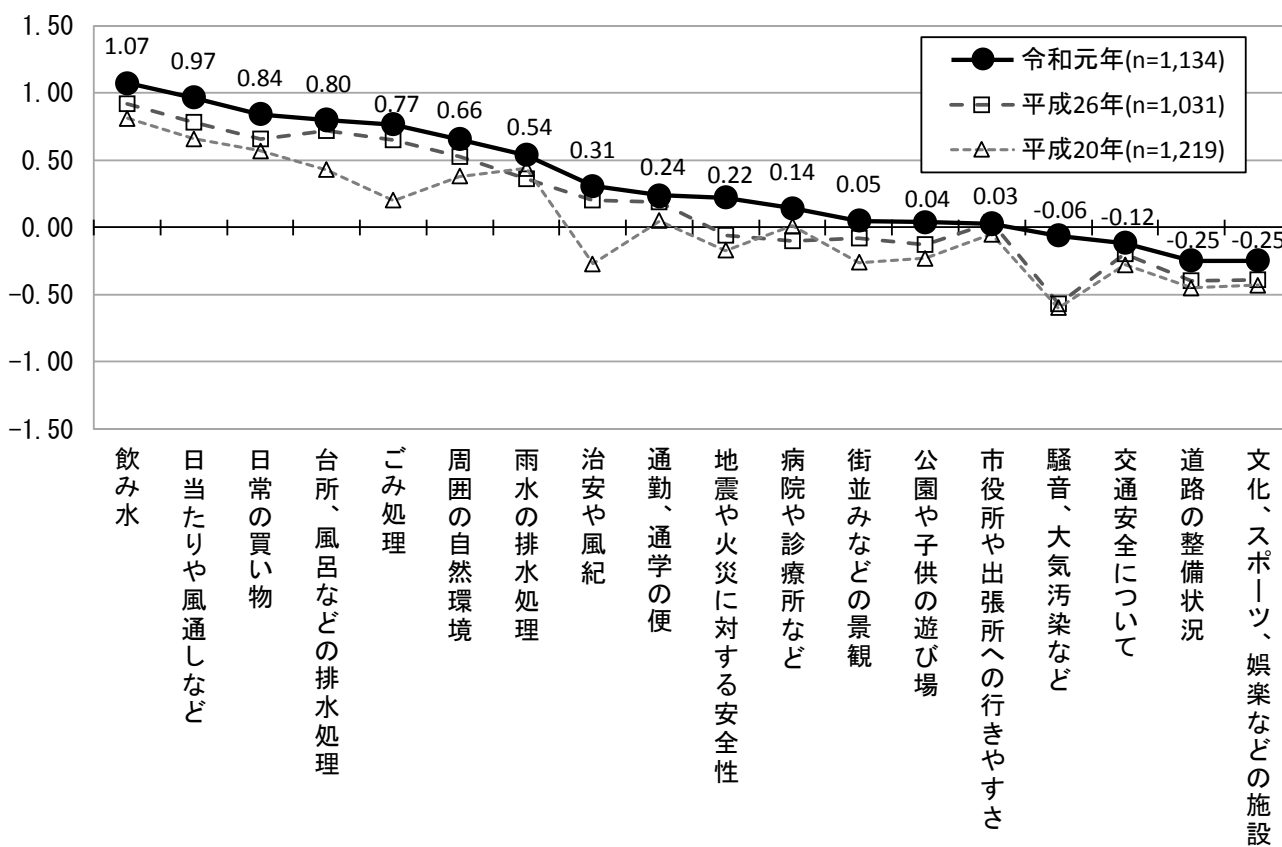


周辺環境を下の評価(加重平均)によって平均点を算出し、今回(令和元年)の調査で平均点の高い順に左から並べて過去の調査と比較したものが下のグラフと表である。

$$\text{平均点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

今回(令和元年)の調査で平均点が高かった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「日常の買い物」などで、低かった項目は、「交通安全について」、「道路の整備状況」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」などであった。

過去の調査結果と平均点を比較すると、ほとんどの項目で今回が最も高くなっており、とくに「地震や火災に対する安全性」と「騒音、大気汚染など」の上昇が目立つ。過去より平均点が低くなったものは、「市役所や出張所への行きやすさ」の1項目であった。

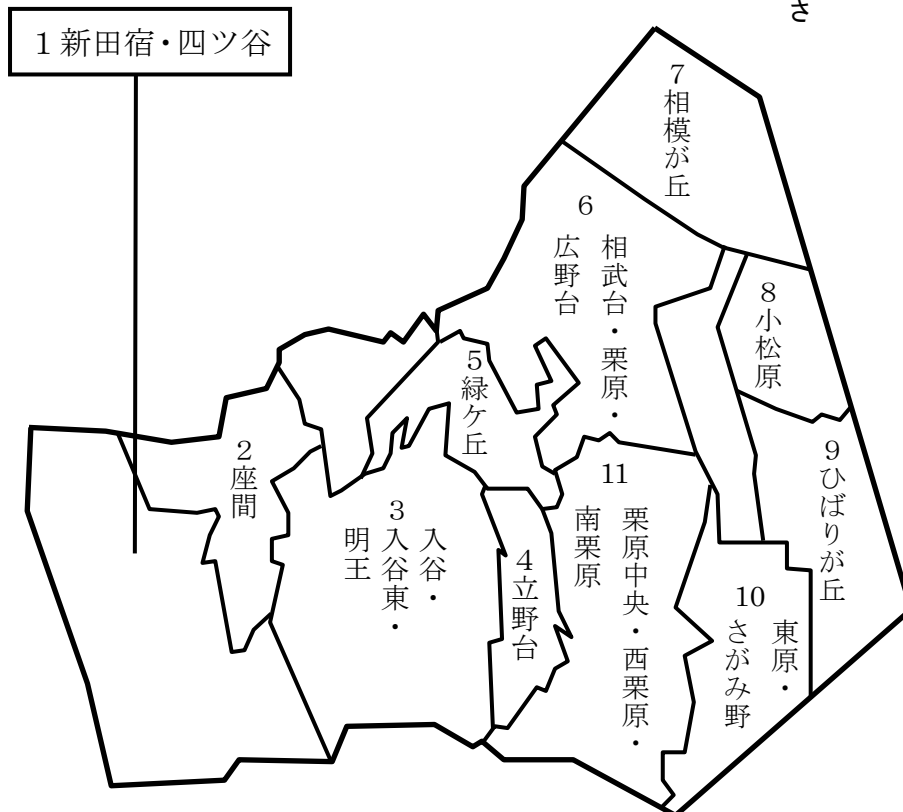
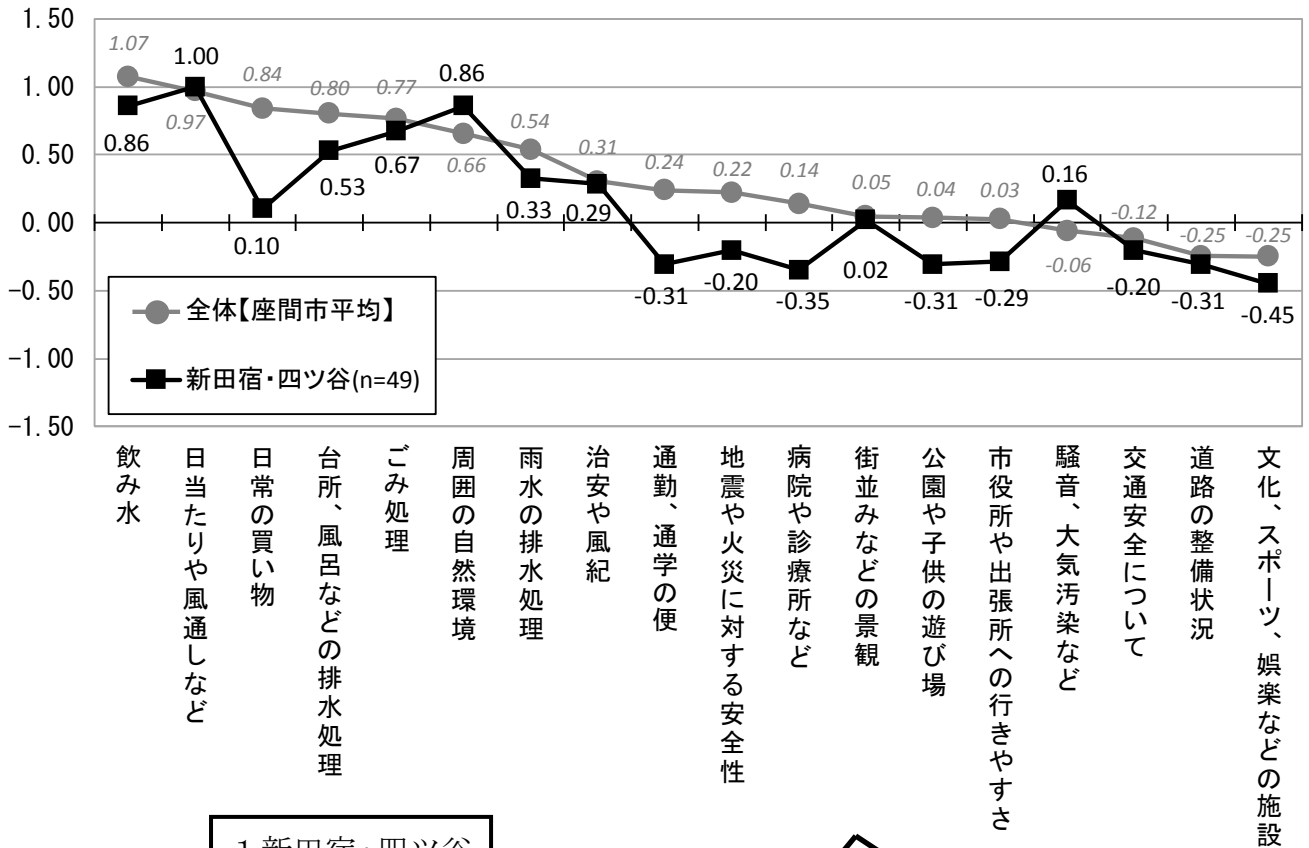


調査項目	飲み水	日当たりや風通しなど	日常の買い物	台所、風呂などの排水処理	ごみ処理	周囲の自然環境	雨水の排水処理	治安や風紀	通勤、通学の便	地震や火災に対する安全性	病院や診療所など	街並みなどの景観	公園や子供の遊び場	市役所や出張所への行きやすさ	騒音、大気汚染など	交通安全について	道路の整備状況	文化、スポーツ、娯楽などの施設
令和元年 (n=1,134)	1.07	0.97	0.84	0.80	0.77	0.66	0.54	0.31	0.24	0.22	0.14	0.05	0.04	0.03	-0.06	-0.12	-0.25	-0.25
平成26年 (n=1,031)	0.92	0.78	0.66	0.72	0.65	0.53	0.36	0.20	0.19	-0.06	-0.10	-0.08	-0.13	0.04	-0.57	-0.20	-0.40	-0.39
平成20年 (n=1,219)	0.81	0.66	0.57	0.43	0.20	0.38	0.44	-0.27	0.05	-0.17	0.01	-0.26	-0.23	-0.05	-0.60	-0.28	-0.45	-0.43

今回(令和元年)の調査の平均点を各住まいの地域(11地域)別にみると、以下のようになる。

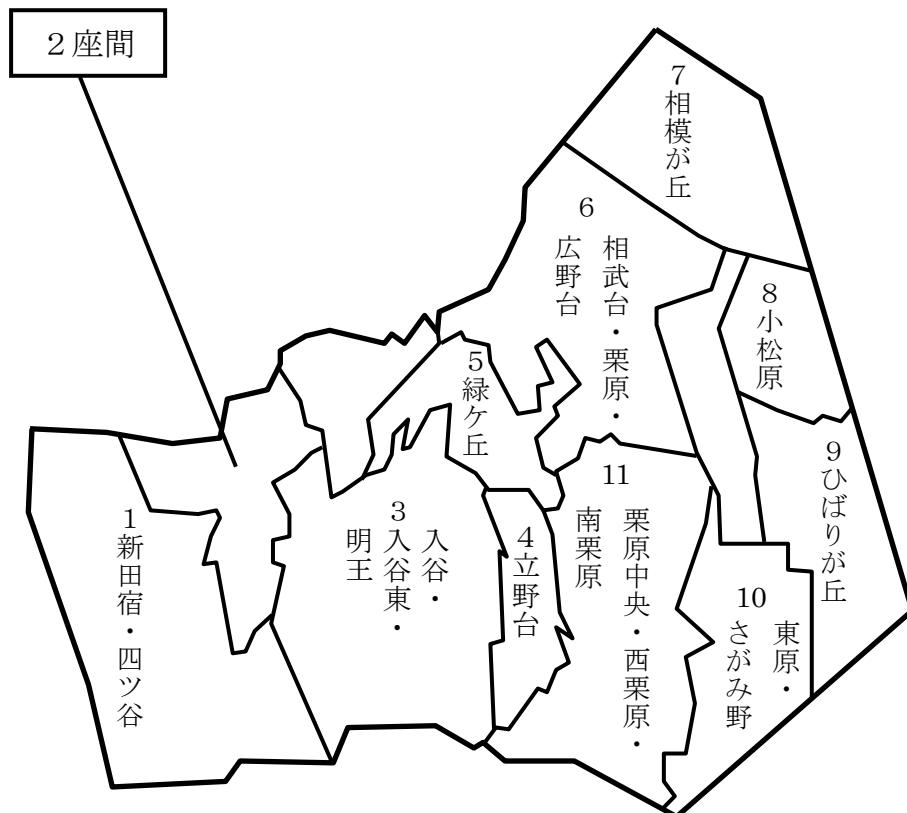
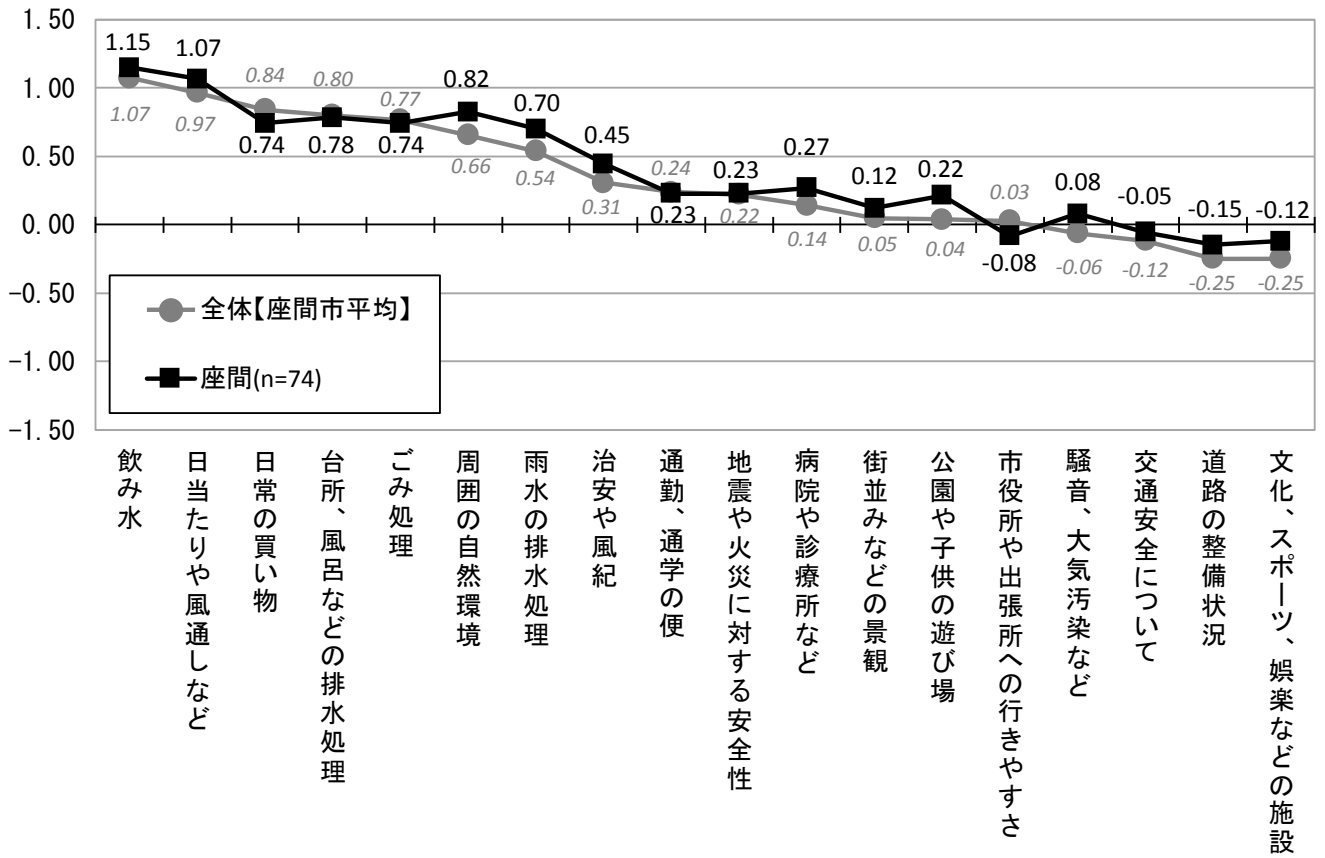
【新田宿・四ツ谷地区】

新田宿・四ツ谷地域で全体より比較的评价が高かった項目は「日当たりや風通しなど」、「周囲の自然環境」、「騒音、大気汚染など」などで、評価が低かったのは「日常の買い物」、「通勤通学の便」、「病院や診療所など」、「公園や子供の遊び場」、「市役所や出張所への行きやすさ」などであった。



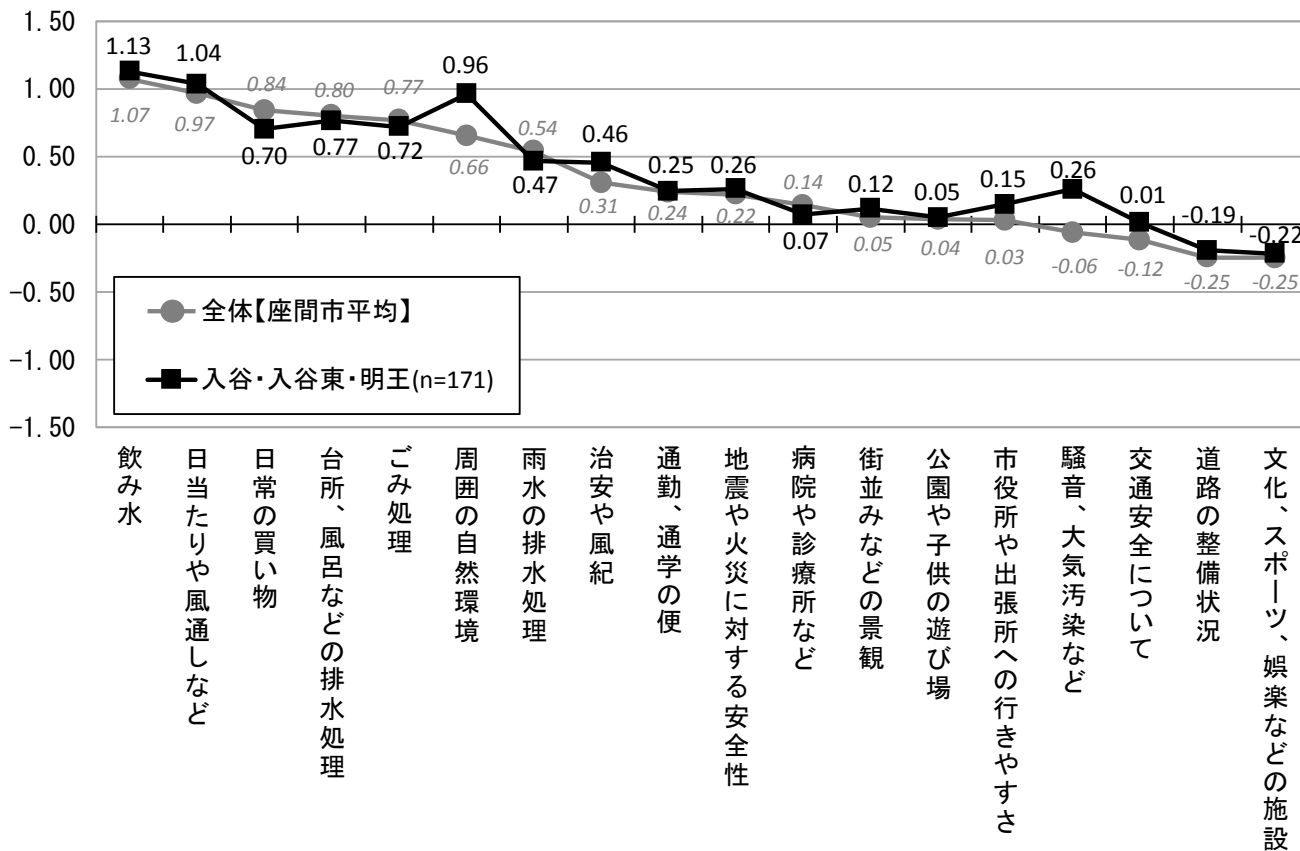
【座間地区】

座間地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「周囲の自然環境」、「雨水の排水処理」、「公園や子供の遊び場」などで、評価が低かったのは「日常の買い物」、「市役所や出張所への行きやすさ」であった。



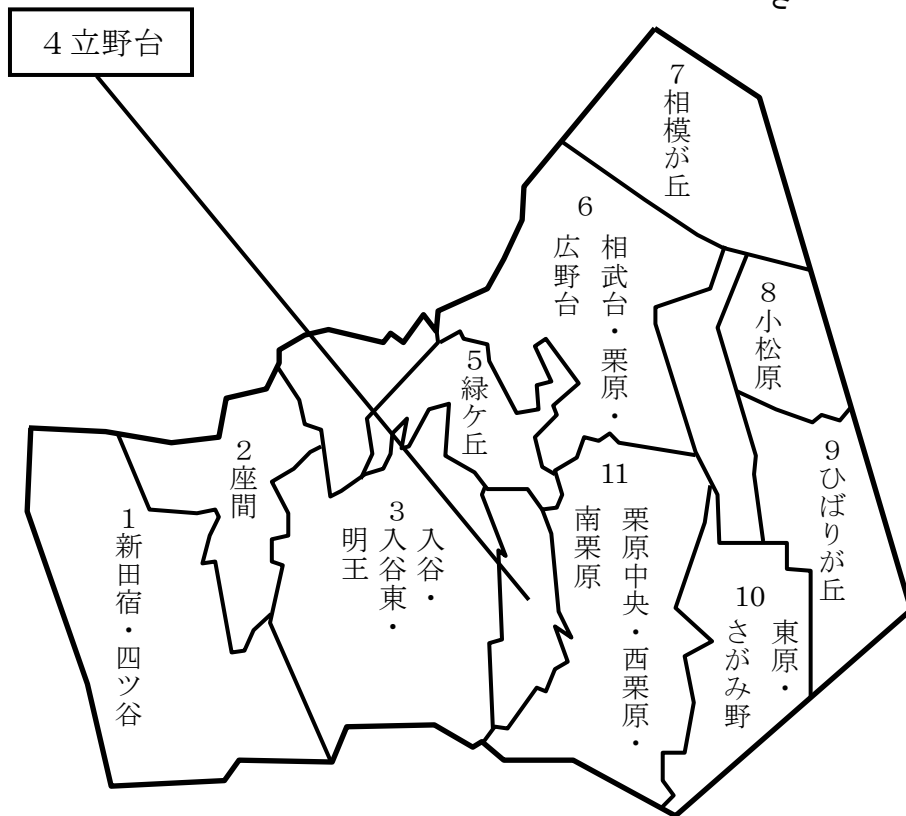
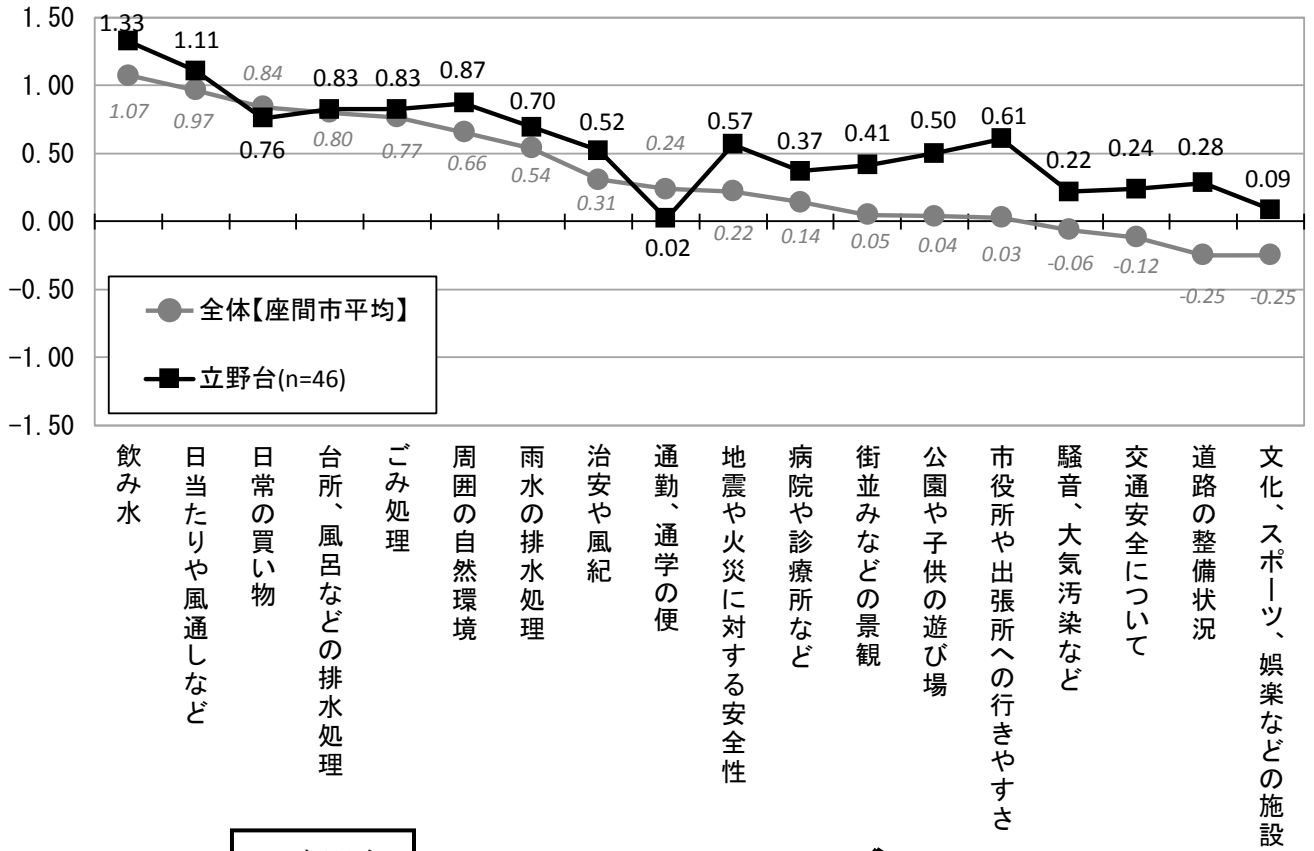
【入谷・入谷東・明王地区】

入谷・入谷東・明王地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「周囲の自然環境」、「騒音、大気汚染など」などで、評価が低かったのは「日常の買い物」、「病院や診療所など」などであった。



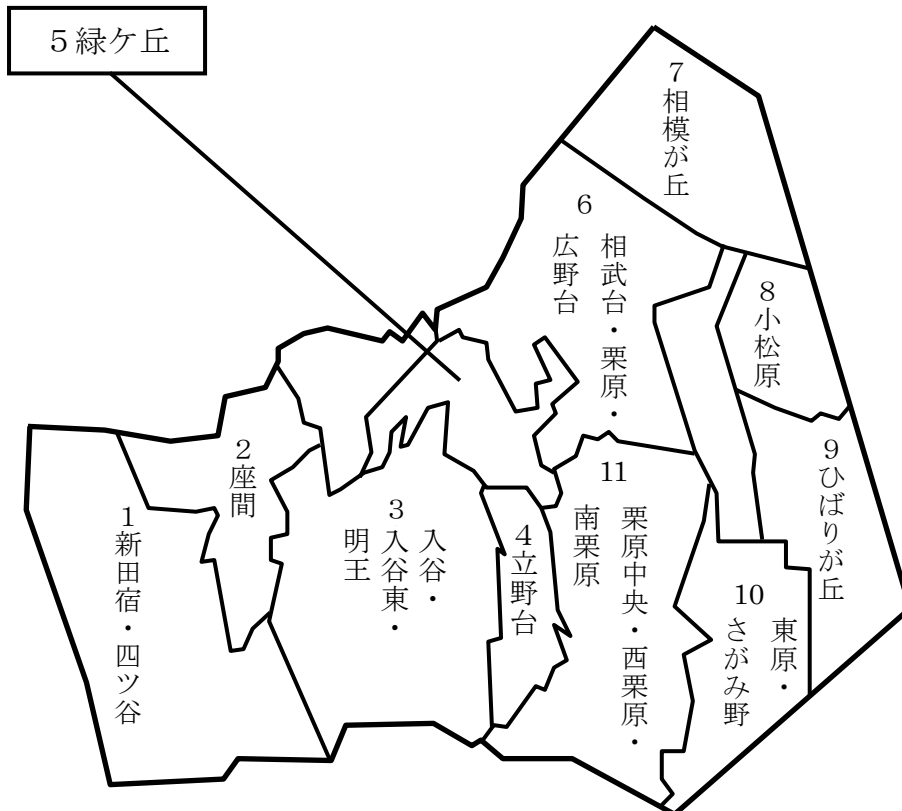
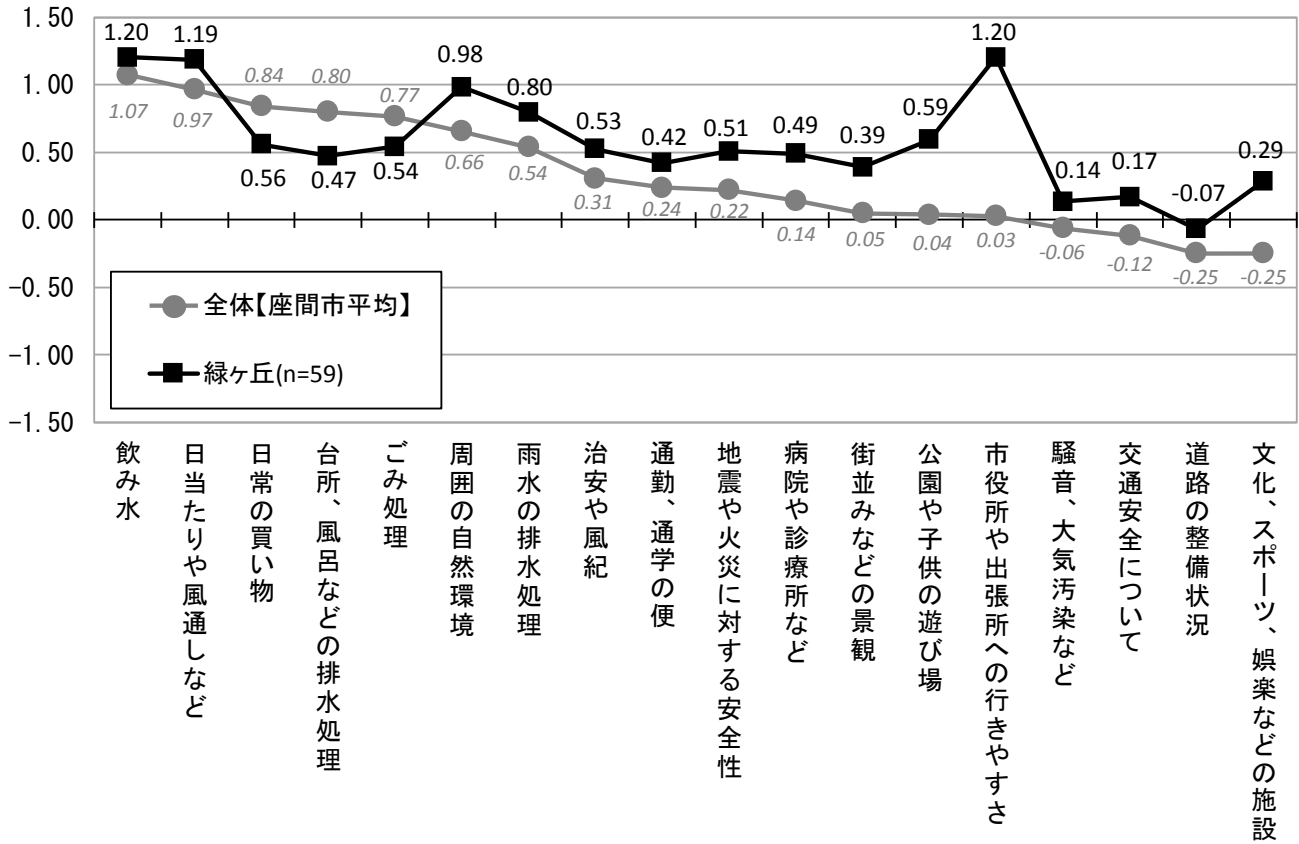
【立野台地区】

立野台地域では、18項目中16項目で全体より評価が高く、評価が低かったのは「日常の買い物」、「通勤、通学の便」であった。高かった項目の中でも、特に「地震や火災に対する安全性」、「公園や子どもの遊び場」、「市役所や出張所への行きやすさ」などの高さが目立つ。



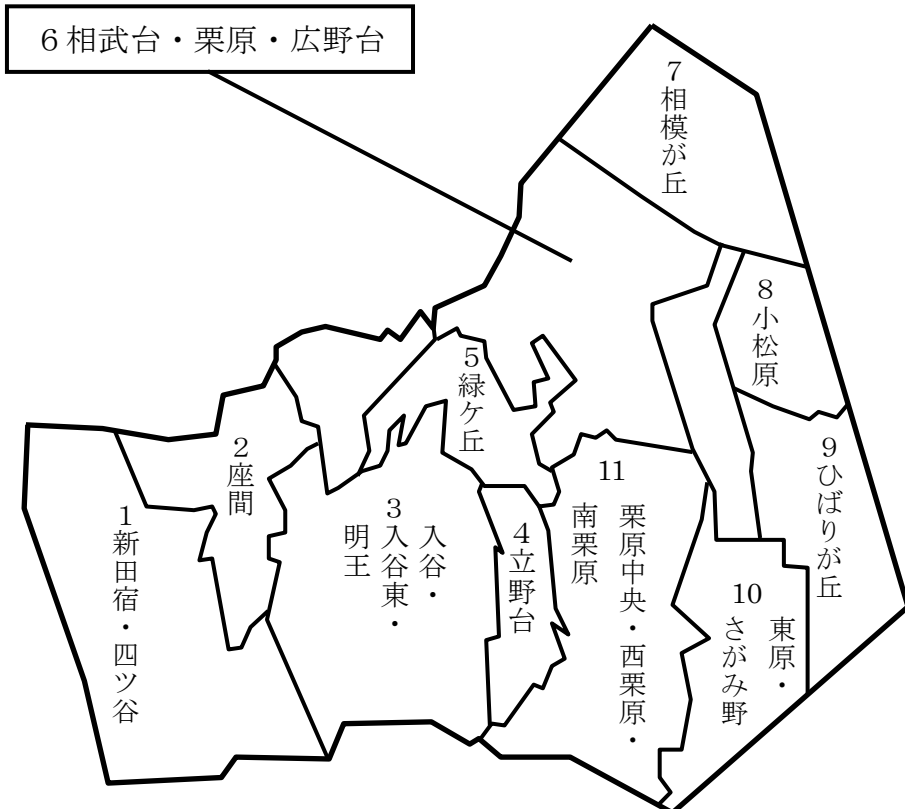
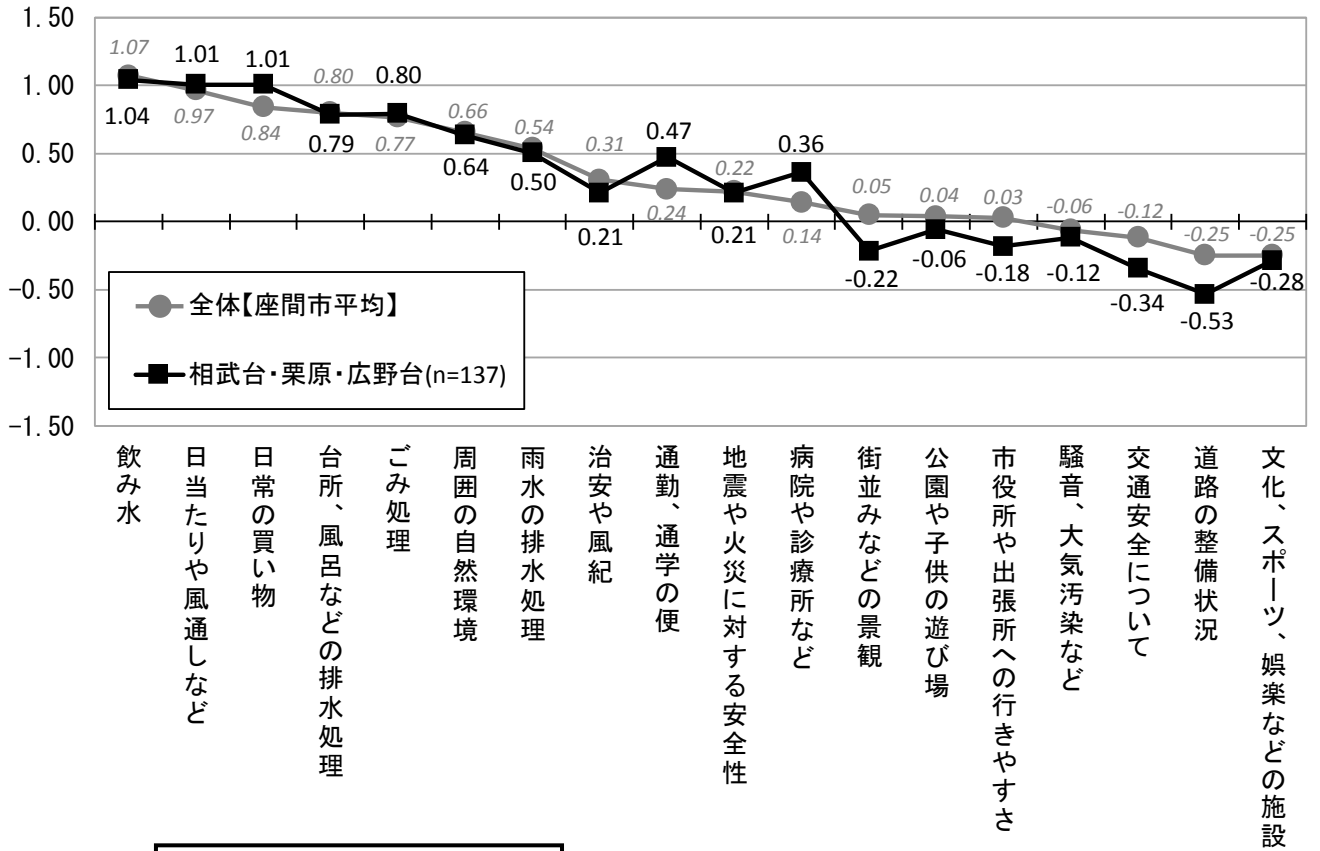
【緑ヶ丘地区】

緑ヶ丘地域では、18項目中15項目で全体より評価が高く、評価が低かったのは「日常の買い物」、「台所、風呂などの排水処理」「ごみ処理」であった。高かった項目の中でも、特に「公園や子供の遊び場」、「市役所や出張所への行きやすさ」、「文化、スポーツ、娯楽などの施設」などの高さが目立つ。



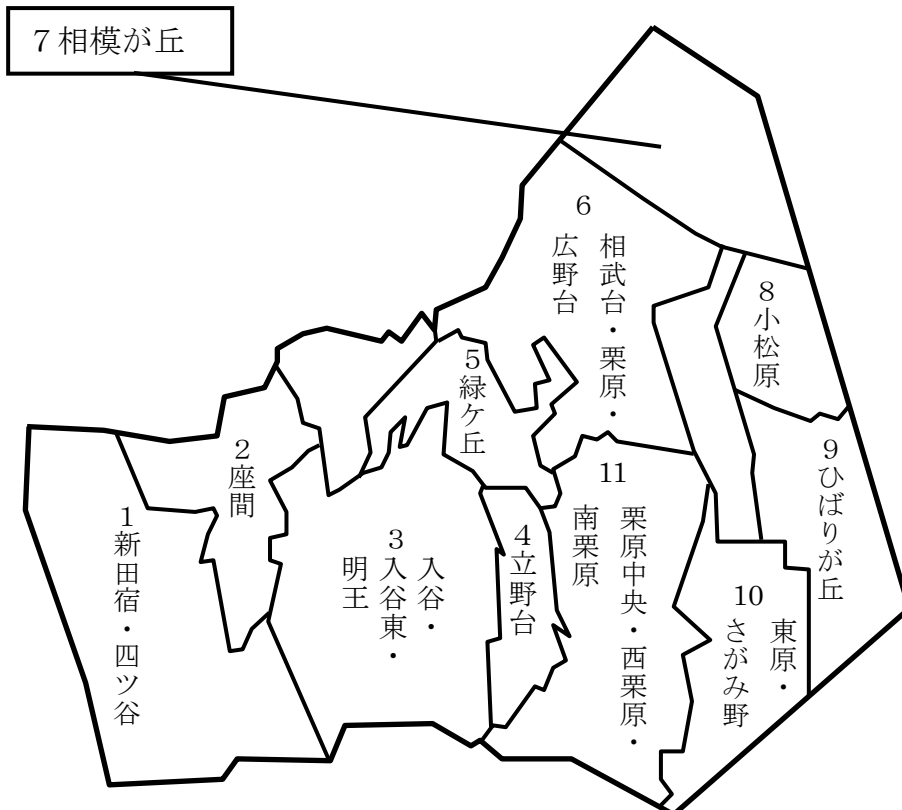
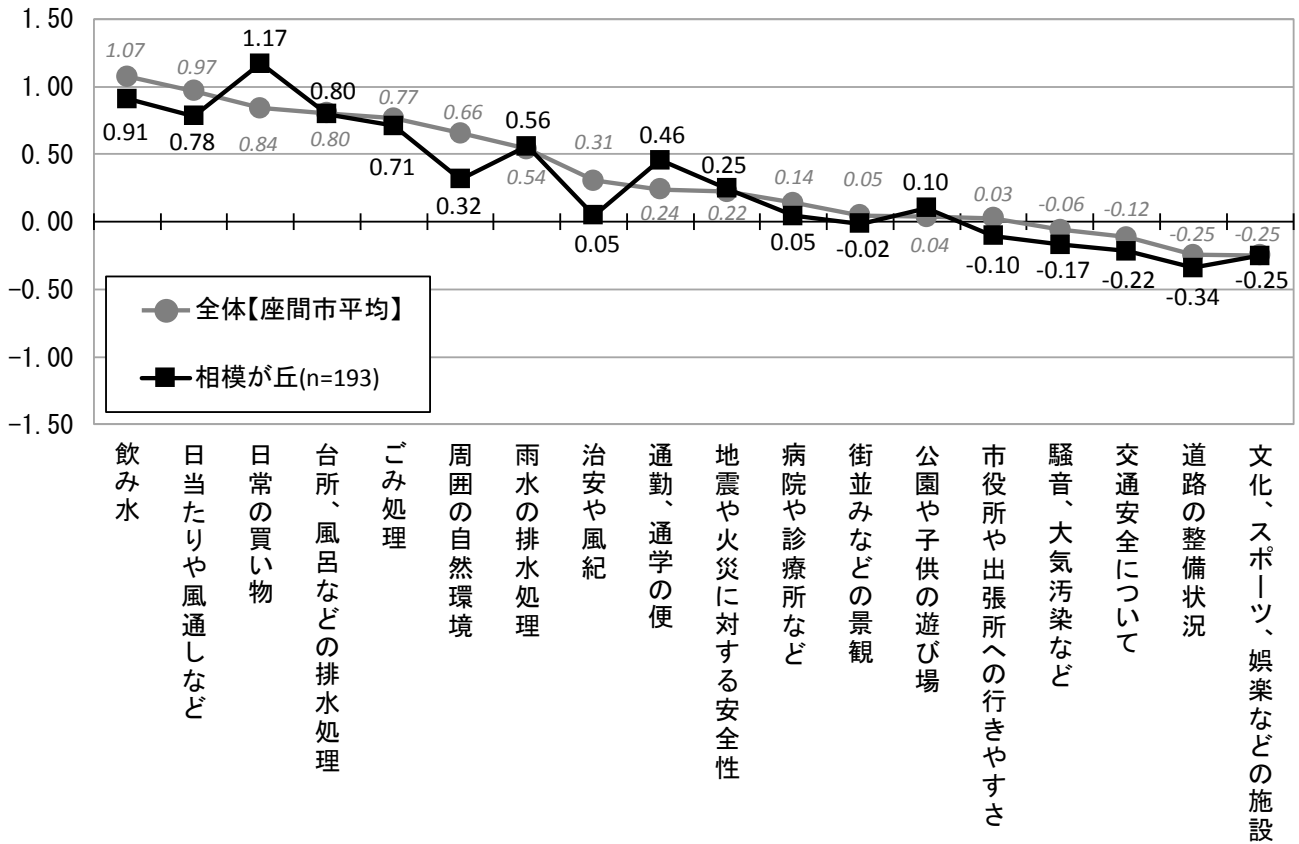
【相武台・栗原・広野台地区】

相武台・栗原・広野台地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「日常の買い物」、「通勤、通学の便」、「病院や診療所など」などで、評価が低かったのは「街並みなどの景観」、「交通安全について」、「道路の整備状況」などであった。



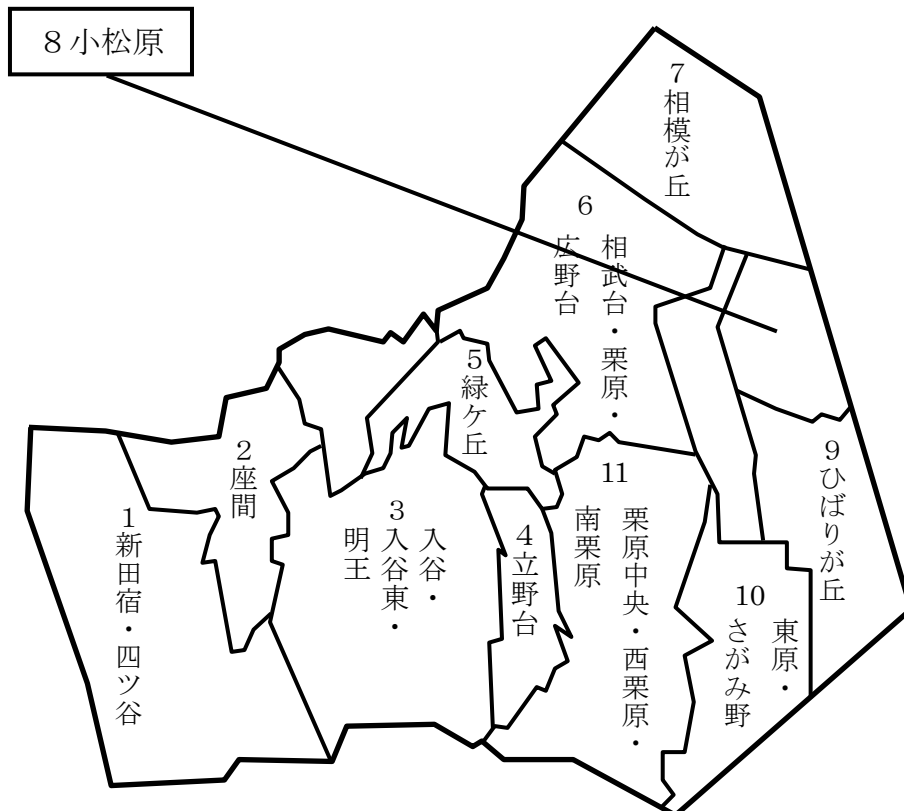
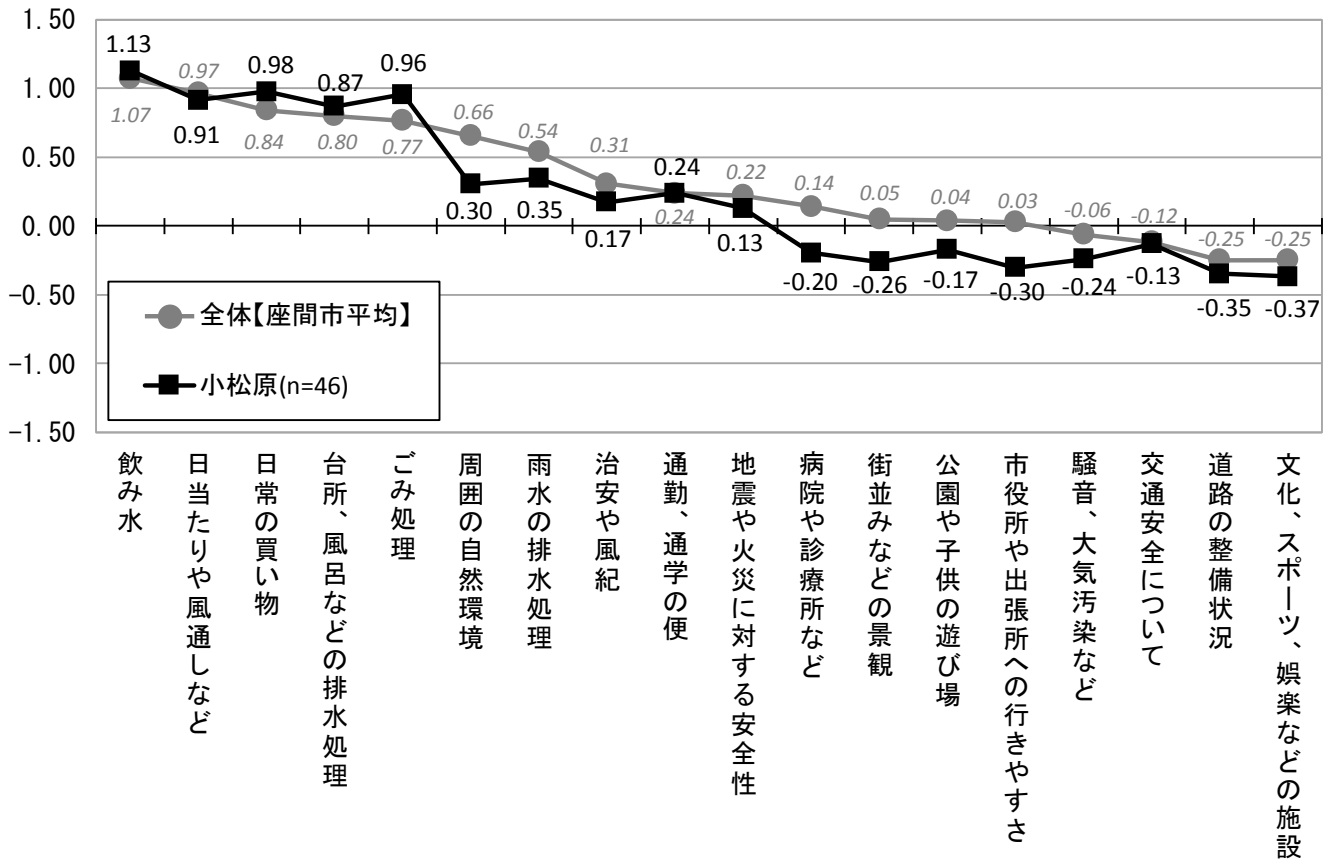
【相模が丘地区】

相模が丘地域で全体より評価が高かった項目は「日常の買い物」、「通勤・通学の便」などで、評価が低かったのは、「周囲の自然環境」、「治安や風紀」などであった。



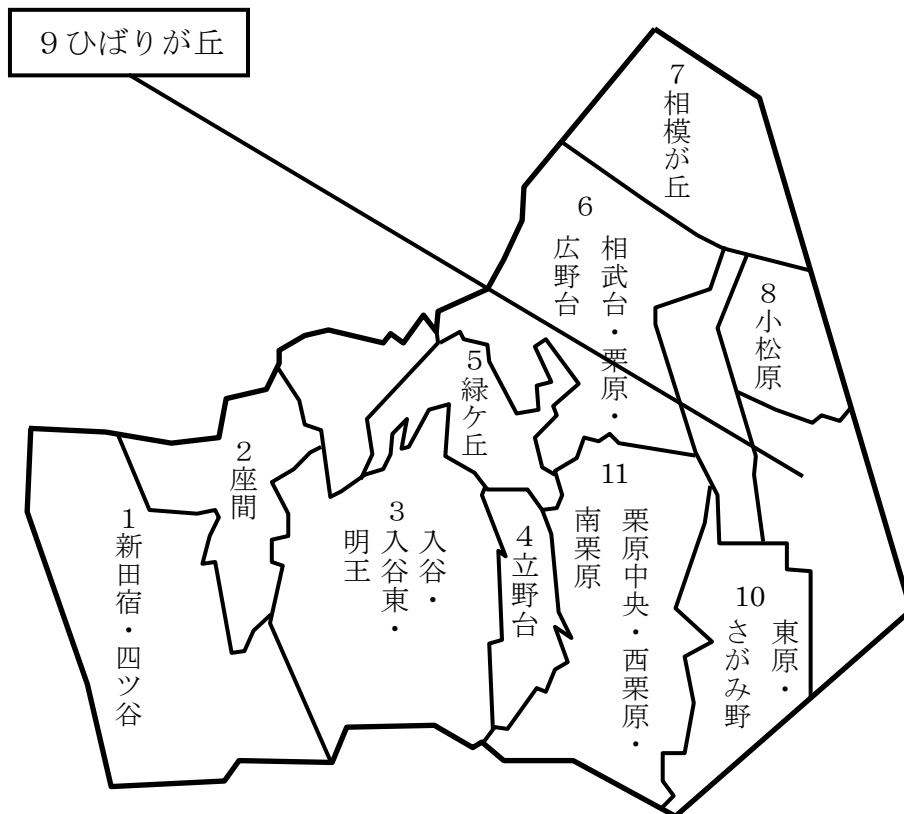
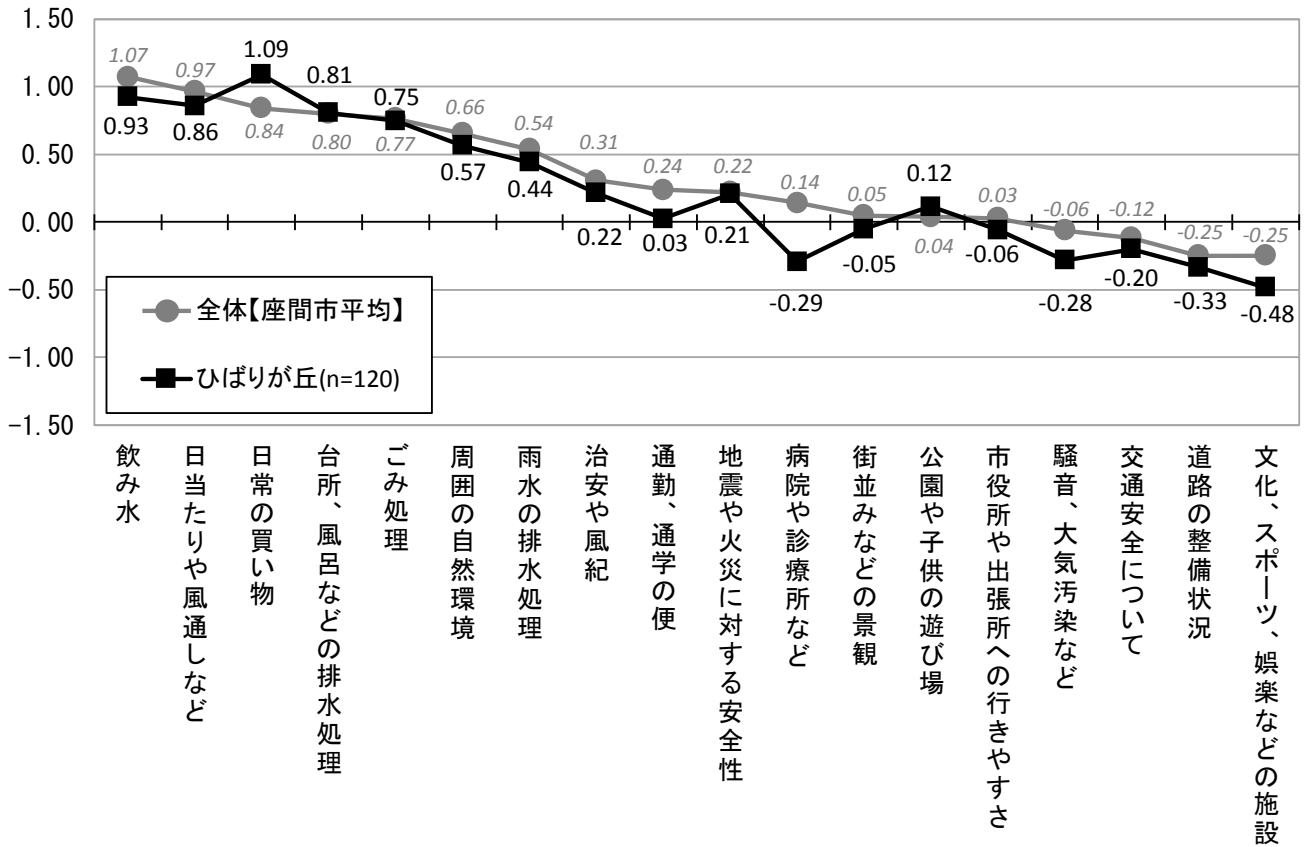
【小松原地区】

小松原地域で全体より比較的高かった項目は、「日常の買い物」、「ゴミ処理」などで、評価が低かったのは「周囲の自然環境」、「病院や診療所など」、「街並みなどの景観」、「市役所や出張所への行きやすさ」などであった。



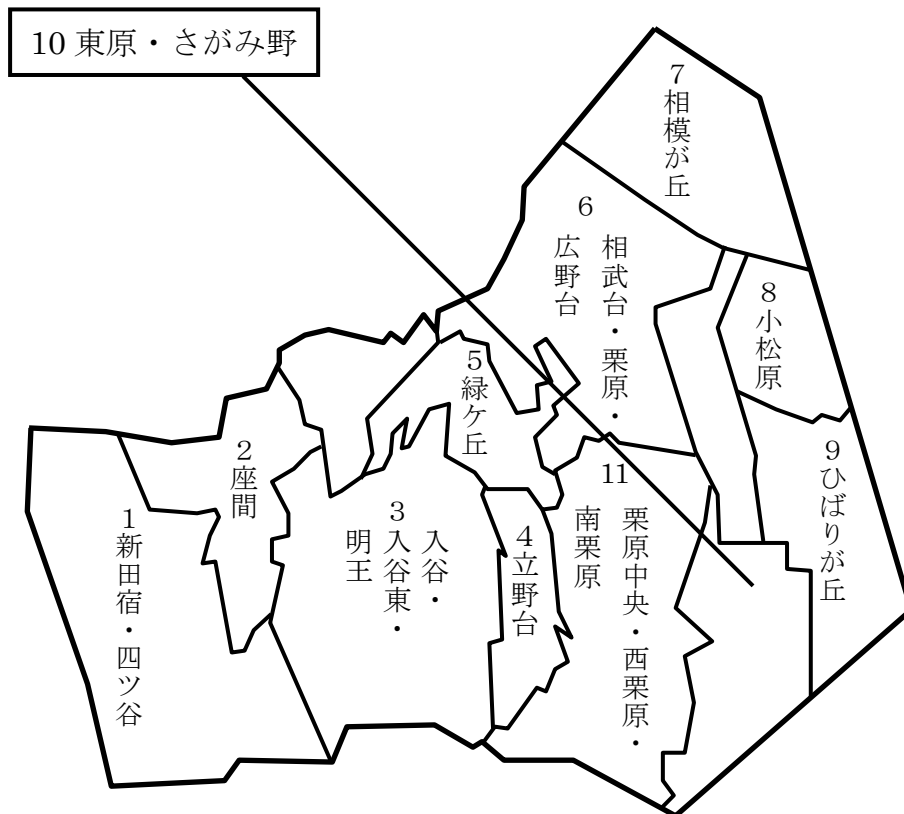
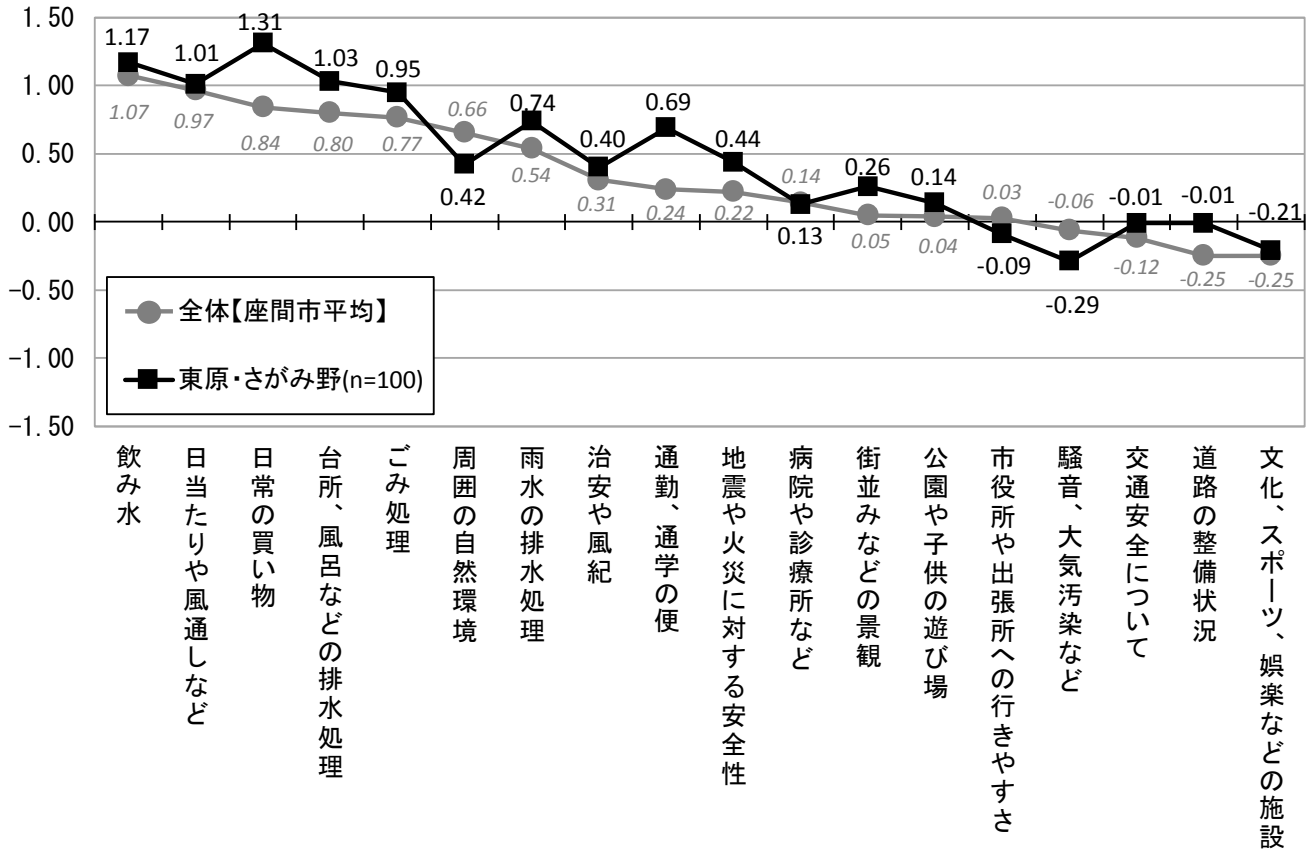
【ひばりが丘地区】

ひばりが丘地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「日常の買い物」などで、評価が低かったのは「病院や診療所など」、「騒音・大気汚染など」、「文化、スポーツ、娯楽などの施設」などであった。



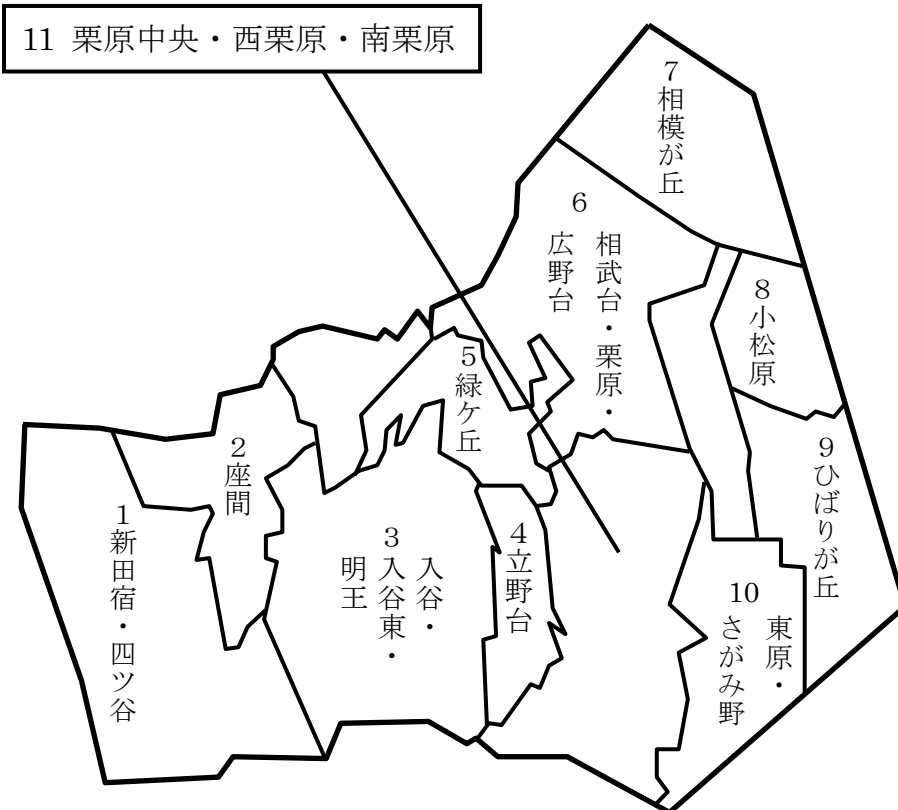
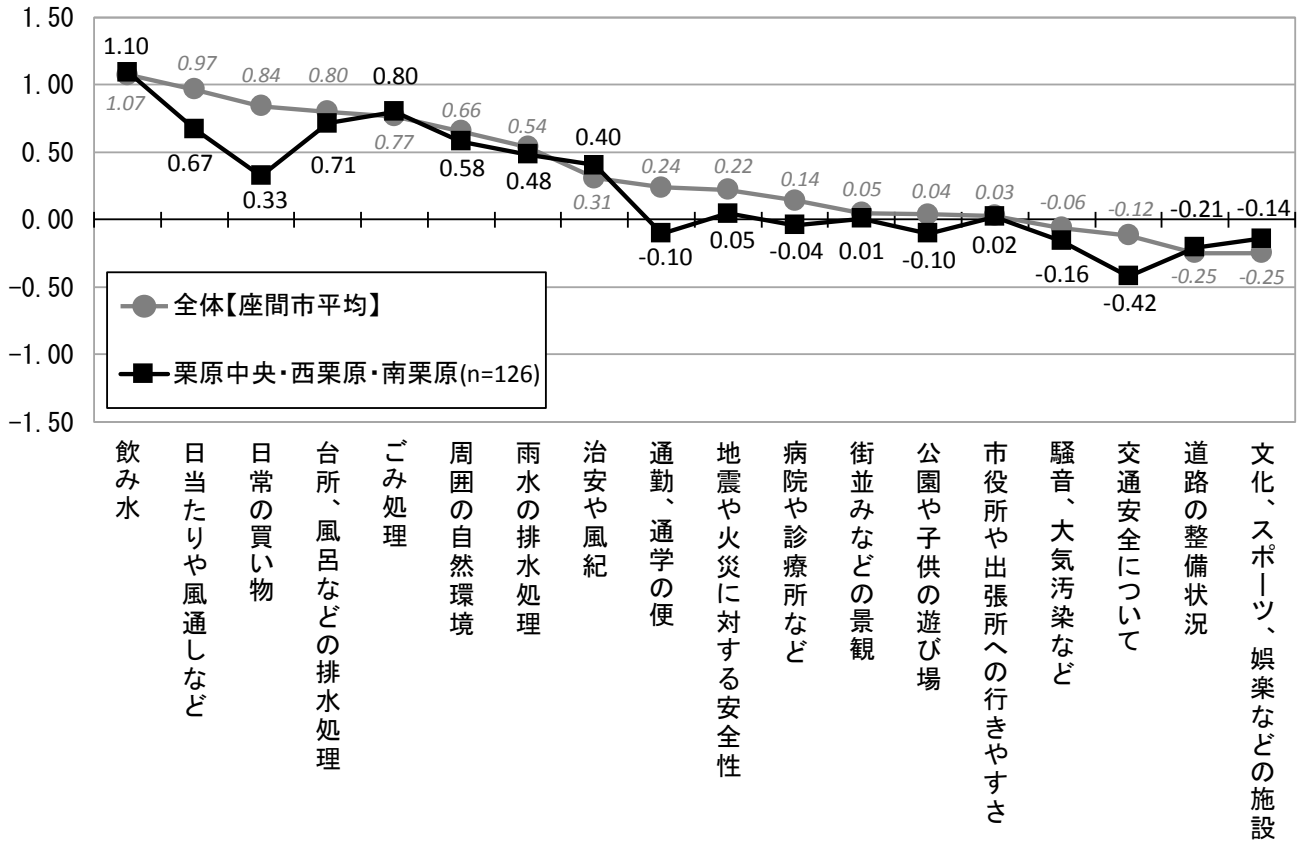
【東原・さがみ野地区】

東原・さがみ野地域では、18項目中14項目で全体より評価が高く、特に「日常の買い物」、「台所、風呂などの排水処理」、「通勤・通学の便」などで高かった。評価が低かったのは「周囲の自然環境」、「騒音・大気汚染など」などであった。



【栗原中央・西栗原・南栗原地区】

栗原中央・西栗原・南栗原地域で全体より評価が高かった項目は、「治安や風紀」、「文化、スポーツ、娯楽などの施設」で、評価が低かったのは「日当たりや風通しなど」、「日常の買い物」、「通勤、通学の便」、「交通安全について」などであった。

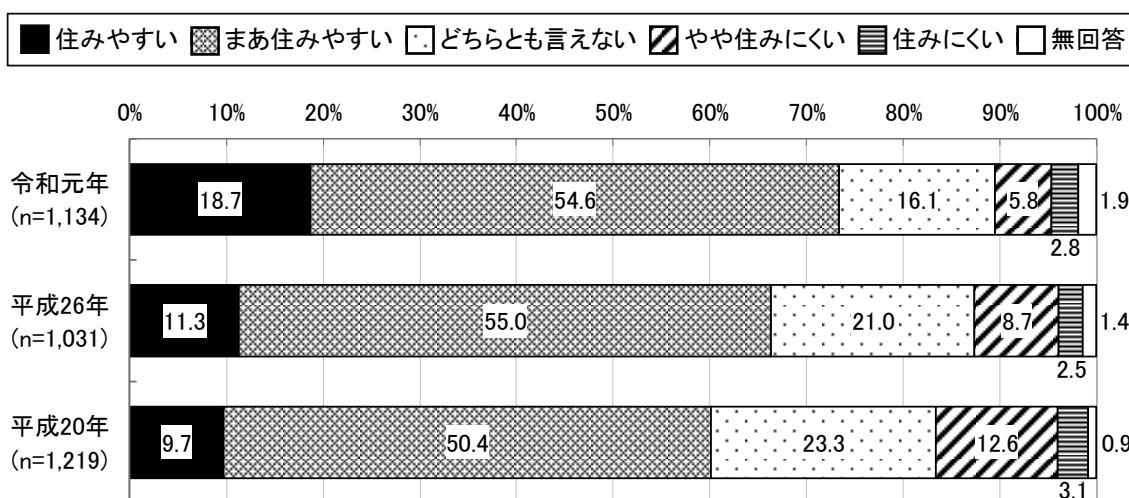


(6) 総合的なまわりの環境

問14 問13の(1)～(18)までの項目を総合的に考えて、住み心地はいかがですか。【〇は1つ】

総合的なまわりの環境を聞いた結果、最も多かったのは、「まあ住みやすい」(54.6%)であった。次いで、「住みやすい」(18.7%)、「どちらともいえない」(16.1%)、「やや住みにくい」(5.8%)、「住みにくい」(2.8%)の順であった。「住みやすい」+「まあ住みやすい」-「やや住みにくい」+「住みにくい」の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は64.7ポイントであった。

過去の調査と比較すると、「住みやすい」が年々増加している傾向がみられるが、「まあ住みやすい」、「住みにくい」、「やや住みにくい」は減少傾向にあり、《住みやすさ》は前回(平成26年)の55.1ポイントから9.6ポイント増加している。

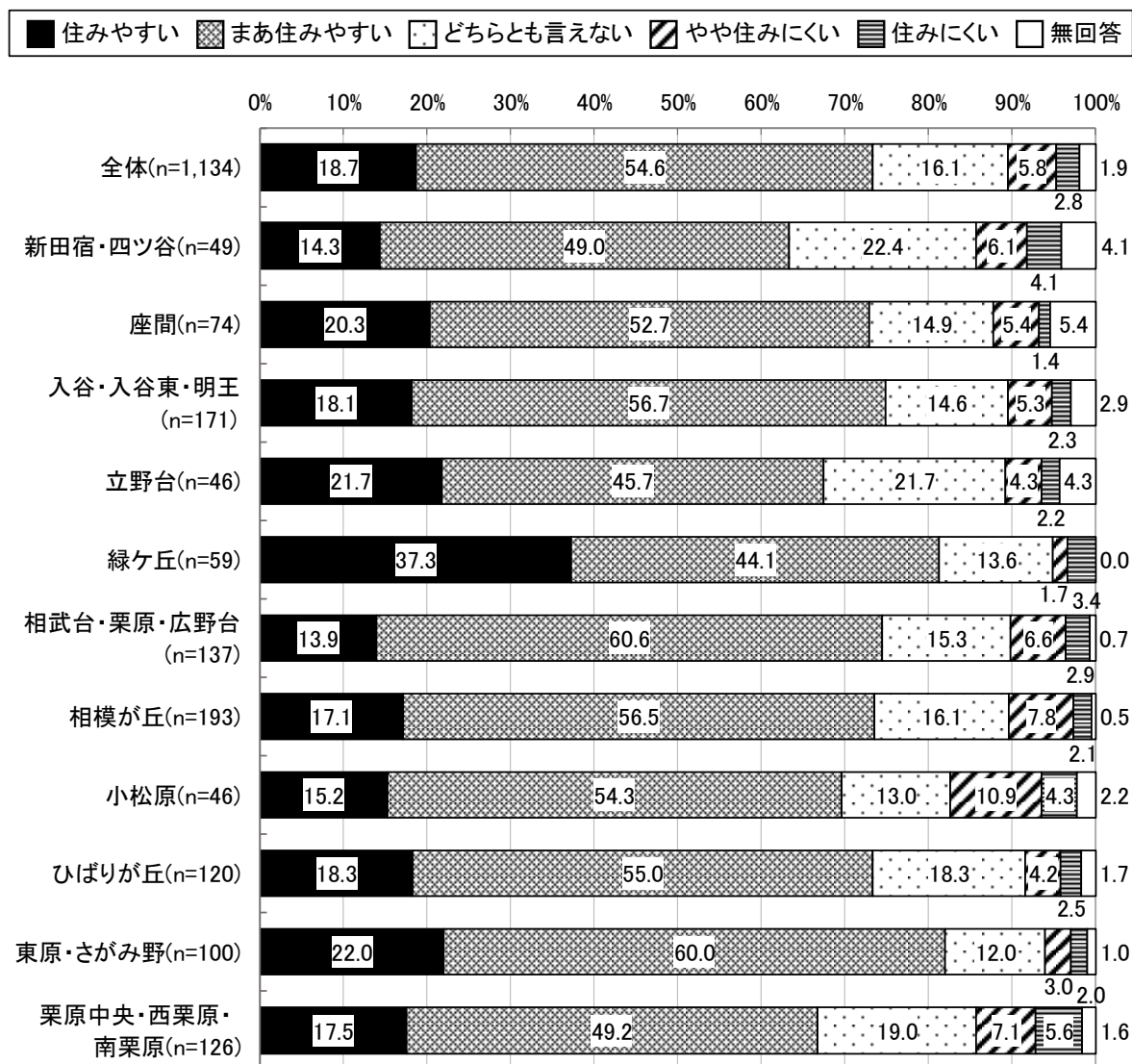


【住まいの地域別】総合的なまわりの環境

住まいの地域別にみると、《住みやすさ》のポイントはすべての地域でプラスとなっており、全地域で50ポイントを超える結果であった。特に緑ヶ丘、東原・さがみ野では70ポイントを超えている。一方、比較的低いポイントであったのは、新田宿・四ツ谷、小松原、栗原中央・西栗原・南栗原となっている。

住まいの地域	住みやすさ (ポイント)
全体	64.7
新田宿・四ツ谷	53.1
座間	66.2
入谷・入谷東・明王	67.2
立野台	60.9
緑ヶ丘	76.3
相武台・栗原・広野台	65.0
相模が丘	63.7
小松原	54.3
ひばりが丘	66.6
東原・さがみ野	77.0
栗原中央・西栗原・南栗原	54.0

各地域の比率は下のグラフのとおりである。



3 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

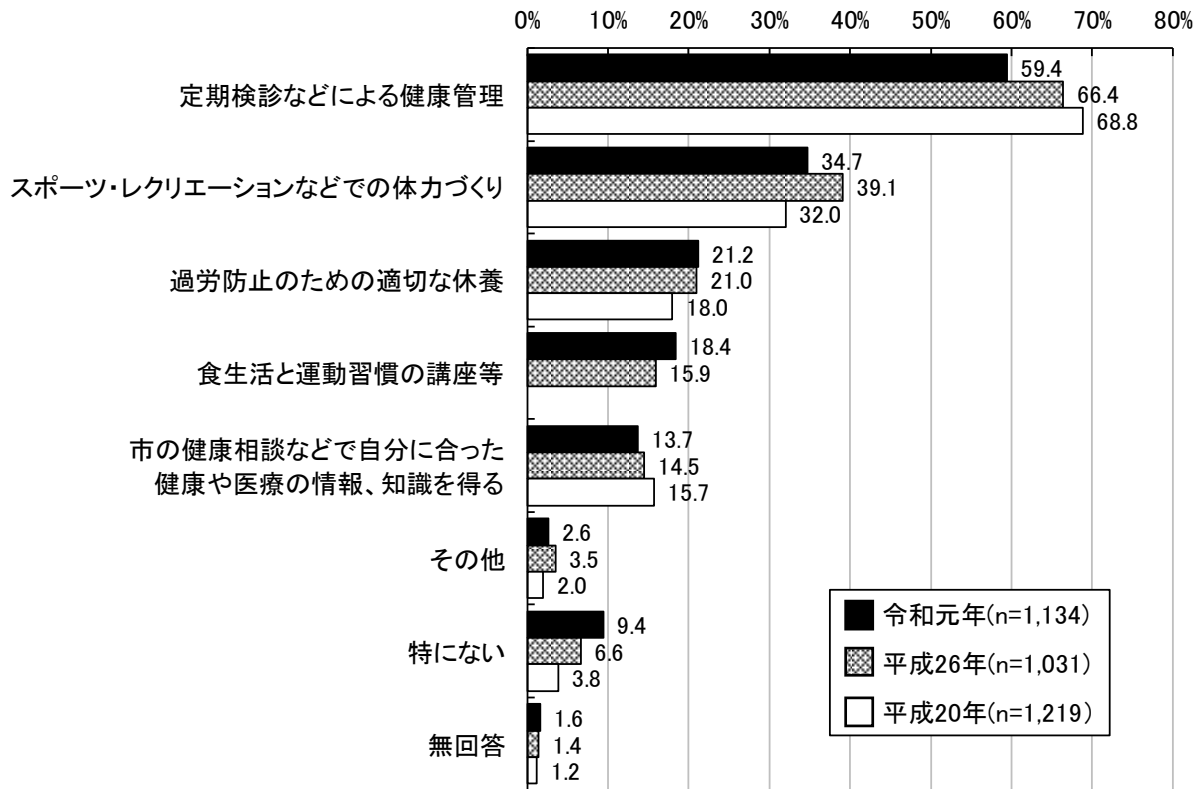
問15 ご自身の健康づくりのために、今後どのようなことが重要だとお考えですか。
【〇は2つまで】

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果、最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(59.4%)であった。次いで、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(34.7%)、「過労防止のための適切な休養」(21.2%)、「食生活と運動習慣の講座等」(18.4%)、「市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る」(13.7%)が続く。

過去の調査と比較すると、「過労防止のための適切な休養」や「食生活と運動習慣の講座等」の比率が前回(平成26年)よりも高くなっている。反対に、「定期検診などによる健康管理」や「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」、「市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る」で前回より低くなっている。

また、「特にない」が年々高くなっている傾向がみられる。

※「食生活と運動習慣の講座等」は前回(平成26年)より調査項目に加わったため、平成20年のデータはない。



【年齢別】健康づくりのために重要だと思うこと

年齢別にみると、「定期検診などによる健康管理」は、80歳以上で7割を超え、どの年代でも比率が高くなっている。反対に「過労防止のための適切な休養」は、30歳～49歳の年代で比率が高く、「食生活と運動習慣の講座等」は50歳～79歳の年代で関心が高い傾向がみられる。

「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」は30歳～39歳で4割を超えているが、80歳以上で比率が低いのが目立つ。その他の年齢ではあまり違いは見られない。

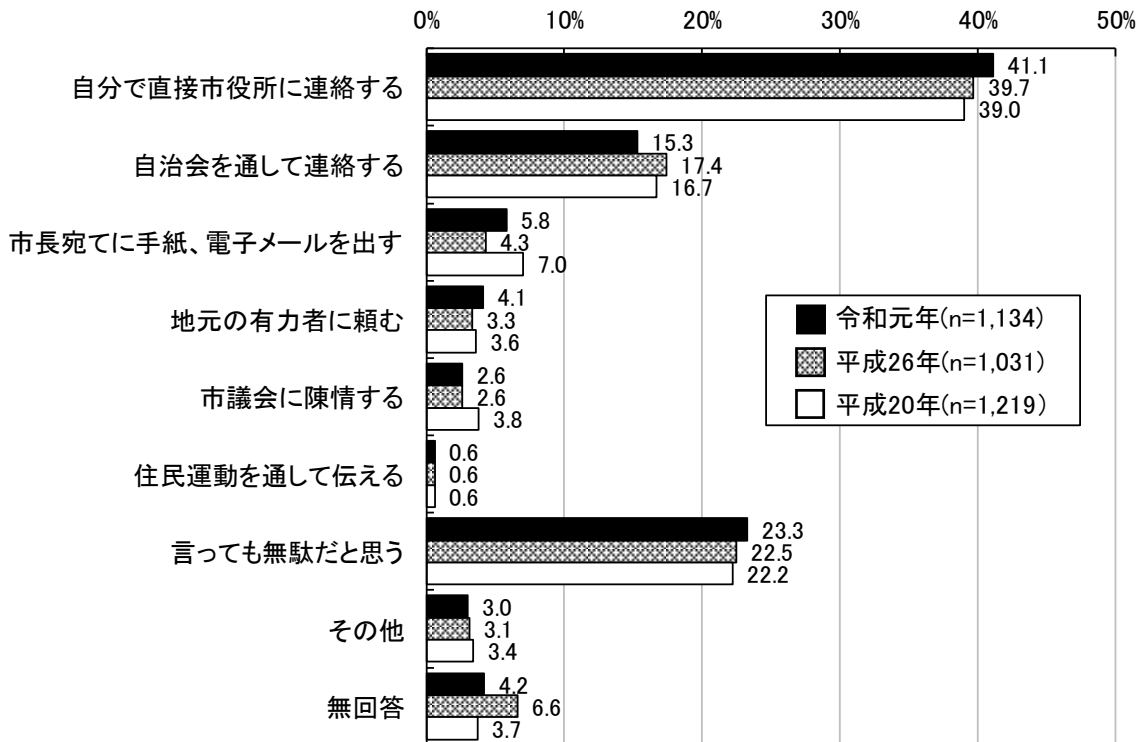
%		全 体 【 実 数 】	定 期 検 診 な ど に よ る 健 康 管 理	知 合 市 の 健 康 相 談 な ど で 自 分 に 知 識 を 得 る	食 生 活 と 運 動 習 慣 の 講 座 等	な ス ポ ー ツ の 体 力 づ く り レ ク リ エ ー シ ヨ ン	過 労 防 止 の た め の 適 切 な 休 養	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		1,134	59.4	13.7	18.4	34.7	21.2	2.6	9.4	1.6
年 齢	18～29歳	94	45.7	19.1	14.9	38.3	28.7	5.3	8.5	2.1
	30～39歳	124	60.5	8.1	14.5	40.3	35.5	-	6.5	-
	40～49歳	176	57.4	10.8	18.2	33.5	35.2	2.3	6.8	-
	50～59歳	183	64.5	10.4	20.2	38.8	24.0	2.7	7.1	0.5
	60～69歳	208	61.5	13.9	20.7	36.1	15.4	2.4	8.2	2.4
	70～79歳	248	57.7	14.1	20.6	31.5	9.3	2.8	14.9	3.2
	80歳以上	90	70.0	24.4	14.4	22.2	7.8	2.2	13.3	1.1
	無回答	11	27.3	27.3	9.1	36.4	9.1	9.1	-	9.1

4 市民生活・広報について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

問16 身の周りのことで要望や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【〇は1つ】

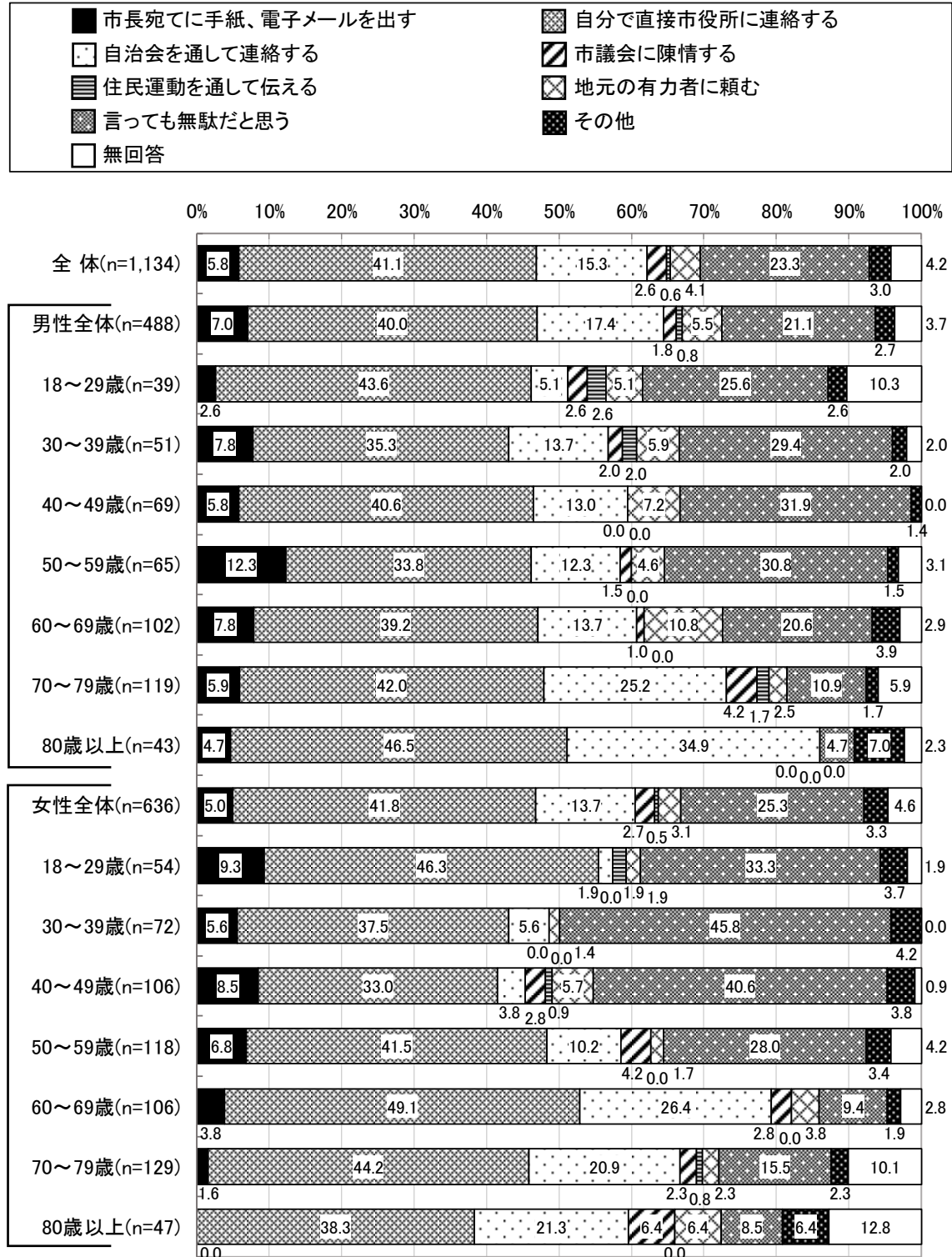
要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果、最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(41.1%)であった。次いで、「自治会を通して連絡する」(15.3%)、「市長宛てに手紙、電子メールを出す」(5.8%)が続く。また、「言っても無駄だと思う」は23.3%となり、全体の2位となった。



【性別・年齢別】要求や問題を市政に反映させる方法

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「自分で直接市役所に連絡する」は、特に女性の60歳代で比率が高く、女性の40歳代で比較的低い比率となっている。

全体で2位だった「言っても無駄だと思う」は、女性の30歳代で最も高く、女性の18～29歳、40歳代などでも比率が高かった。



(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

問17 日常生活に役立つ情報を知るために、どのような媒体(メディア)を使っていますか。【よく使う順に3つ選んで番号を1つずつ記入】

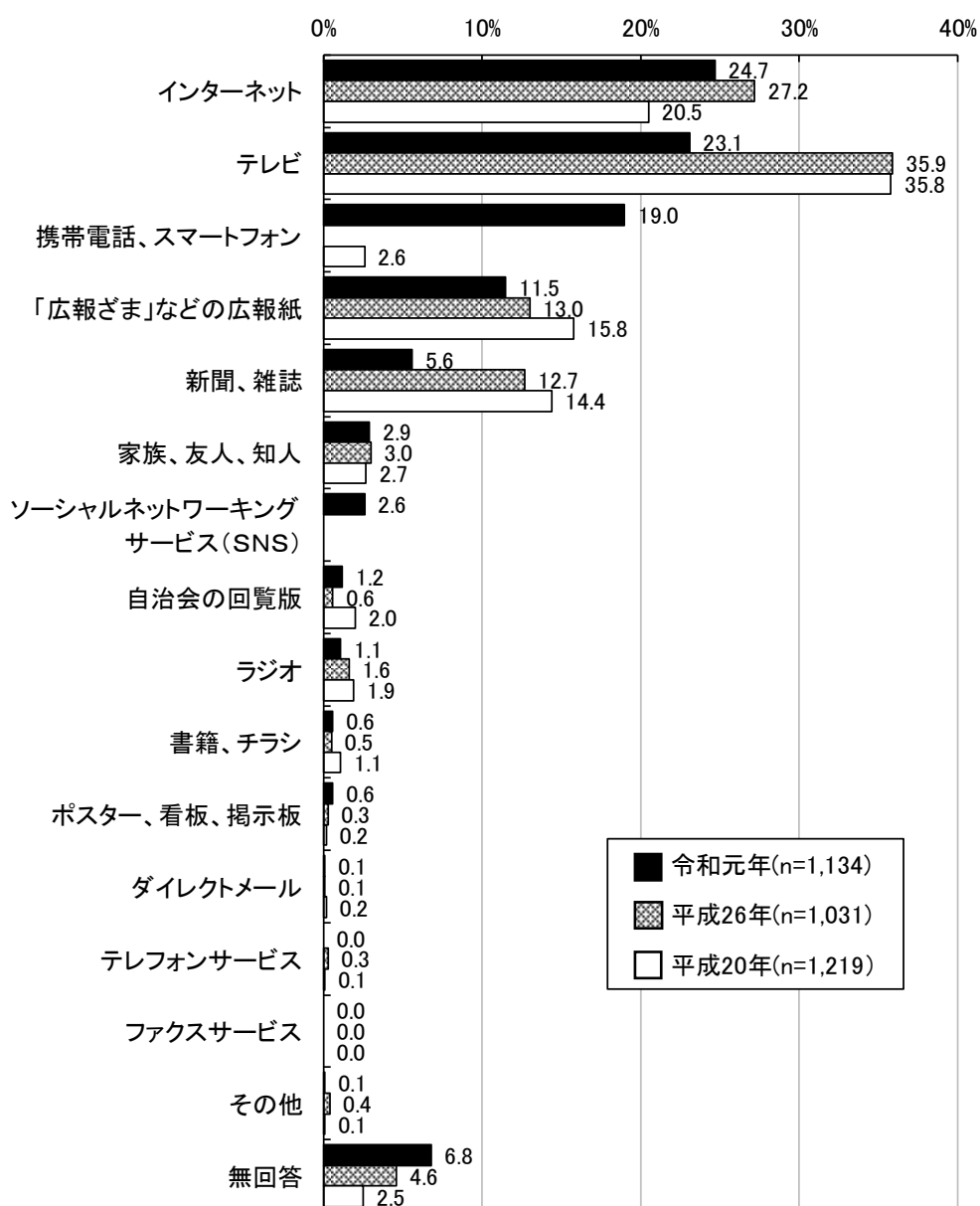
最もよく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「インターネット」(24.7%)であった。次いで、「テレビ」(23.1%)、「携帯電話、スマートフォン」(19.0%)、「『広報ざま』などの広報紙」(11.5%)、「新聞・雑誌」(5.6%)、「家族・友人・知人」(2.9%)が続く。

過去の調査と比較すると、「携帯電話、スマートフォン」が大きく増加している。反対に、「テレビ」は大幅に低下している。

また、「『広報ざま』などの広報紙」、「新聞・雑誌」といった活字媒体は、年々減少傾向がみられる。

※「携帯電話・スマートフォン」は前々回(平成20年)調査では「携帯電話」、前回(平成26年)調査では該当項目なしとなっている。



【性別・年齢別】日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「インターネット」は、男性の利用率が高い傾向がみられる。

全体で2位だった「テレビ」は、比較的男女とも50歳以上の比率が高いのが目立つ。

全体で3位だった「携帯電話、スマートフォン」は、男女ともに若年層で最も比率が高くなっている。反対に、男女ともに70歳以上で比率が低いのが目立つ。

「インターネット」は年齢が下がるにつれて、「『広報ざま』などの広報紙」、「テレビ」は年齢が上がるにつれて、比率が高くなっている。また、「書籍・チラシ」、「ポスター・看板・掲示板」、「テレホンサービス」、「ファクスサービス」、「ダイレクトメール」は極めて比率が低い。

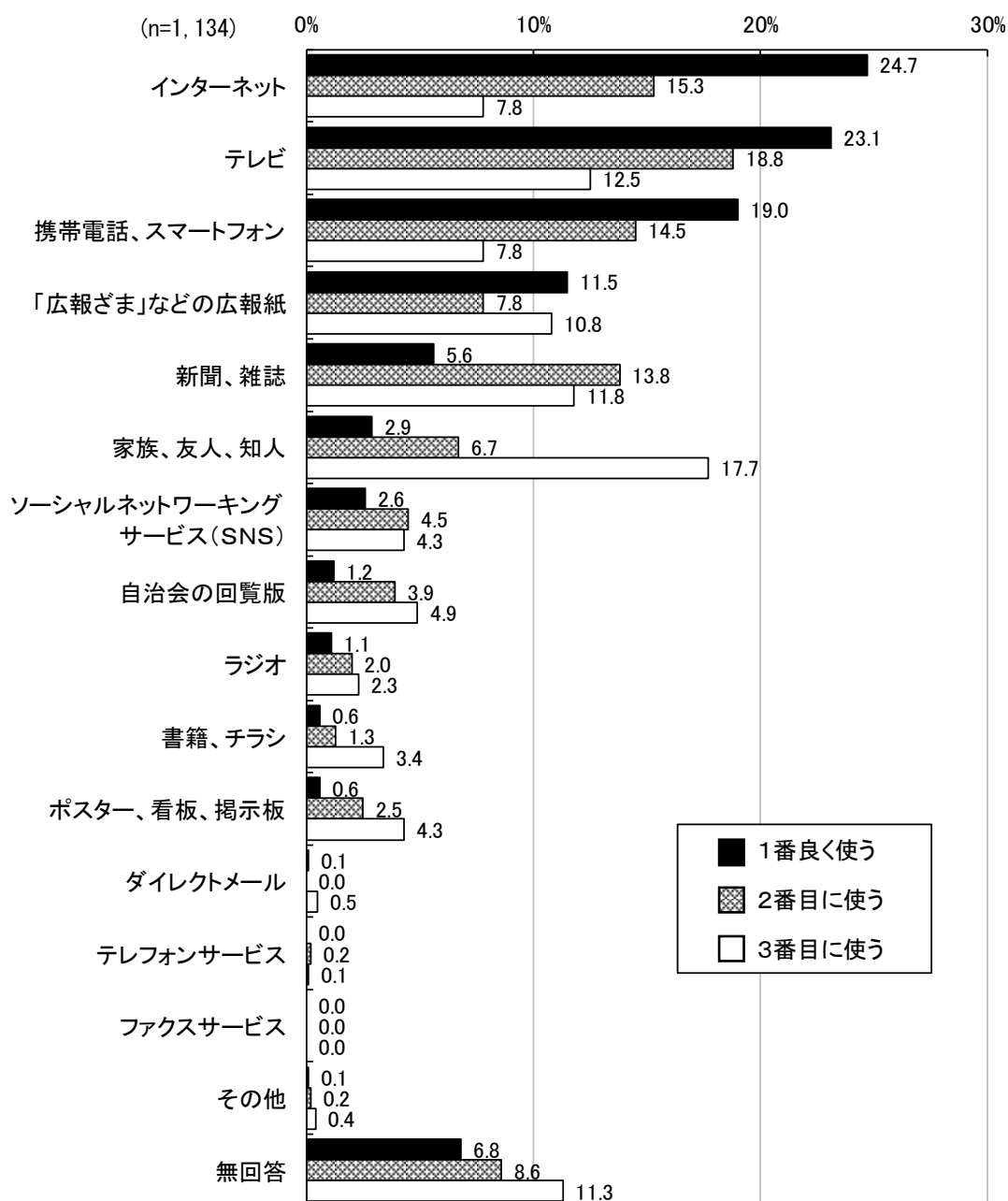
		全 体 【実数】	「広報ざま」 などの広報紙	テレビ	ラジオ	新聞、 雑誌	携帯電話、 スマートフォン	書籍、 チラシ	インターネット	ポスター、 看板、 掲示板	自治会の 回覧版	テレホン サービス	ファクス サービス	ダイレクト メール	家族、 友人、 知人	ソーシャル ネットワー キング サービス (SNS)	その他	無 回 答	
全体		1,134	11.5	23.1	1.1	5.6	19.0	0.6	24.7	0.6	1.2	-	-	0.1	2.9	2.6	0.1	6.8	
性別・ 年齢	全体	488	11.5	19.9	1.8	7.8	16.6	0.6	30.3	0.8	1.2	-	-	0.2	1.8	0.8	0.2	6.4	
	男性	18~29歳	39	-	5.1	2.6	-	38.5	-	46.2	-	-	-	-	-	2.6	-	-	5.1
		30~39歳	51	3.9	3.9	-	-	37.3	-	41.2	2.0	5.9	-	-	-	-	3.9	-	2.0
		40~49歳	69	2.9	11.6	-	2.9	26.1	1.4	47.8	-	-	-	-	-	4.3	2.9	-	-
		50~59歳	65	10.8	26.2	1.5	-	16.9	1.5	41.5	-	-	-	-	-	-	-	1.5	-
		60~69歳	102	15.7	24.5	2.9	9.8	10.8	1.0	26.5	-	2.0	-	-	-	2.0	-	-	4.9
		70~79歳	119	14.3	28.6	2.5	18.5	4.2	-	17.6	1.7	0.8	-	-	0.8	2.5	-	-	8.4
		80歳以上	43	27.9	20.9	2.3	9.3	4.7	-	2.3	2.3	-	-	-	-	-	-	-	30.2
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	全体	636	11.6	25.6	0.6	4.1	20.8	0.6	20.4	0.5	1.1	-	-	-	3.8	3.8	-	7.1
		18~29歳	54	1.9	13.0	-	-	31.5	-	25.9	-	-	-	-	-	3.7	24.1	-	-
		30~39歳	72	4.2	9.7	-	-	40.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	6.9	-	5.6
		40~49歳	106	11.3	15.1	-	1.9	31.1	0.9	26.4	1.9	-	-	-	-	6.6	1.9	-	2.8
		50~59歳	118	9.3	22.9	0.8	2.5	24.6	0.8	31.4	-	-	-	-	-	1.7	2.5	-	3.4
60~69歳		106	12.3	37.7	0.9	5.7	14.2	0.9	19.8	-	0.9	-	-	-	1.9	-	-	5.7	
70~79歳		129	17.1	39.5	0.8	9.3	7.0	0.8	3.9	0.8	2.3	-	-	-	6.2	-	-	12.4	
80歳以上		47	23.4	29.8	2.1	6.4	-	-	2.1	-	6.4	-	-	-	6.4	-	-	23.4	
無回答	4	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	25.0		

2番目、3番目によく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るために2番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「テレビ」(18.8%)であった。次いで「インターネット」(15.3%)、「携帯電話、スマートフォン」(14.5%)、「新聞、雑誌」(13.8%)が続く。

日常生活に役立つ情報を得るために3番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「家族・友人・知人」(17.7%)であった。次いで、「テレビ」(12.5%)、「新聞、雑誌」(11.8%)、「『広報ざま』などの広報紙」(10.8%)、「インターネット」と「携帯電話、スマートフォン」(7.8%)が続く。

日常生活に役立つ情報を得るために使う媒体は「テレビ」、「インターネット」、「『広報ざま』などの広報紙」、「携帯電話、スマートフォン」などの媒体がよく使われており、合わせて補助的に「新聞、雑誌」や「家族・友人・知人」からの情報などが使われている様子が見えてくる。



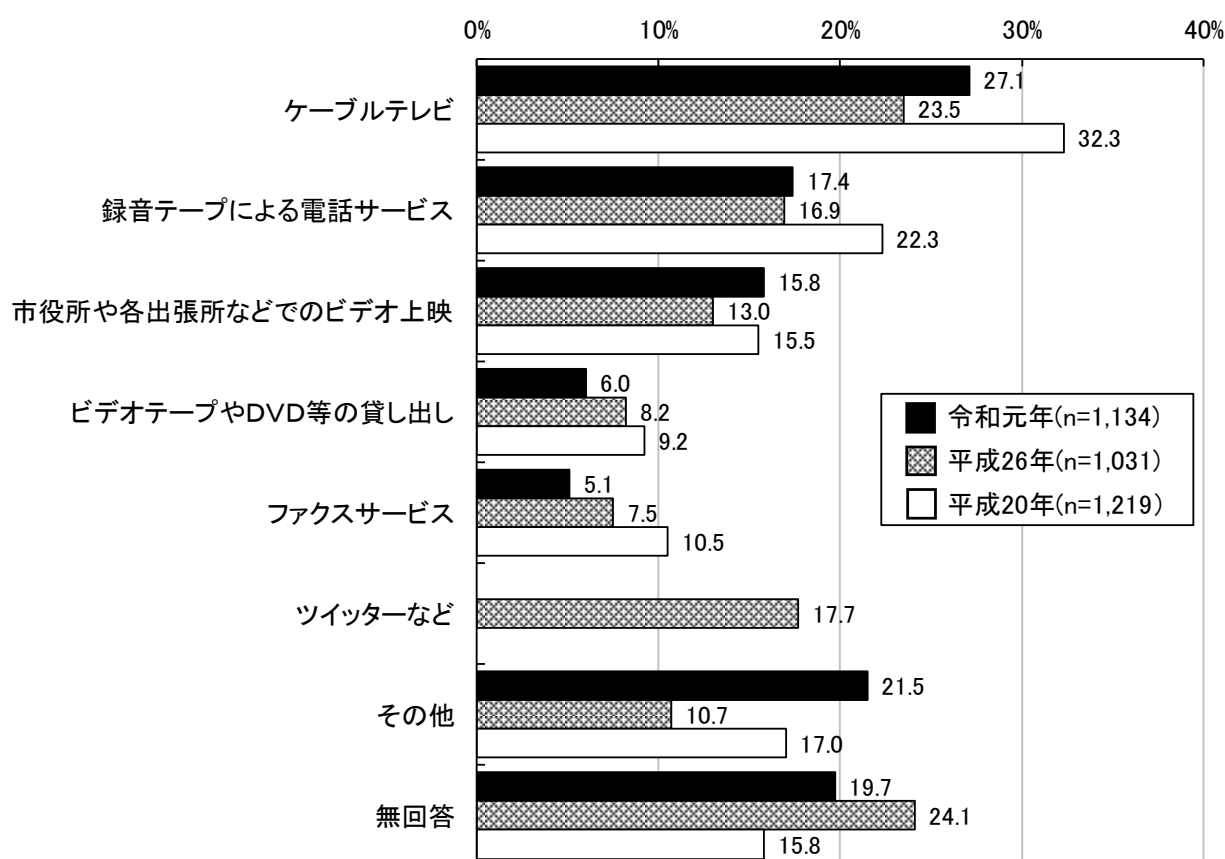
(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

問18 市のお知らせについては、「広報ざま」や「市ホームページ」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。
【当てはまるもの全てに○】

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果、最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(27.1%)、であった。次いで、「録音テープによる電話サービス」(17.4%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(15.8%)が続く。

過去の調査と比較すると、前回(平成26年)と同じ調査項目の「ビデオテープやDVD等の貸し出し」と「ファクスサービス」を除く項目で比率が高くなった。

※「ツイッターなど」は前回(平成26年)のみの調査項目のため、今回(令和元年)と前々回(平成20年)のデータはない。



【性別・年齢別】市のお知らせの便利な伝達方法

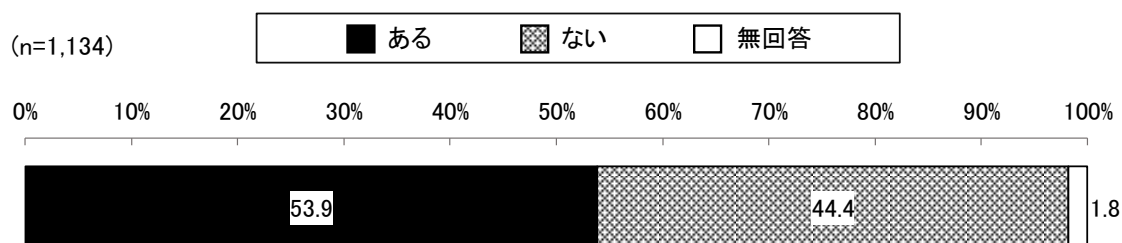
性別・年齢別にみると、全体で1位であった「ケーブルテレビ」は男性の40歳代、50歳代で比率が高く、女性よりも男性で比率が高くなっている。また、全体で2位であった「録音テープによる電話サービス」は、男性よりも女性で比率が高い傾向となっている。

%		全 体 【 実 数 】	の 貸 し 出 し の ビ デ オ テ ー プ や D V D 等	で 市 役 所 や 各 出 張 所 な ど	サ ー ビ ス 録 音 テ ー プ に よ る 電 話	ケ ー ブ ル テ レ ビ	フ ァ ク ス サ ー ビ ス	そ の 他	無 回 答	
全 体		1,134	6.0	15.8	17.4	27.1	5.1	21.5	19.7	
年 齢	全 体	488	8.2	15.4	13.1	31.4	5.1	21.3	15.6	
	18～29歳	39	12.8	20.5	7.7	17.9	2.6	28.2	17.9	
	30～39歳	51	7.8	11.8	3.9	33.3	5.9	23.5	13.7	
	40～49歳	69	5.8	10.1	11.6	43.5	4.3	27.5	10.1	
	50～59歳	65	3.1	10.8	4.6	41.5	3.1	24.6	13.8	
	60～69歳	102	2.9	15.7	17.6	32.4	5.9	21.6	10.8	
	70～79歳	119	16.8	17.6	14.3	23.5	5.9	13.4	23.5	
	80歳以上	43	4.7	23.3	30.2	25.6	7.0	18.6	16.3	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男 性	全 体	636	4.4	16.2	20.8	23.7	5.2	21.9	22.3
		18～29歳	54	3.7	18.5	20.4	22.2	5.6	31.5	7.4
		30～39歳	72	6.9	18.1	13.9	15.3	-	34.7	20.8
		40～49歳	106	1.9	9.4	14.2	29.2	1.9	28.3	22.6
		50～59歳	118	3.4	13.6	18.6	33.9	5.9	21.2	22.0
		60～69歳	106	7.5	22.6	17.0	28.3	6.6	17.0	20.8
70～79歳		129	2.3	13.2	31.0	16.3	10.9	10.9	31.0	
80歳以上		47	8.5	25.5	29.8	12.8	-	19.1	23.4	
無回答		4	-	25.0	50.0	-	-	25.0	-	
女 性	全 体	488	8.2	15.4	13.1	31.4	5.1	21.3	15.6	
	18～29歳	39	12.8	20.5	7.7	17.9	2.6	28.2	17.9	
	30～39歳	51	7.8	11.8	3.9	33.3	5.9	23.5	13.7	
	40～49歳	69	5.8	10.1	11.6	43.5	4.3	27.5	10.1	
	50～59歳	65	3.1	10.8	4.6	41.5	3.1	24.6	13.8	
	60～69歳	102	2.9	15.7	17.6	32.4	5.9	21.6	10.8	
	70～79歳	119	16.8	17.6	14.3	23.5	5.9	13.4	23.5	
	80歳以上	43	4.7	23.3	30.2	25.6	7.0	18.6	16.3	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 座間市のホームページの閲覧経験

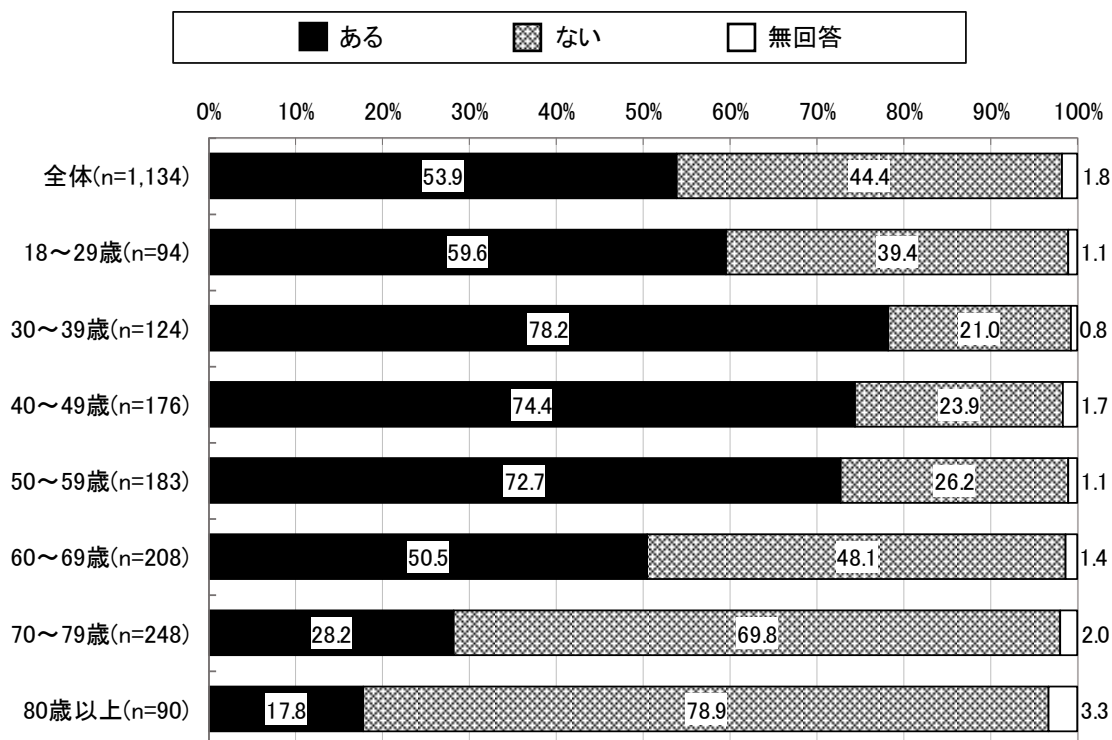
問19 座間市のホームページを閲覧したことがありますか。
【○は1つ】

座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果は、「ある」(53.9%)、「ない」(44.4%)であった。



【年齢別】座間市のホームページの閲覧経験

年齢別にみると、閲覧経験が「ある」と回答した比率は30歳代で78.2%と最も高い。69歳以下では、どの年代も5割を超え、30歳代、40歳代、50歳代で7割を超えている。反対に、70歳以上では3割台以下になり、高齢層の閲覧が少ないことが見受けられる。



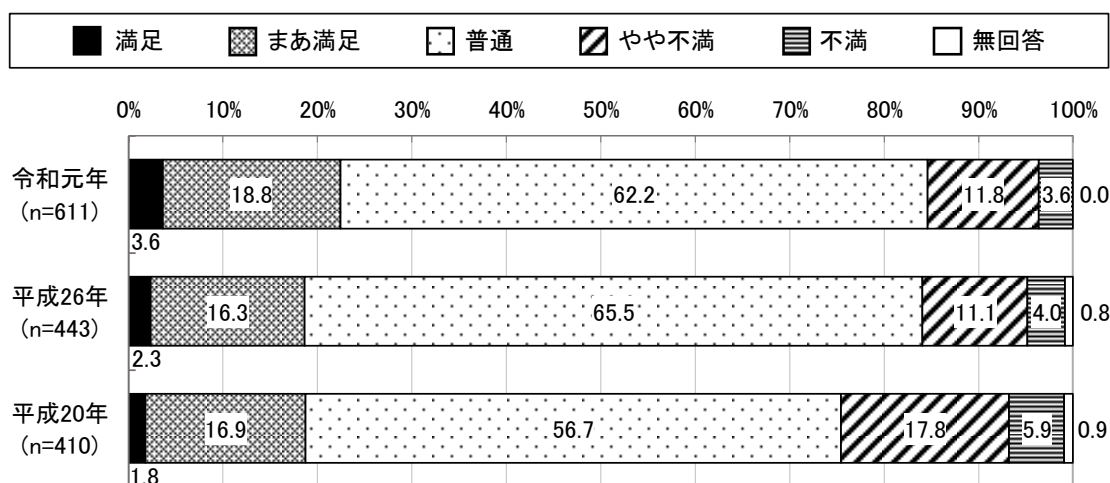
(5) 座間市のホームページの満足度

問20 問19で「1 ある」と選択された方に伺います。現在のホームページに満足していますか。【〇は1つ】

座間市のホームページの満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「普通」(62.2%)であった。次いで、「まあ満足」(18.8%)、「やや不満」(11.8%)、「満足」と「不満」ともに(3.6%)と続く。

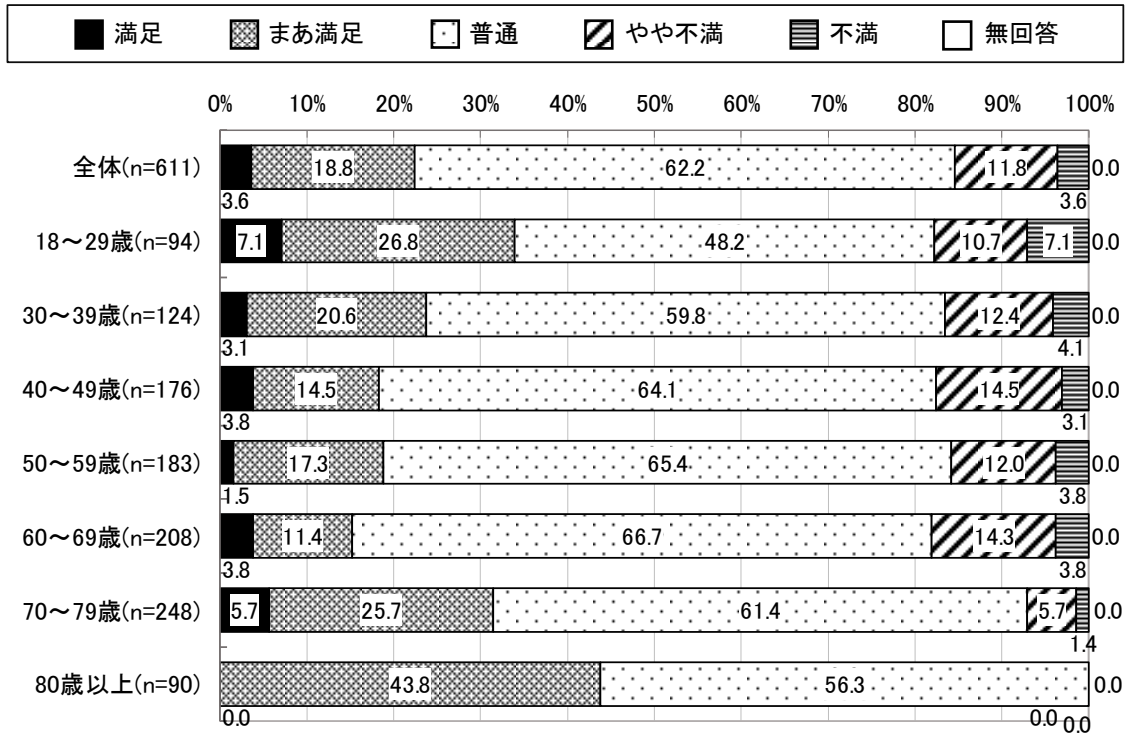
過去の調査と比較すると、今回(令和元年)の「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足感あり》は22.4%で、前回(平成26年)の調査は18.6%と3.8%増加となった。

また、「(満足) + (まあ満足) - (やや不満) + (不満)」の比率を《座間市のホームページの満足度》とすると、《座間市のホームページの満足度》は7.0ポイントで前回より3.5ポイント増加しており、「満足」「まあ満足」が増加したことで、満足度が高くなる結果となった。



【年齢別】座間市のホームページの満足度

年齢別にみると、どの年代においても「普通」の比率が最も高くなっている。「満足」+「まあ満足」-（「やや不満」+「不満」）で算出した《座間市のホームページの満足度》は、80歳以上で 43.8 ポイントと最も高く、次いで、70歳代で 24.3 ポイント、18～29歳で 16.1 ポイントと続く。最も低いのは、60歳代で-2.9 ポイントとなった。



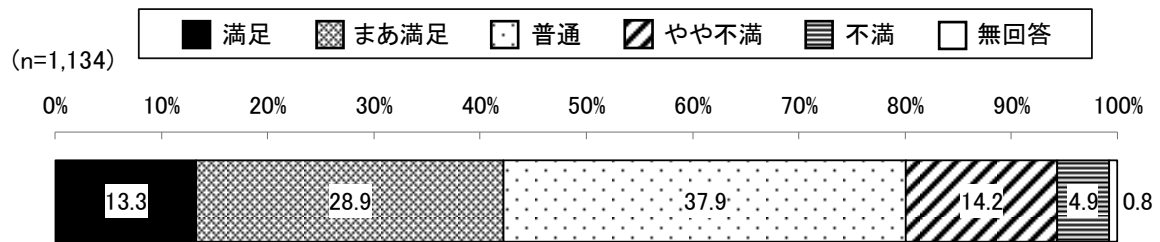
5 公園・広場・緑地について

(1) 自宅周辺の緑の満足度

問21 自宅周辺の緑に満足していますか。
【○は1つ】

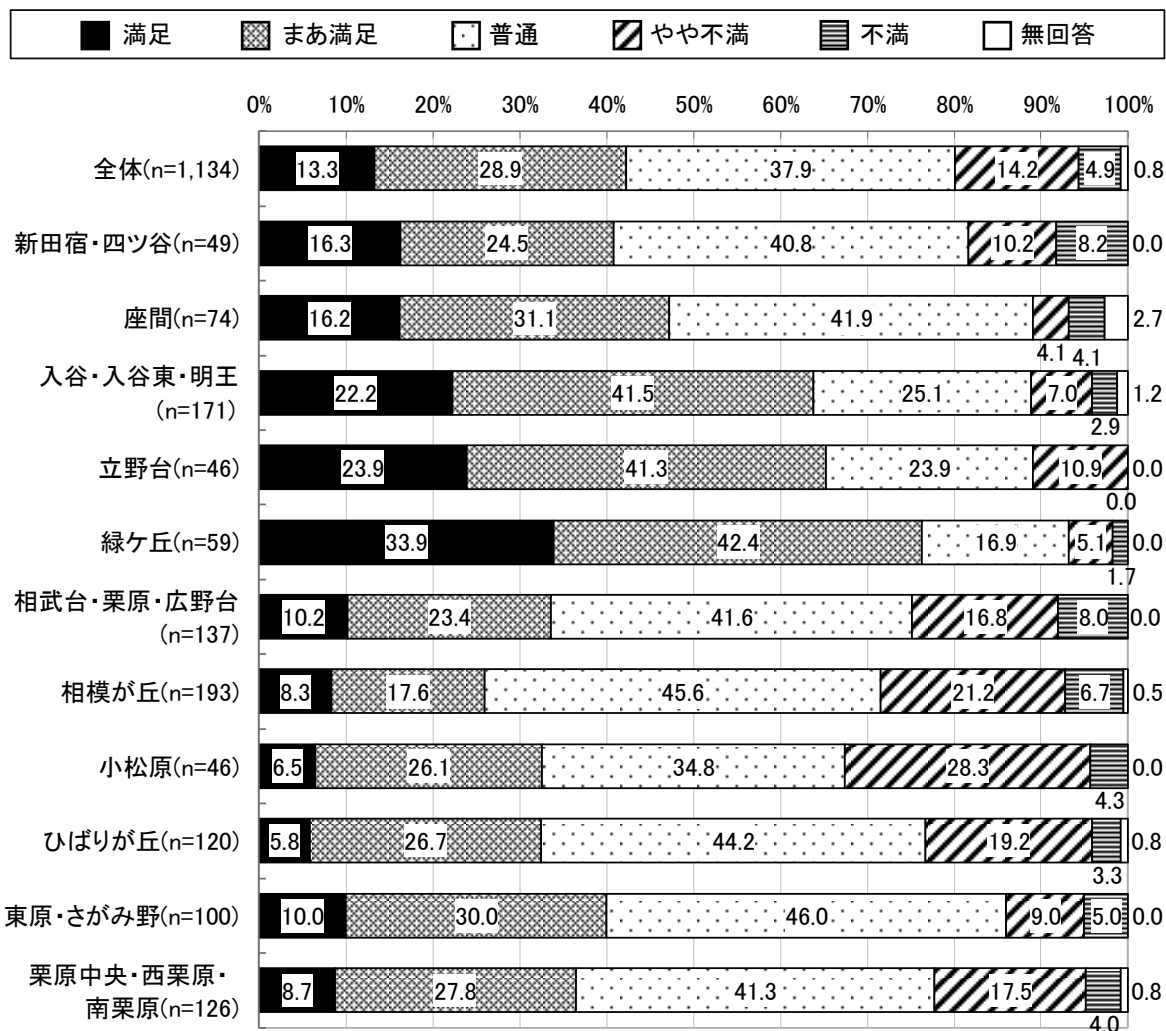
自宅周辺の緑の満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「普通」(37.9%)であった。次いで、「まあ満足」(28.9%)、「やや不満」(14.2%)、「満足」(13.3%)が続く。「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は42.2%となっている。

(「満足」+「まあ満足」) - (「やや不満」+「不満」)を《自宅周辺の緑の満足度》とすると、《自宅周辺の緑の満足度》は、23.1ポイントとなった。



【住まいの地域別】 自宅周辺の緑の満足度

住まいの地域別にみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は、緑ヶ丘、入谷・入谷東・明王、立野台で高く、緑ヶ丘で7割、入谷・入谷東・明王と立野台で6割を超えている。反対に、相模が丘、ひばりが丘、小松原では比較的低く、座間市の中心部と東部で比率に差がみられる。



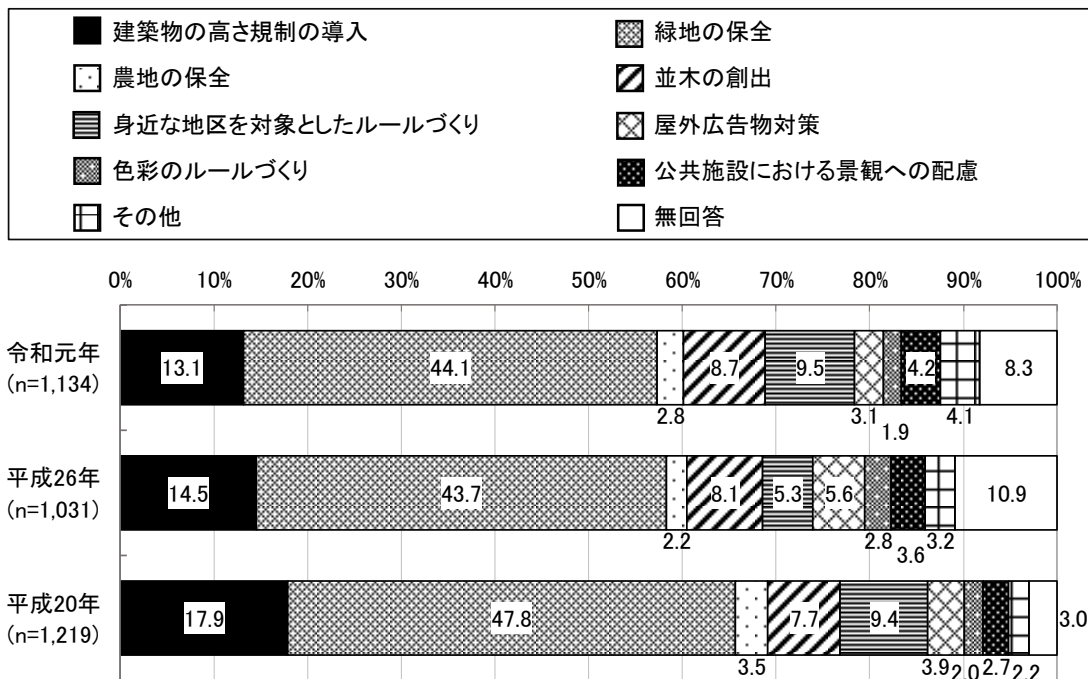
6 景観形成について

(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

問22 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は1つ】

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果、最も多かったのは、「緑地の保全」(44.1%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(13.1%)、「身近な地区を対象としたルールづくり」(9.5%)、「並木の創出」(8.7%)が続く。

過去の調査と比較すると、全体上位のものでは「建築物の高さ規制の導入」が年々比率が減少傾向にあり、「緑地の保全」、「並木の創出」は若干ながら比率が高くなっている。全体の順位について、1位2位は変わらないが、前回(平成26年)5位だった「身近な地区を対象としたルールづくり」が今回(令和元年)は3位に上がった。

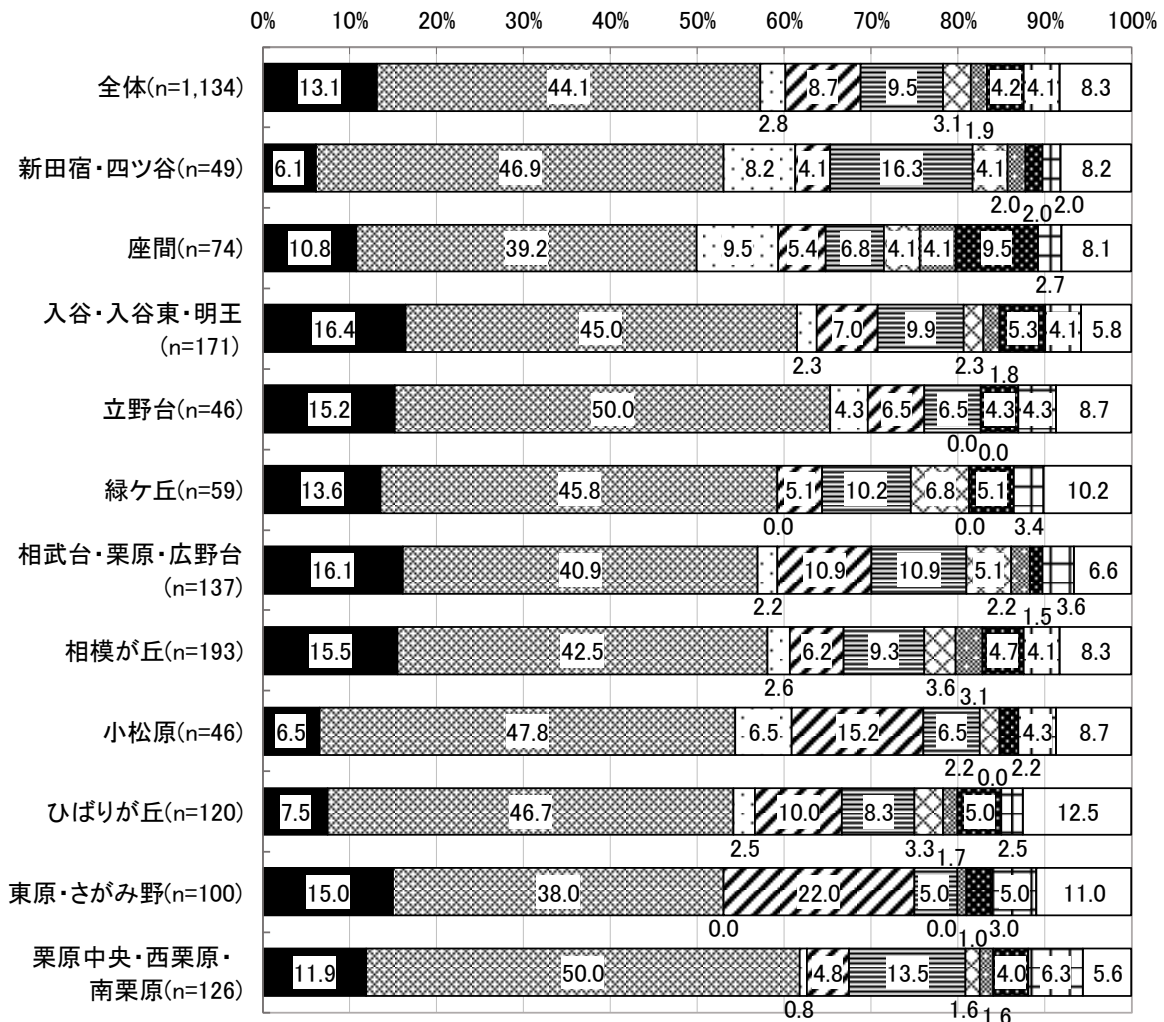


【住まいの地域別】 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「緑地の保全」は、立野台と栗原中央・西栗原・南栗原で最も比率が高く、東原・さがみ野では最も低くなっている。

全体で2位だった「建築物の高さ規制の導入」は、入谷・入谷東・明王で最も比率が高い。反対に新田宿・四ツ谷の比率が最も低くなっている。

「農地の保全」、「並木の創出」、「身近な地区を対象としたルールづくり」、「公共施設における景観への配慮」などは地域によってかなり差がみられる。

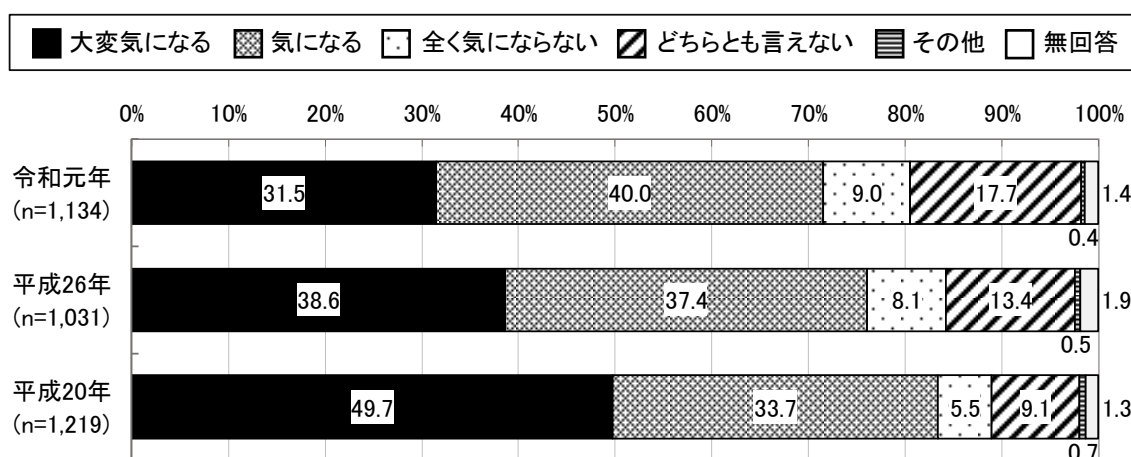


(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

問23 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。【〇は1つ】

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果、最も多かったのは、「気になる」(40.0%)であった。次いで、「大変気になる」(31.5%)、「どちらとも言えない」(17.7%)、「全く気にならない」(9.0%)が続く。「大変気になる」と「気になる」を合わせた《気になる》は70%以上となった。

過去調査と比較すると、前回(平成26年)より、「気になる」が増加した以上に「大変気になる」が減少しているため、《気になる》は4.5ポイント減少となった。

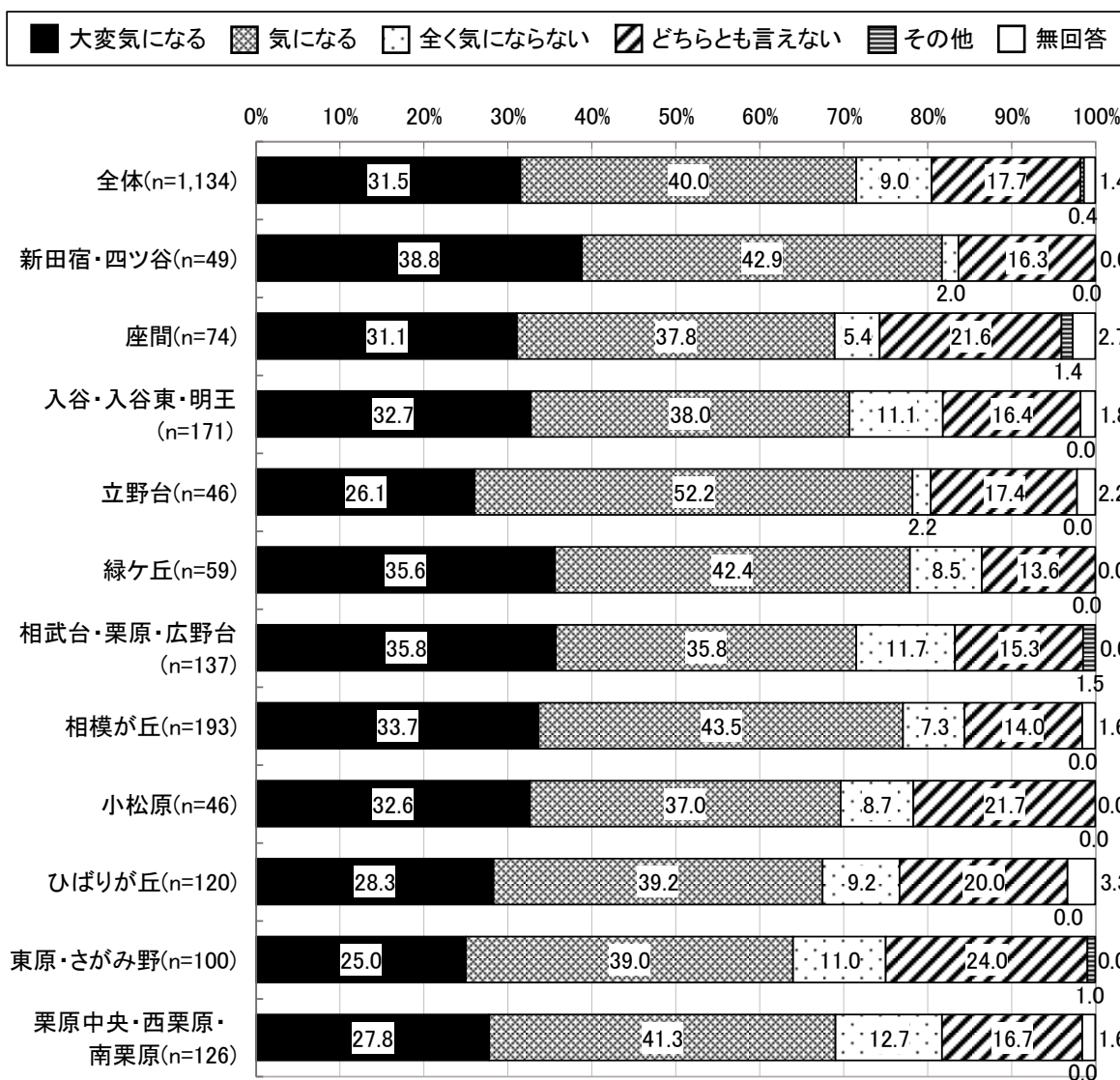


【住まいの地域別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「気になる」は、立野台で最も比率が高く5割を超えた。相模が丘、新田宿・四ツ谷、緑ヶ丘が続く。

全体で2位だった「大変気になる」は、新田宿・四ツ谷で38.8%と最も比率が高く、反対に東原・さがみ野で25.0%と最も比率が低くなっている。

「全く気にならない」は栗原中央・西栗原・南栗原で、「どちらとも言えない」は東原・さがみ野で、最も比率が高い。

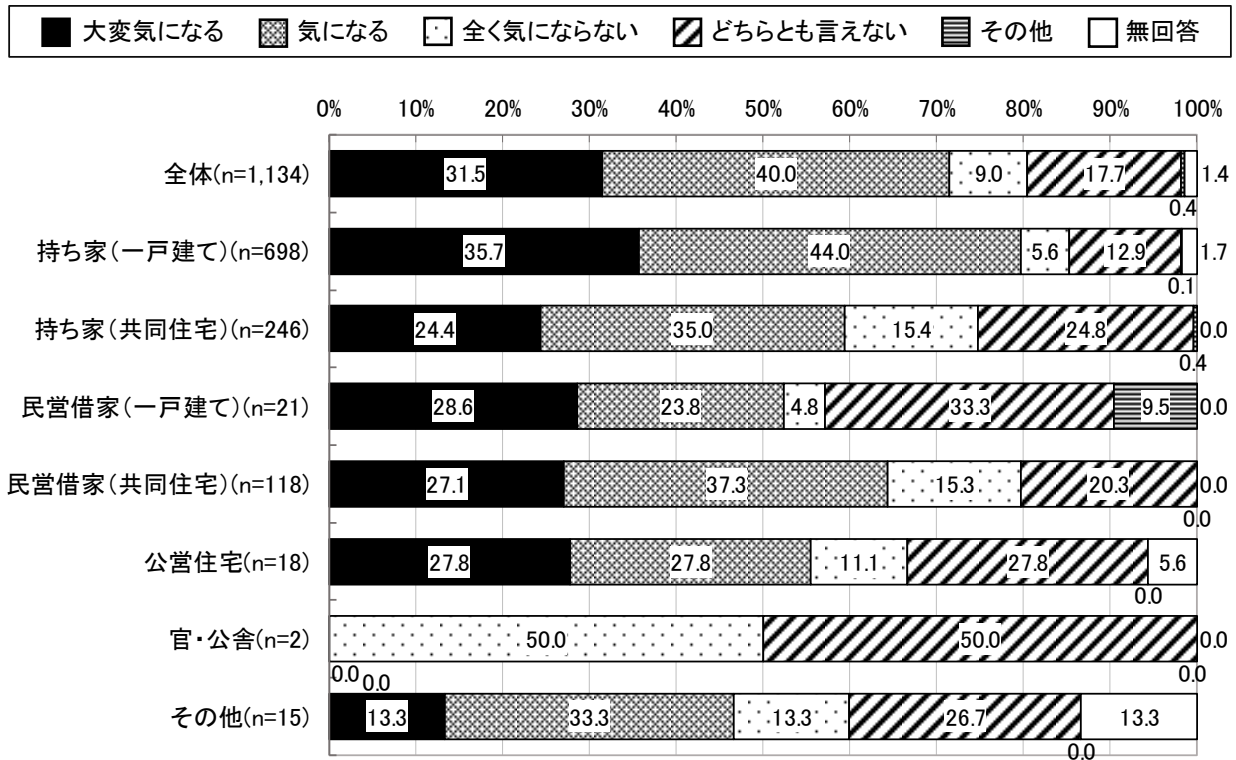


【住まいの形態別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの形態別にみると、「気になる」は、持ち家(一戸建て)で 44.0%と最も比率が高く、また、民間借家(共同住宅)も比較的高くなっている。反対に民間借家(一戸建て)で 23.8%と最も低い。

「全く気にならない」は、一戸建てよりも共同住宅で比率が高い傾向がみられる。

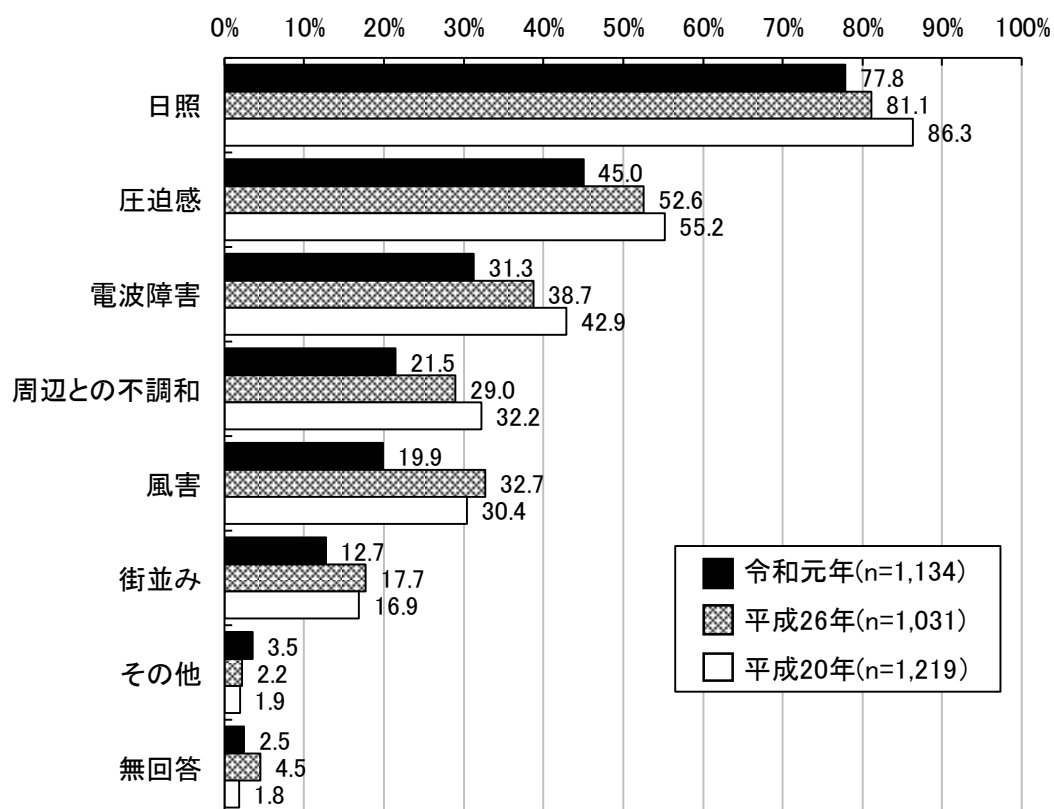
※ただし、「民間借家(一戸建て)」、「公営住宅」、「官・公舎」はサンプル数が少ないため、極端な結果になりやすいことに留意する必要がある。



(3) 中高層建築物の具体的問題点

問24 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思いますか。
【当てはまるもの全てに○】

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果、最も多かったのは、「日照」(77.8%)であった。次いで、「圧迫感」(45.0%)、「電波障害」(31.3%)、「周辺との不調和」(21.5%)、「風害」(19.9%)が続く。過去の調査と比較すると、「その他」以外のすべての比率が全体的に低くなっている。



【住まいの地域別】中高層建築物の具体的問題点

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「日照」は、小松原で9割を超え、比率が高いのが目立つ。他の地域でも6割以上となっており、極めて関心の高い問題といえる。

全体で2位だった「圧迫感」は、新田宿・四ツ谷、相武台・栗原・広野台で比率が高いのが目立ち、反対に、小松原では比較的lowかった。

「街並み」は東原・さがみ野で比率が高いのが目立つ。

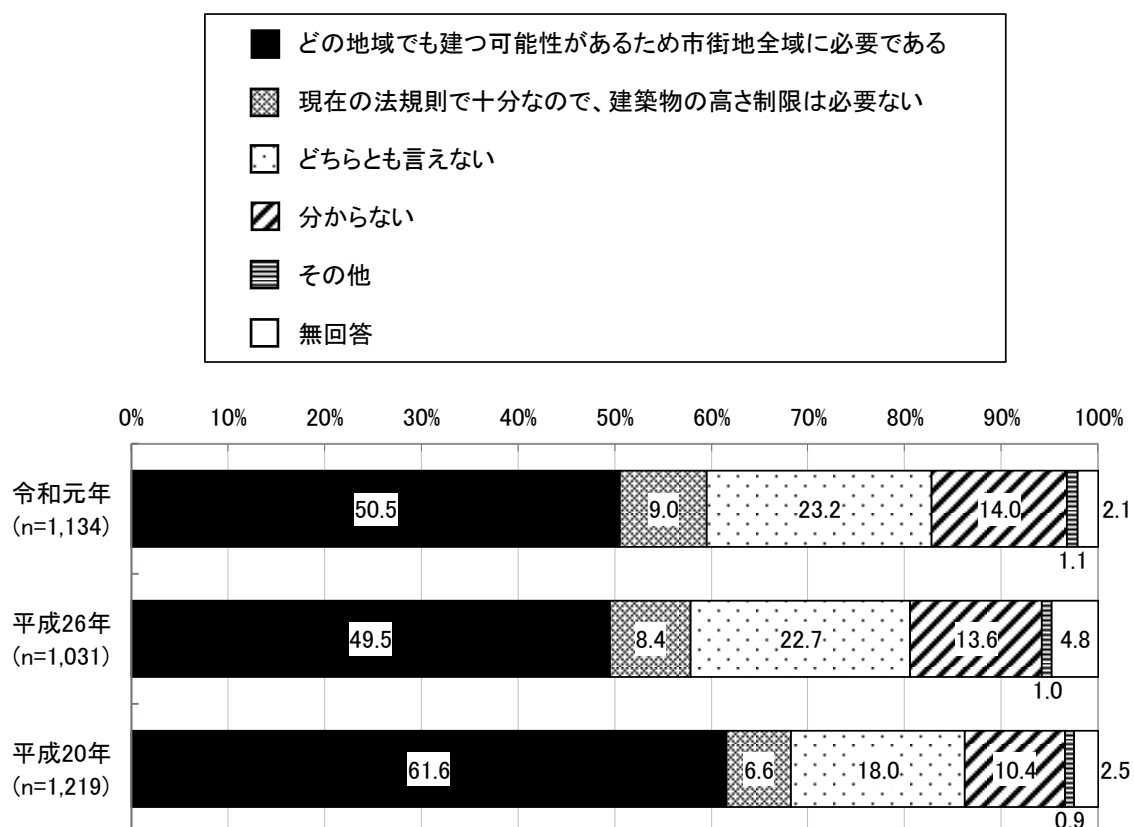
%		全 体 【 実 数 】	日 照	圧 迫 感	電 波 障 害	風 害	周 辺 と の 不 調 和	街 並 み	そ の 他	無 回 答
全 体		1,134	77.8	45.0	31.3	19.9	21.5	12.7	3.5	2.5
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	49	69.4	55.1	28.6	12.2	32.7	12.2	6.1	-
	座間	74	81.1	41.9	23.0	17.6	24.3	13.5	6.8	-
	入谷・入谷東・明王	171	73.1	48.0	36.3	16.4	18.7	9.4	2.9	4.1
	立野台	46	69.6	32.6	19.6	10.9	28.3	13.0	4.3	4.3
	緑ヶ丘	59	83.1	49.2	30.5	8.5	28.8	20.3	1.7	3.4
	相武台・栗原・広野台	137	85.4	54.0	26.3	27.0	23.4	13.1	2.9	1.5
	相模が丘	193	77.7	42.5	32.6	20.7	19.7	13.0	2.6	1.6
	小松原	46	91.3	30.4	26.1	23.9	17.4	8.7	2.2	2.2
	ひばりが丘	120	77.5	45.8	38.3	21.7	15.8	6.7	4.2	3.3
	東原・さがみ野	100	78.0	41.0	29.0	22.0	23.0	25.0	5.0	1.0
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	76.2	43.7	36.5	23.8	20.6	10.3	3.2	1.6
無回答	13	46.2	38.5	23.1	23.1	15.4	7.7	-	30.8	

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

問25 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思いますか。
【〇は1つ】

建築物の高さ制限の必要性についてどのように思うかを聞いた結果、最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(50.5%)であった。次いで、「どちらともいえない」(23.2%)、「わからない」(14.0%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(9.0%)が続く。

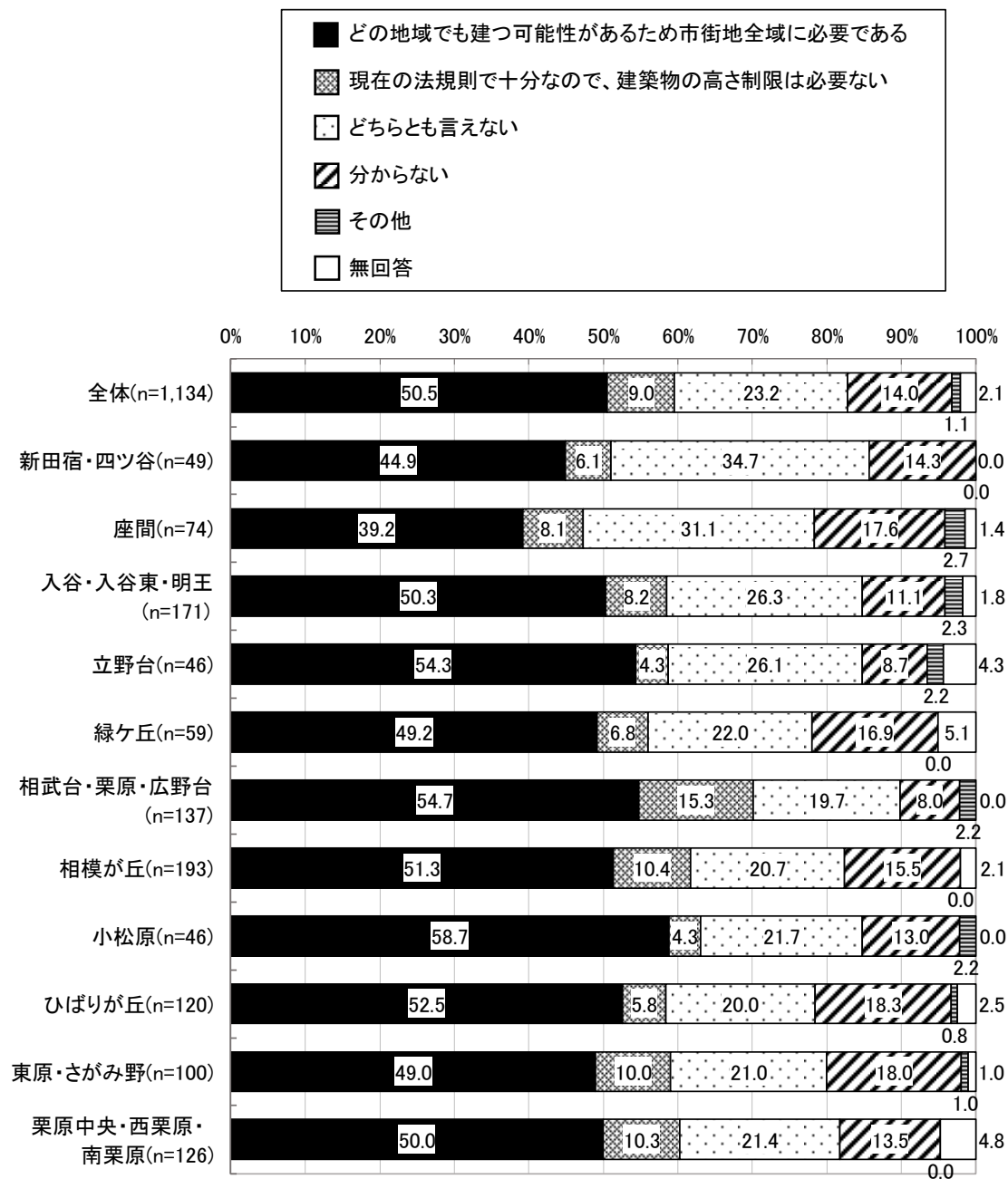
過去の調査と比較すると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」が 1.0 ポイント増加しているが、傾向はほぼ変わっていない。



【住まいの地域別】建築物の高さ制限の必要性について

住まいの地域別にみると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要なである」は、小松原で最も高くなっている。反対に、座間で 39.2%と目立って比率が低い。

「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」は、相武台・栗原・広野台で比較的比率が高く、立野台、小松原で比較的比率が低くなっている。



7 防災について

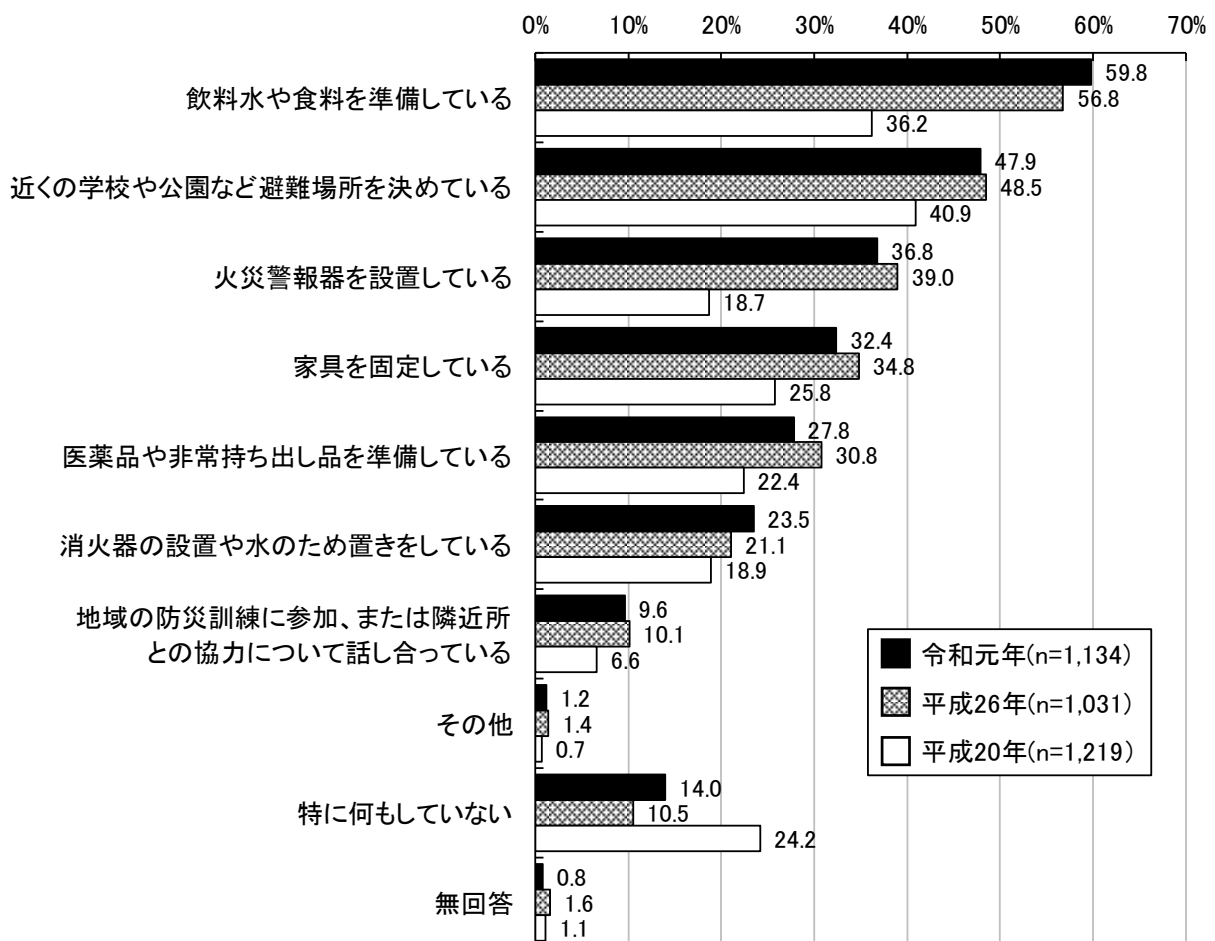
(1) 地震や火災に備えてとっている対策

問26 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。
【当てはまるもの全てに○】

地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果、最も多かったのは、「飲料水や食料を準備している」(59.8%)であった。次いで、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(47.9%)、「火災警報器を設置している」(36.8%)、「家具を固定している」(32.4%)、「医薬品や非常持ち出し品を準備している」(27.8%)、「消火器の設置や水のため置きをしている」(23.5%)が続く。

過去の調査と比較すると、「飲料水や食料を準備している」、「消火器の設置や水のため置きをしている」、「特に何もしていない」の比率が前回(平成26年)より高くなっているが、その他の項目では低くなっている。

前回(平成26年)の調査は、平成23年の東日本大震災後の調査により、市民の防災意識が強まったためと推測される。



【住まいの地域別】地震や火災に備えてとっている対策

住まいの地域別にみると、「特に何もしていない」の比率は、相模が丘が 18.1%と最も高く、反対に最も低い比率は立野台で 6.5%となっている。

全体で1位であった「飲料水や食料を準備している」は、すべての地域で 5 割を超え、最も比率が低かった栗原中央・西栗原・南栗原でも 50.0%となっている。

全体で2位であった「近くの学校や公園など避難場所を決めている」は、緑ヶ丘と立野台で 6 割を超え、最も比率が高くなっている。

「地域の防災訓練に参加、または隣近所との協力について話し合っている」は、入谷・入谷東・明王で最も高く 17.0%となっている。反対に相模が丘と座間で比率が低いのが目立つ。

	%	全 体 【 実 数 】	避 難 の 場 所 を 決 め て い る	家 具 を 固 定 し て い る	飲 料 水 や 食 料 を 準 備 し て い る	消 火 器 の 設 置 や 水 の た め 置 き を し て い る	医 薬 品 や 非 常 持 ち 出 し 品 を 準 備 し て い る	つ ま 地 域 の 防 災 訓 練 に 参 加 、 ま た は 隣 近 所 と の 協 力 に 関 心 を も つ て い る	火 災 警 報 器 を 設 置 し て い る	そ の 他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
全体		1,134	47.9	32.4	59.8	23.5	27.8	9.6	36.8	1.2	14.0	0.8
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	49	53.1	42.9	75.5	22.4	42.9	6.1	26.5	2.0	10.2	-
	座間	74	39.2	24.3	56.8	27.0	36.5	4.1	27.0	2.7	16.2	-
	入谷・入谷東・明王	171	53.2	36.3	63.2	28.1	26.9	17.0	46.2	-	12.3	-
	立野台	46	60.9	30.4	54.3	23.9	30.4	6.5	32.6	2.2	6.5	2.2
	緑ヶ丘	59	64.4	37.3	67.8	30.5	32.2	13.6	42.4	1.7	15.3	-
	相武台・栗原・広野台	137	42.3	32.1	65.0	24.1	28.5	16.8	36.5	2.2	11.7	-
	相模が丘	193	39.9	34.7	54.4	23.3	27.5	3.6	34.7	1.0	18.1	1.0
	小松原	46	45.7	34.8	63.0	26.1	28.3	6.5	43.5	4.3	10.9	-
	ひばりが丘	120	51.7	34.2	56.7	17.5	25.8	8.3	31.7	1.7	12.5	2.5
	東原・さがみ野	100	44.0	30.0	65.0	26.0	30.0	7.0	35.0	-	14.0	-
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	50.0	22.2	50.0	15.9	13.5	9.5	38.9	-	16.7	2.4
	無回答	13	46.2	30.8	53.8	7.7	38.5	7.7	46.2	-	23.1	-

(2) 防災対策として力を入れるべき施策

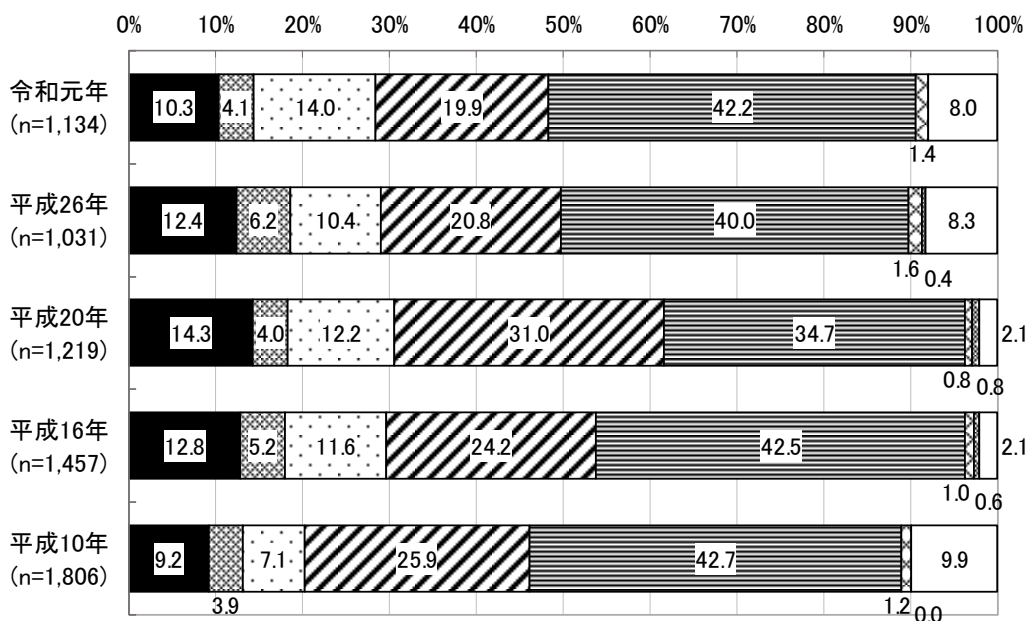
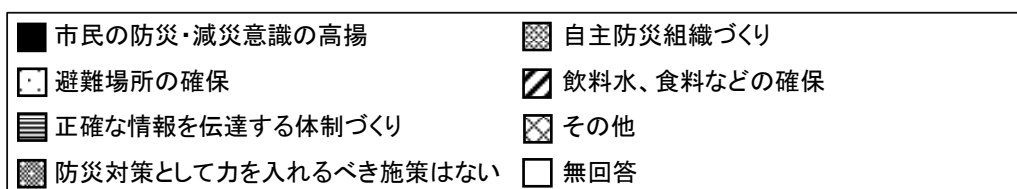
問27 防災・減災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。【〇は1つ】

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(42.2%)であった。次いで、「飲料水、食料などの確保」(19.9%)、「避難場所の確保」(14.0%)、「市民の防災・減災意識の高揚」(10.3%)、「自主防災組織づくり」(4.1%)が続く。

過去の調査と比較すると、「正確な情報を伝達する体制づくり」は、前々回(平成20年)まで減少傾向にあったが、前回(平成26年)に引き続き、今回(令和元年)の調査でも増加がみられた。反対に「市民の防災・減災意識の高揚」、「飲料水、食料などの確保」は前々回(平成20年)まで増加傾向にあったものが前回(平成26年)の調査より減少に転じている。

全体の順位について、1位2位は変わらないが、前回(平成26年)4位だった「避難場所の確保」が、今回(令和元年)は3位に上がった。

※今回(令和元年)の調査項目より、「防災対策として力を入れるべき施策はない」の調査項目を削除している。

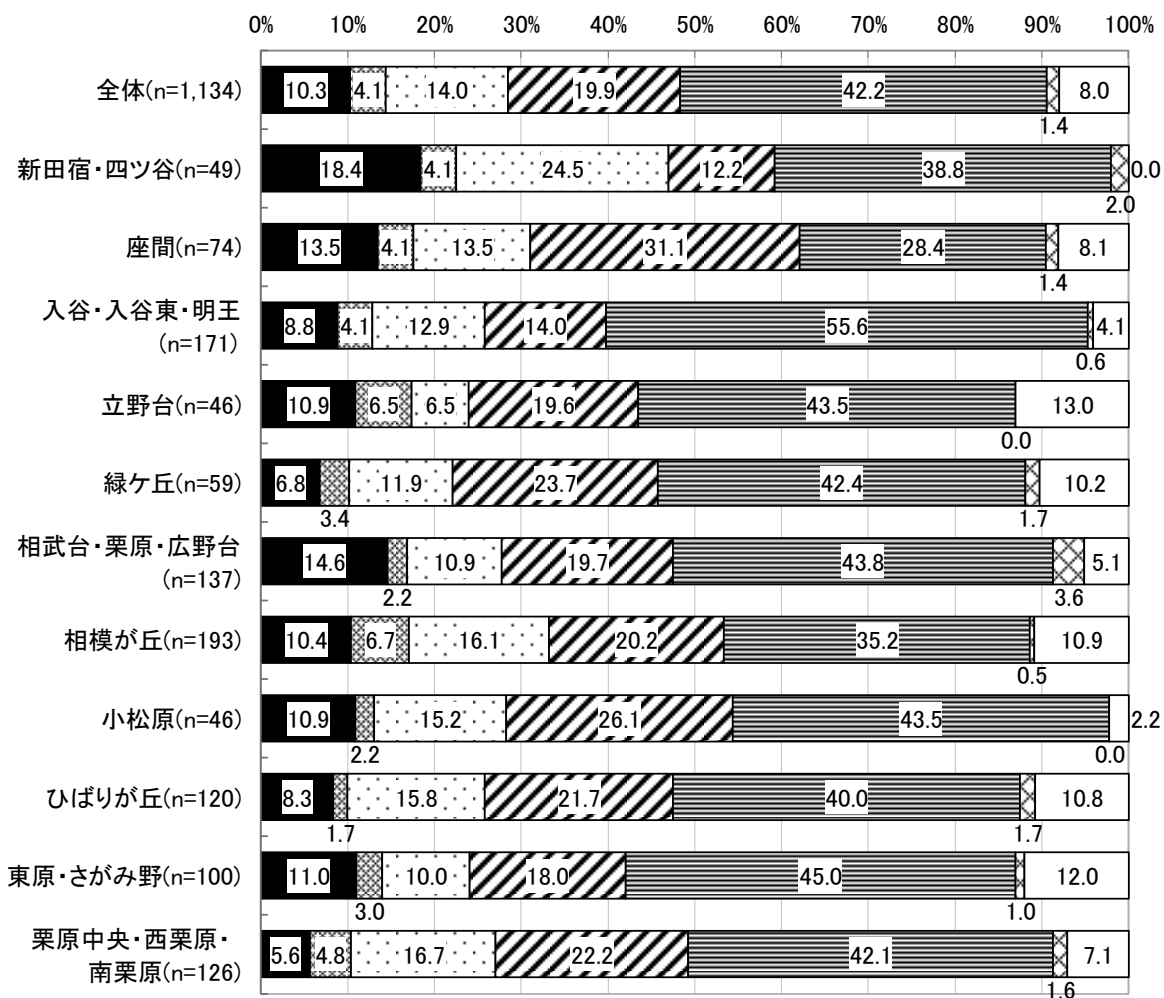
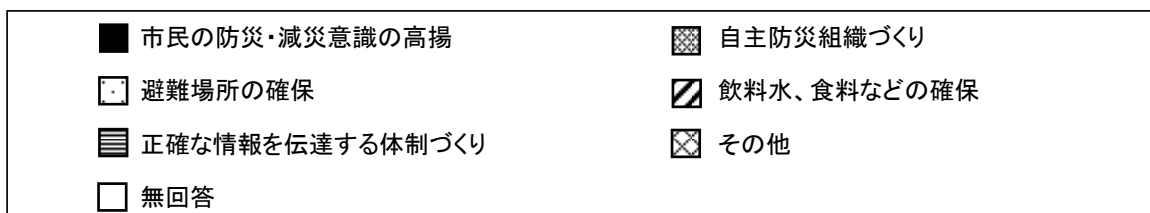


【住まいの地域別】防災対策として力を入れるべき施策

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「正確な情報を伝達する体制づくり」は、入谷・入谷東・明王で最も比率が高く、次いで東原・さがみ野の順であった。反対に、座間是他地域に比べ比率の低さが目立つ。

全体で2位だった「飲料水、食料などの確保」は、座間で比率が高くなっている。反対に、新田宿・四ツ谷、入谷・入谷東・明王が比較的lowかった。

全体で3位だった「避難場所の確保」は、新田宿・四ツ谷で最も高かった。反対に、立野台は6.5%で、他地域に比べ最も低い比率となった。

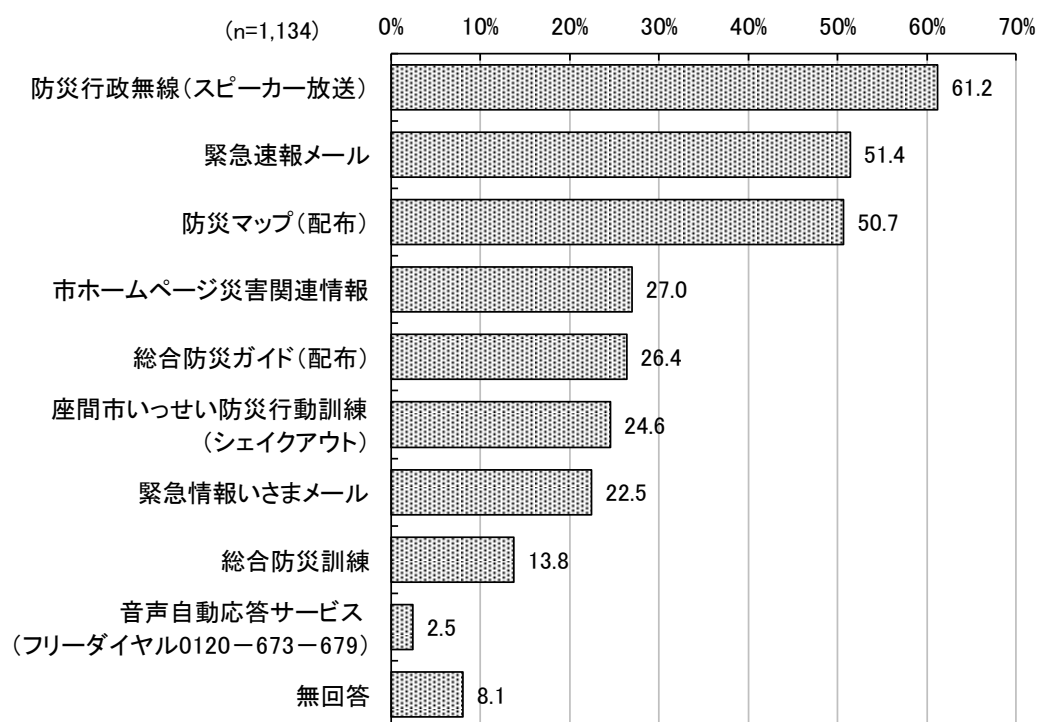


(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

問28 座間市が提供・実施している防災・減災対策や、災害時の情報伝達手段について知っていますか。【知っているもの全てに○】

防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度を聞いた結果、最も多かったのは、「防災行政無線(スピーカー放送)」(61.2%)であった。次いで、「緊急速報メール」(51.4%)、「防災マップ(配布)」(50.7%)、「市ホームページ災害関連情報」(27.0%)、「総合防災ガイド(配布)」(26.4%)、「座間市いっせい防災行動訓練(シェイクアウト)」(24.6%)、「緊急情報いさまメール」(22.5%)が続く。

「防災行政無線(スピーカー放送)」と「緊急速報メール」、「防災マップ(配布)」で特に比率が高く、反対に「音声自動応答サービス」は極端に認知度が低くなっている。



【住まいの地域別】防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「防災行政無線(スピーカー放送)」は、すべての地域で5割を超え、特に緑ヶ丘と小松原が最も比率が高くなっている。

全体で2位だった「緊急速報メール」は、新田宿・四ツ谷で最も高く、6割を超えている。

	%	全 体 【 実 数 】	市 ホ ー ム ペ ー ジ 災 害 関 連 情 報	防 災 行 政 無 線 (ス ピ ー カ ー 放 送)	音 声 自 動 応 答 サ ー ビ ス (フ リ ー ダ イ ヤ ル)	緊 急 情 報 い さ ま メ ー ル	座 間 市 い つ せ い 防 災 行 動 訓 練 (シ エ イ ク ア ウ ト)	緊 急 速 報 メ ー ル	防 災 マ ッ プ (配 布)	総 合 防 災 ガ イ ド (配 布)	総 合 防 災 訓 練	無 回 答
全 体		1,134	27.0	61.2	2.5	22.5	24.6	51.4	50.7	26.4	13.8	8.1
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	49	28.6	61.2	2.0	32.7	20.4	61.2	53.1	24.5	16.3	-
	座間	74	28.4	50.0	2.7	23.0	25.7	50.0	41.9	18.9	14.9	10.8
	入谷・入谷東・明王	171	31.0	64.9	2.9	23.4	21.6	53.2	54.4	32.2	11.7	5.8
	立野台	46	26.1	52.2	2.2	17.4	13.0	45.7	39.1	13.0	10.9	8.7
	緑ヶ丘	59	32.2	67.8	3.4	30.5	28.8	50.8	45.8	23.7	13.6	15.3
	相武台・栗原・広野台	137	25.5	65.0	5.1	25.5	36.5	49.6	56.9	32.1	26.3	8.0
	相模が丘	193	28.0	60.6	1.0	20.7	22.3	48.7	52.3	28.5	11.4	8.8
	小松原	46	26.1	67.4	-	19.6	23.9	56.5	54.3	17.4	8.7	2.2
	ひばりが丘	120	23.3	60.0	3.3	17.5	20.8	46.7	40.8	20.8	15.0	10.0
	東原・さがみ野	100	22.0	57.0	2.0	25.0	28.0	57.0	54.0	28.0	13.0	8.0
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	25.4	63.5	1.6	19.0	25.4	53.2	53.2	26.2	7.9	7.1
無回答	13	30.8	46.2	-	15.4	7.7	46.2	46.2	38.5	7.7	23.1	

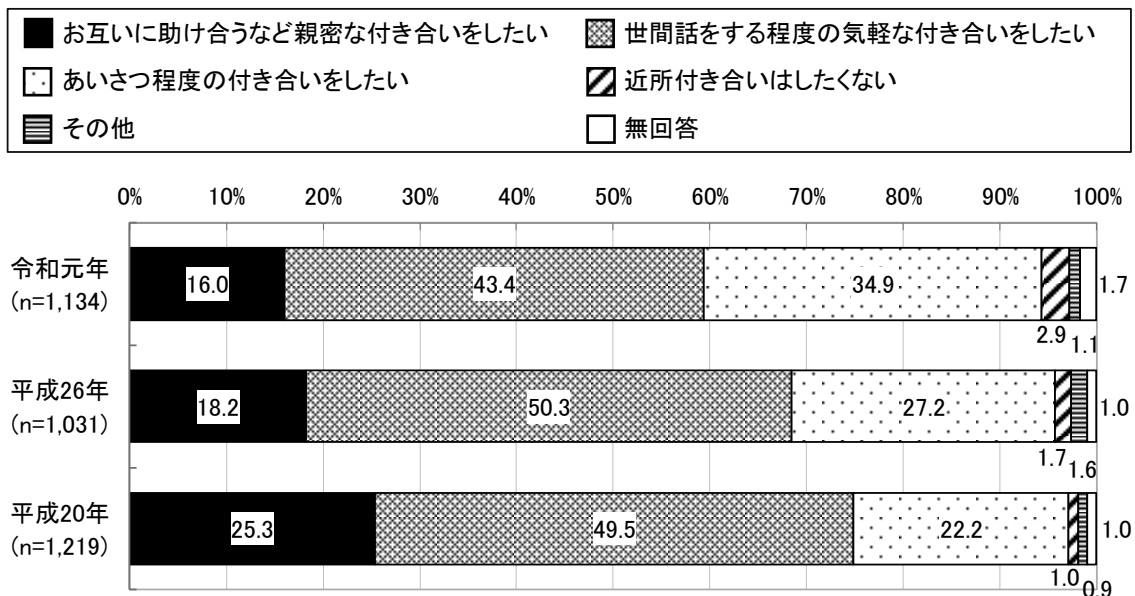
8 コミュニティ活動について

(1) 今後の近所づきあい

問29 今後どのような近所付き合いをしていきたいと思えますか。
【〇は1つ】

今後の近所づきあいを聞いた結果、最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(43.4%)であった。次いで、「あいさつ程度のつきあいをしたい」(34.9%)、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」(16.0%)、「近所づきあいはしたくない」(2.9%)が続く。

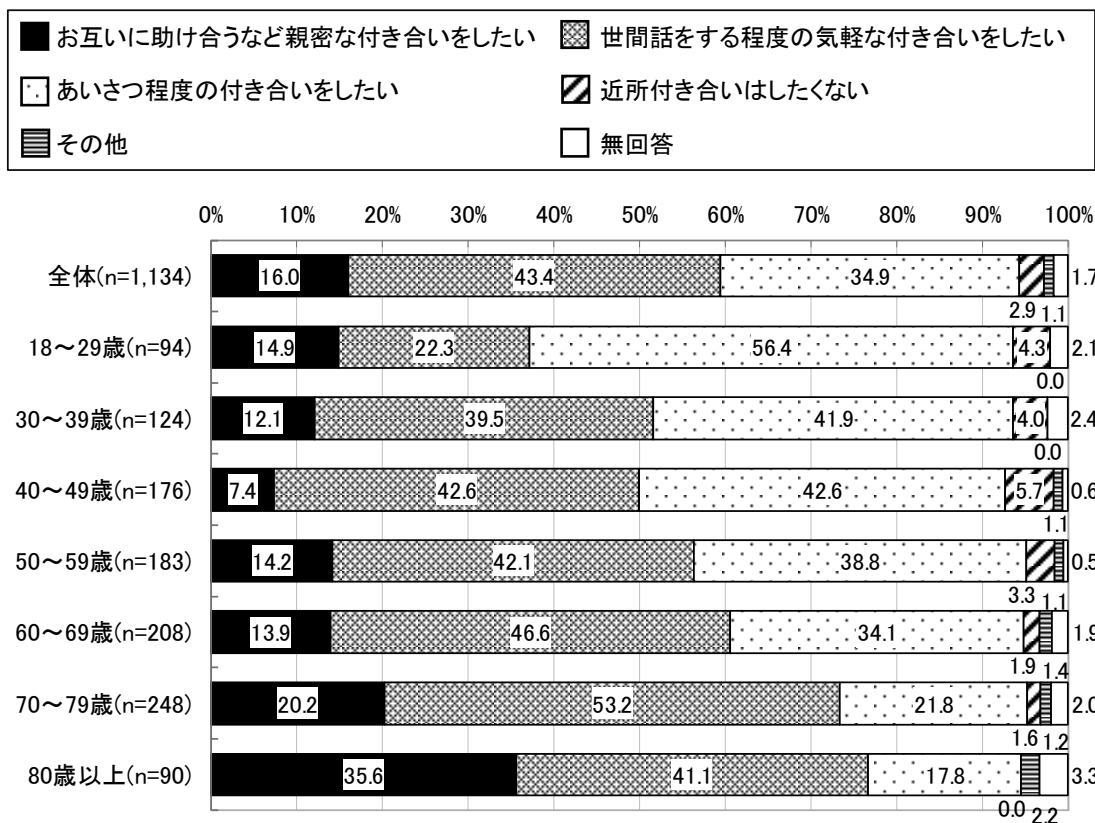
過去の調査結果と比較すると、「あいさつ程度のつきあいをしたい」、「近所づきあいはしたくない」は前回(平成26年)調査より比率が高くなっている。反対に「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は前回(平成26年)調査より比率が低くなっている。近所づきあいについて、親密な関係より、ある程度の距離をもった近所づきあいが求められている様子がうかがえる。



【年齢別】今後の近所づきあい

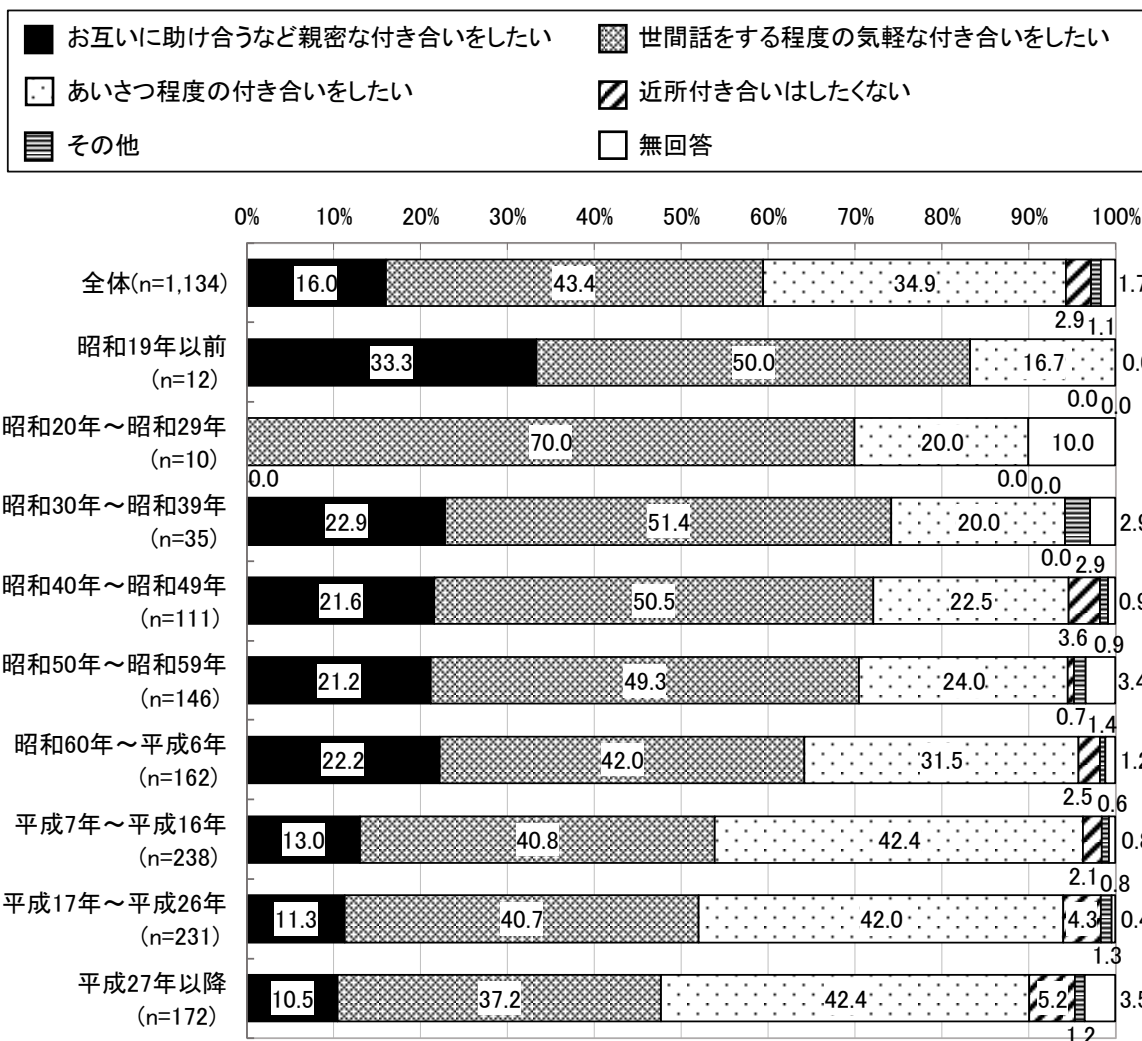
年齢別にみると、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、1位は70歳代で、60歳代と続く。「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は、1位は80歳以上で全体的に高くなっており、40歳代が低い傾向がみられる。

一方、「あいさつ程度のつきあいをしたい」については18歳～29歳が 56.4%、「近所づきあいはしたくない」については40歳代が 5.7%となっている。



【在住年数別】今後の近所づきあい

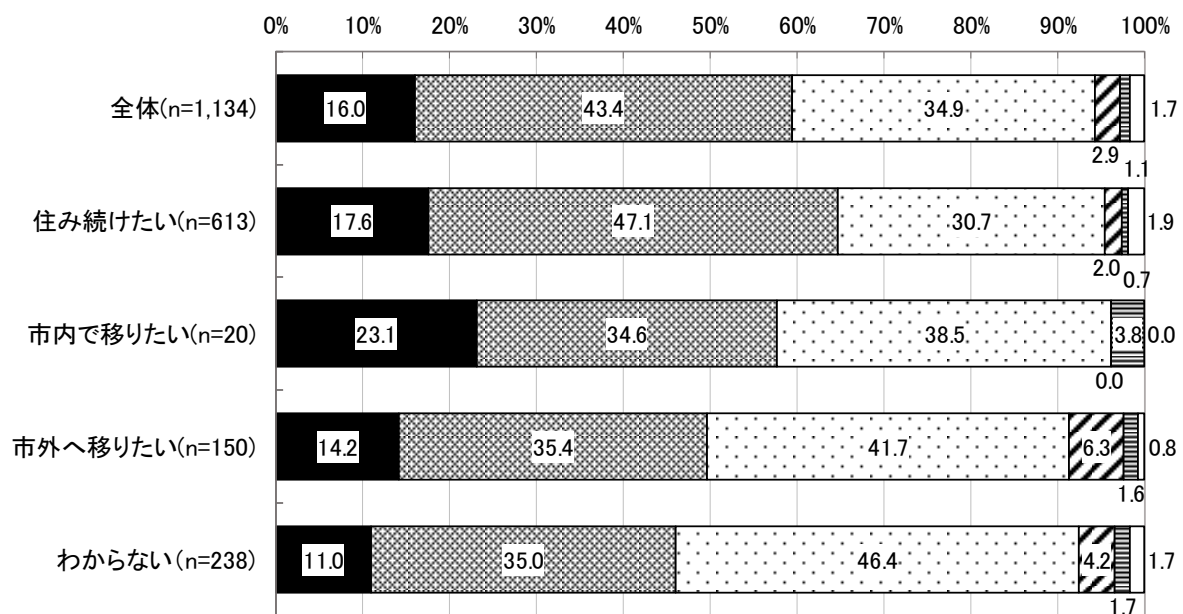
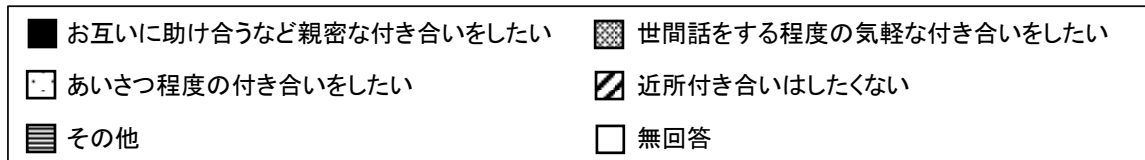
在住年数別にみると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は昭和19年以前で 33.3%となっており、最も比率が高くなっている。次いで、昭和30年～昭和39年(22.9%)、昭和60年～平成6年(22.2%)と続く。また、「あいさつ程度の付き合いをしたい」は在住年数が少ないほど比率が高くなっており、「近所づきあいはしたくない」と回答した人は、平成17年～平成26年以降で比率が高くなっている。全体的に居住年数が少ないほど、一定の距離感を保った近所づきあいを望んでいることがわかる。



【定住意識別】今後の近所づきあい

定住意識別にみると、全体で1位だった「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、住み続けたい層で比率が最も高くなっている。一方、「近所づきあいはしたくない」は市外へ移りたい層で6.3%となっている。

住み続けたいといった定住意識が強い層においても、気軽な付き合い、あいさつ程度の付き合いを望む回答が8割弱となっている。



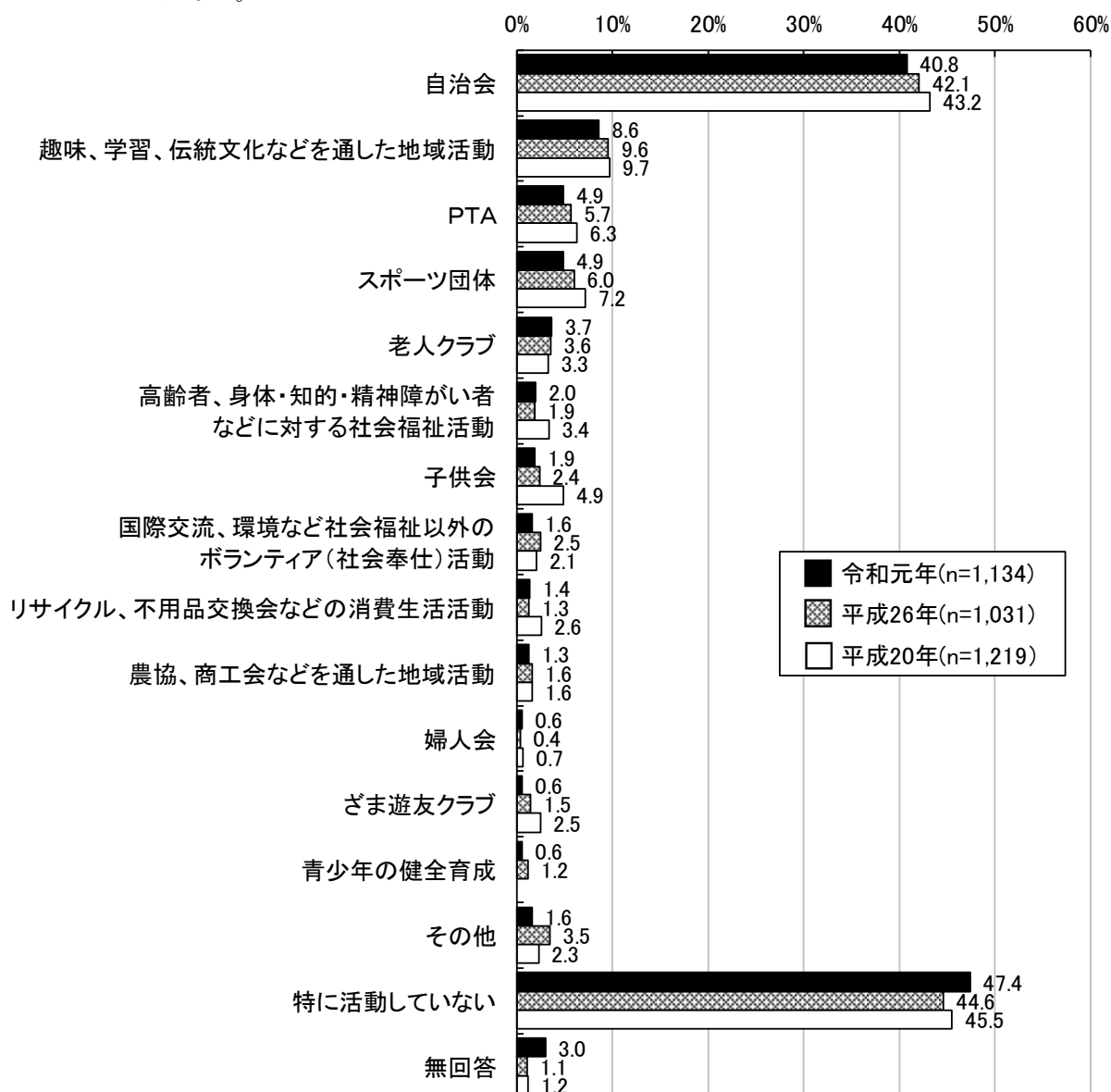
(2) 実際に参加している団体・活動

問30 あなたはどのような地域活動に参加していますか。
【当てはまるもの全てに○】

実際に参加している団体・活動を聞いた結果、最も多かったのは、「自治会」(40.8%)であった。次いで、「趣味・学習・伝統文化などを通じた地域活動」(8.6%)、「PTA」と「スポーツ団体」(4.9%)が続く。また、「特に活動していない」(47.4%)の比率が高いが目立つ。

過去の調査結果と比較すると、「老人クラブ」、「高齢者、身体・知的・精神障がい者などに対する社会福祉活動」、「リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動」、「婦人会」で前回(平成26年)よりわずかに比率が高くなっているが、その他の項目については減少している。特に「自治会」の減少傾向が目立っている。

※「青少年の健全育成」は前回(平成26年)より調査項目に加わったため、前々回(平成20年)のデータはない。



【職業別】実際に参加している団体・活動

職業別にみると、「特に活動していない」の比率が最も高かったのは学生で、72.7%と7割を超えた。反対に低かったのは、専業主婦・主夫で33.5%となっている。全体で2位だった「自治会」は、農林業、労務職、専業主婦・主夫でともに5割となった。

農林業、専業主婦・主夫、無職、人材派遣会社への登録では、「趣味・学習・伝統文化などを通じた地域活動」などの比率が他よりも比較的高くなっている。また、商工業、農林業では、「スポーツ団体」で比較的高い比率となっている。

(その1)

%		全 体 【 実 数 】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体
全 体		1,134	40.8	1.9	0.6	3.7	4.9	0.6	0.6	4.9
職 業	商工業	27	37.0	3.7	-	-	3.7	-	-	11.1
	サービス業	101	25.7	1.0	-	2.0	3.0	-	-	1.0
	農林業	6	50.0	-	-	-	-	-	-	16.7
	専門、技術職	96	30.2	2.1	-	-	9.4	-	2.1	4.2
	事務職	122	32.0	4.1	-	-	6.6	2.5	1.6	4.1
	労務職	54	50.0	1.9	-	3.7	5.6	-	-	3.7
	人材派遣会社への登録	22	27.3	-	-	-	4.5	-	-	9.1
	パート、アルバイト	177	48.6	3.4	-	0.6	10.7	1.1	0.6	5.6
	学生	33	18.2	6.1	-	-	-	-	-	3.0
	専業主婦・主夫	194	50.0	1.0	3.1	4.6	5.7	1.0	0.5	5.7
	無職	237	46.8	0.8	-	10.1	-	-	0.4	5.9
	その他	49	34.7	-	-	4.1	-	-	-	4.1
	無回答	16	37.5	-	6.3	12.5	-	-	-	-

(その2)

%		通農協、 農協、 協した 地域活 動など を	趣味、 学習、 伝統文 化など を	社精高 会神齡 福障者 祉が、 活動い 者など ・知的 ・対 する	（社 会福 祉以 外）の ボラ ンテ ィア 活動	国際交 流、環 境など のボラ ンテ ィア	なリサ イクル の消費 生活、 不用品 交換会	その 他	特に活 動して いない	無 回 答
全 体		1.3	8.6	2.0	1.6	1.4	1.6	47.4	3.0	
職 業	商工業	3.7	3.7	3.7	3.7	-	-	55.6	-	
	サービス業	2.0	2.0	1.0	-	2.0	-	67.3	2.0	
	農林業	50.0	16.7	-	-	-	-	50.0	-	
	専門、技術職	2.1	4.2	2.1	3.1	1.0	2.1	61.5	-	
	事務職	0.8	0.8	0.8	1.6	-	-	60.7	1.6	
	労務職	1.9	1.9	1.9	-	1.9	-	46.3	-	
	人材派遣会社への登録	-	13.6	-	-	-	-	68.2	-	
	パート、アルバイト	0.6	6.8	0.6	0.6	2.3	2.3	37.9	3.4	
	学生	-	-	9.1	-	-	-	72.7	-	
	専業主婦・主夫	0.5	17.0	2.6	1.5	2.6	2.1	33.5	4.1	
	無職	0.8	15.2	2.5	2.5	1.3	1.3	38.8	5.1	
	その他	2.0	4.1	4.1	2.0	-	6.1	46.9	6.1	
	無回答	-	6.3	-	6.3	-	12.5	43.8	6.3	

【性別・年齢別】実際に参加している団体・活動

性別・年齢別にみると、「特に活動していない」は、加齢にともなって減少する傾向となっており、特に女性にその傾向がみられる。18歳～29歳では「特に活動していない」が男性で7割以上、女性で8割以上となっており、他の年代よりも比率が高いが目立つ。

「自治会」は男性では60歳以降、女性では40歳以降の参加率が高く、4割を超えている。

「趣味・学習・伝統文化などを通じた地域活動」は男女とも、加齢にともなって増加する傾向がみられ、70～79歳でピークとなっている。

(その1)

		%	全 体 【実数】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体
全体			1,134	40.8	1.9	0.6	3.7	4.9	0.6	0.6	4.9
性別・年齢	男性	全体	488	38.5	1.8	-	3.9	3.1	0.2	0.8	6.1
		18～29歳	39	15.4	2.6	-	-	-	-	-	2.6
		30～39歳	51	23.5	3.9	-	-	2.0	-	-	2.0
		40～49歳	69	29.0	2.9	-	-	13.0	1.4	2.9	4.3
		50～59歳	65	32.3	3.1	-	-	6.2	-	1.5	7.7
		60～69歳	102	45.1	1.0	-	2.9	1.0	-	1.0	5.9
		70～79歳	119	53.8	0.8	-	8.4	-	-	-	10.9
		80歳以上	43	44.2	-	-	14.0	-	-	-	2.3
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	全体	636	42.6	2.0	1.1	3.6	6.3	0.9	0.5	4.1
		18～29歳	54	14.8	1.9	-	-	-	-	1.9	-
		30～39歳	72	19.4	-	-	-	15.3	2.8	-	4.2
		40～49歳	106	41.5	7.5	-	-	19.8	2.8	0.9	5.7
		50～59歳	118	40.7	1.7	-	-	5.9	-	-	2.5
		60～69歳	106	57.5	1.9	2.8	0.9	-	0.9	0.9	4.7
		70～79歳	129	49.6	-	3.1	7.8	-	-	-	6.2
		80歳以上	47	63.8	-	-	25.5	-	-	-	2.1
無回答		4	50.0	-	-	-	25.0	-	-	-	

(その2)

		%	農協、商工会などを 通じた地域活動	趣味、学習、伝統文化などを 通じた地域活動	高齢者、身体・知的・ 精神障がい者などに対する 社会福祉活動	国際交流、環境など 社会福祉以外のボラン ティア (社会奉仕)活動	リサイクル、不用品交換会 などの消費生活活動	その他	特に活動していない	無 回 答
全体			1.3	8.6	2.0	1.6	1.4	1.6	47.4	3.0
性別・年齢	男性	全体	2.5	7.8	1.6	1.2	1.0	1.4	50.6	2.9
		18～29歳	-	2.6	5.1	2.6	-	-	74.4	2.6
		30～39歳	-	-	-	-	-	-	68.6	3.9
		40～49歳	1.4	1.4	2.9	1.4	2.9	-	60.9	1.4
		50～59歳	1.5	1.5	-	-	-	-	61.5	-
		60～69歳	2.9	7.8	2.0	2.0	-	2.0	43.1	1.0
		70～79歳	3.4	17.6	1.7	1.7	1.7	2.5	31.9	4.2
		80歳以上	7.0	14.0	-	-	2.3	4.7	44.2	9.3
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	全体	0.5	9.3	2.4	1.9	1.7	1.7	44.7	3.1
		18～29歳	-	1.9	1.9	1.9	-	1.9	81.5	-
		30～39歳	1.4	1.4	-	1.4	-	-	62.5	2.8
		40～49歳	-	1.9	-	-	1.9	0.9	44.3	0.9
		50～59歳	-	4.2	0.8	-	-	-	50.8	2.5
		60～69歳	0.9	15.1	2.8	3.8	3.8	2.8	32.1	2.8
		70～79歳	0.8	20.2	5.4	3.1	2.3	3.9	34.1	4.7
		80歳以上	-	17.0	6.4	4.3	4.3	2.1	21.3	6.4
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

【在住年数別】実際に参加している団体・活動

在住年数別にみると、「特に活動していない」の比率は、在住年数が短いほど高い傾向がみられる。「自治会」では、在住年数が短いほど地域活動への参加率が低い傾向となっている。また、「PTA」は平成17年～平成26年で他よりも比率が高いのが目立つ。「農協・商工会などを通じた地域活動」は昭和19年以前で比較的高い比率であった。

(その1)

%		全 体 【 実 数 】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体
全 体		1,134	40.8	1.9	0.6	3.7	4.9	0.6	0.6	4.9
居 住 年 数	昭和19年以前	12	75.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	16.7
	昭和20年～昭和29年	10	70.0	0.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	昭和30年～昭和39年	35	65.7	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	昭和40年～昭和49年	111	59.5	0.0	1.8	11.7	0.0	0.0	0.0	5.4
	昭和50年～昭和59年	146	58.9	0.0	0.7	6.2	1.4	0.7	0.0	4.1
	昭和60年～平成6年	162	43.8	1.2	0	3.7	1.2	0.0	1.2	5.6
	平成7年～平成16年	238	34.5	3.4	0.8	1.3	4.2	0.4	1.3	5.9
	平成17年～平成26年	231	33.8	3.0	0.0	1.3	14.3	1.3	0.4	6.1
	平成27年以降	172	21.5	2.9	0.6	0.0	4.1	1.2	0.6	1.7
無回答	17	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	

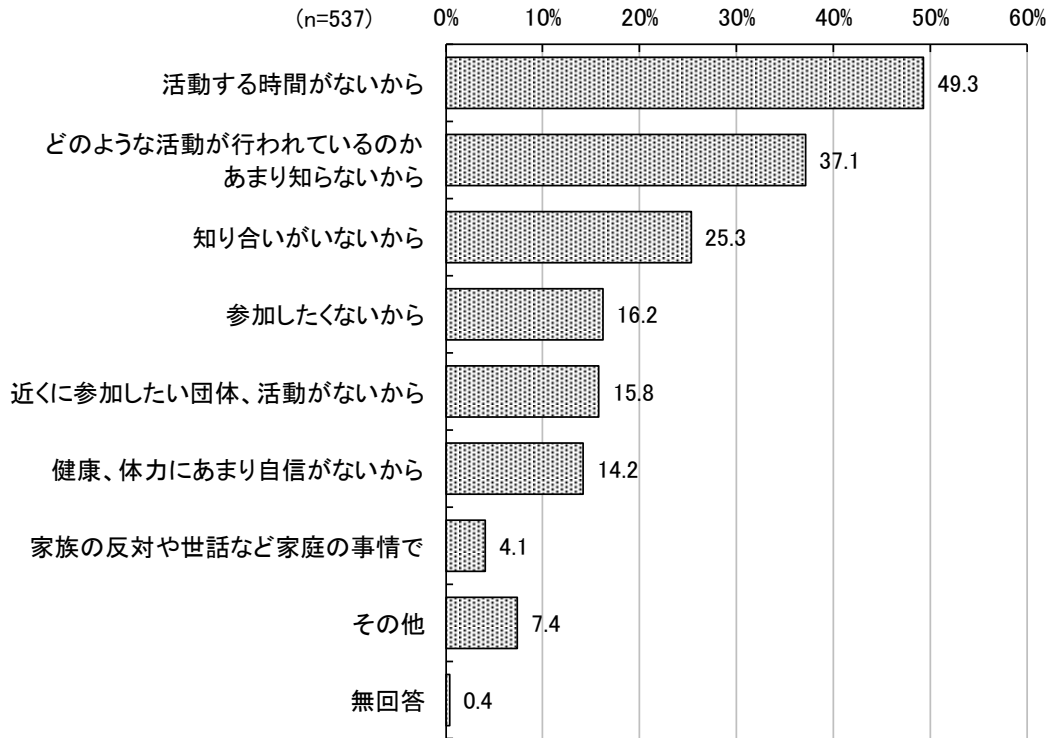
(その2)

%		農協、商工会などを通じた地域活動	趣味、学習、伝統文化などを通じた地域活動	高齢者、身体・知的・精神的な活動	国際交流、環境など（社会福祉以外のボランティア活動）	リサイクル、消費生活活動	その他	特に活動していない	無回答
全 体		1.3	8.6	2.0	1.6	1.4	1.6	47.4	3.0
居 住 年 数	昭和19年以前	33.3	16.7	-	-	-	8.3	16.7	-
	昭和20年～昭和29年	10.0	20.0	-	-	-	-	30.0	-
	昭和30年～昭和39年	2.9	5.7	-	-	2.9	8.6	22.9	8.6
	昭和40年～昭和49年	1.8	17.1	5.4	2.7	3.6	-	30.6	2.7
	昭和50年～昭和59年	2.1	15.8	3.4	4.1	2.1	2.7	30.8	3.4
	昭和60年～平成6年	0.6	9.9	1.2	1.2	1.9	2.5	41.4	3.1
	平成7年～平成16年	0.8	7.1	1.3	2.1	1.7	0.4	55.5	2.9
	平成17年～平成26年	-	6.5	2.6	0.9	0.4	0.9	49.8	3.0
	平成27年以降	0.6	-	0.6	-	-	0.6	70.3	2.3
無回答	-	5.9	-	-	-	11.8	58.8	-	

(3) 地域活動をしていない主な理由

問31 問30で「15 特に活動していない」を選択された方に伺います。活動していない主な理由は何ですか。【〇は3つまで】

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果、最も多かったのは、「活動する時間がないから」(49.3%)であった。次いで、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(37.1%)、「知り合いがいないから」(25.3%)、「参加したくないから」(16.2%)が続く。



【性別・年齢別】地域活動をしていない主な理由

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「活動する時間がないから」は、特に男性の18歳～29歳で75.9%と高い比率となった。男女ともに50歳代までは5割を超えている。

全体で2位であった「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」は、男女ともに比較的若年層の比率が高くなっている。

「参加したくないから」は、男性では40歳代、女性では18～29歳で最も高い比率となっている。

%		全 体 〔実数〕	家 族 の 反 対 や 世 話 な ど	い て ど の よ う な あ ま り 知 ら な い か ら	活 動 す る 時 間 が な い か ら	活 動 す る 時 間 が な い か ら	自 信 が な い か ら	健 康 、 体 力 に あ ま り	知 り 合 い が い ない か ら	参 加 し た く ない か ら	そ の 他	無 回 答	
全 体		537	4.1	37.1	15.8	49.3	14.2	25.3	16.2	7.4	0.4		
性別・年齢	全 体	247	2.8	30.4	15.4	48.2	13.4	25.1	16.6	8.9	0.4		
	18～29歳	29	-	31.0	20.7	75.9	6.9	24.1	10.3	3.4	3.4		
	30～39歳	35	-	37.1	11.4	68.6	-	25.7	20.0	5.7	-		
	40～49歳	42	7.1	31.0	11.9	57.1	7.1	16.7	21.4	9.5	-		
	50～59歳	40	2.5	25.0	15.0	55.0	10.0	25.0	15.0	12.5	-		
	60～69歳	44	4.5	38.6	11.4	31.8	11.4	31.8	20.5	9.1	-		
	70～79歳	38	-	26.3	26.3	31.6	18.4	28.9	15.8	7.9	-		
	80歳以上	19	5.3	15.8	10.5	5.3	63.2	21.1	5.3	15.8	-		
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	全 体	284	5.3	43.0	16.5	50.4	14.4	25.7	16.2	6.3	0.4		
	18～29歳	44	2.3	56.8	11.4	72.7	4.5	27.3	31.8	-	-		
	30～39歳	45	6.7	55.6	13.3	57.8	4.4	26.7	17.8	2.2	2.2		
	40～49歳	47	8.5	36.2	21.3	53.2	4.3	29.8	21.3	6.4	-		
	50～59歳	60	6.7	45.0	15.0	56.7	11.7	23.3	8.3	6.7	-		
60～69歳	34	2.9	50.0	23.5	41.2	14.7	29.4	14.7	8.8	-			
70～79歳	44	4.5	22.7	20.5	27.3	34.1	22.7	9.1	13.6	-			
80歳以上	10	-	10.0	-	-	80.0	10.0	-	10.0	-			
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

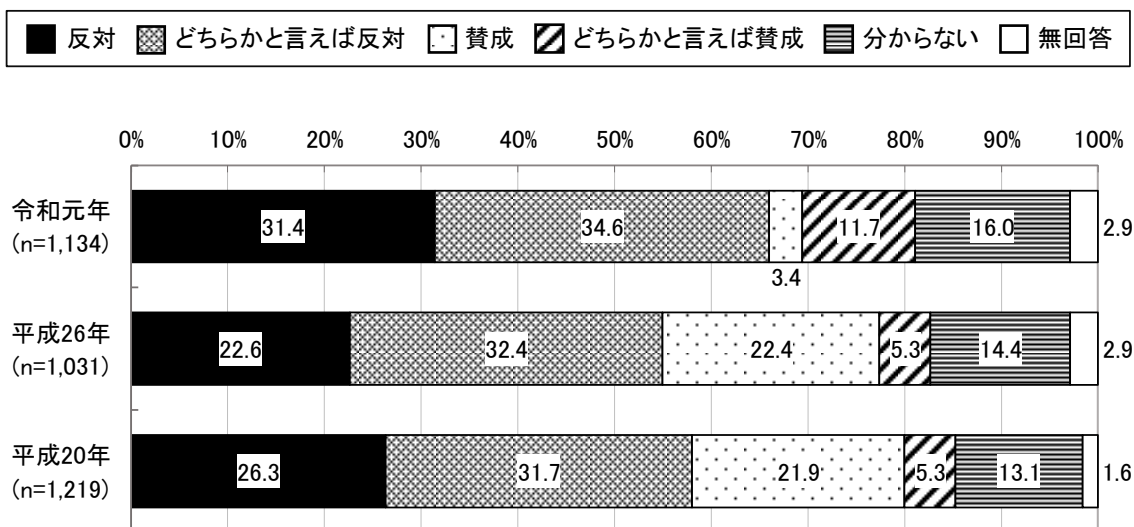
9 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

問32 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて、あなたはどのように考えますか。
【〇は1つ】

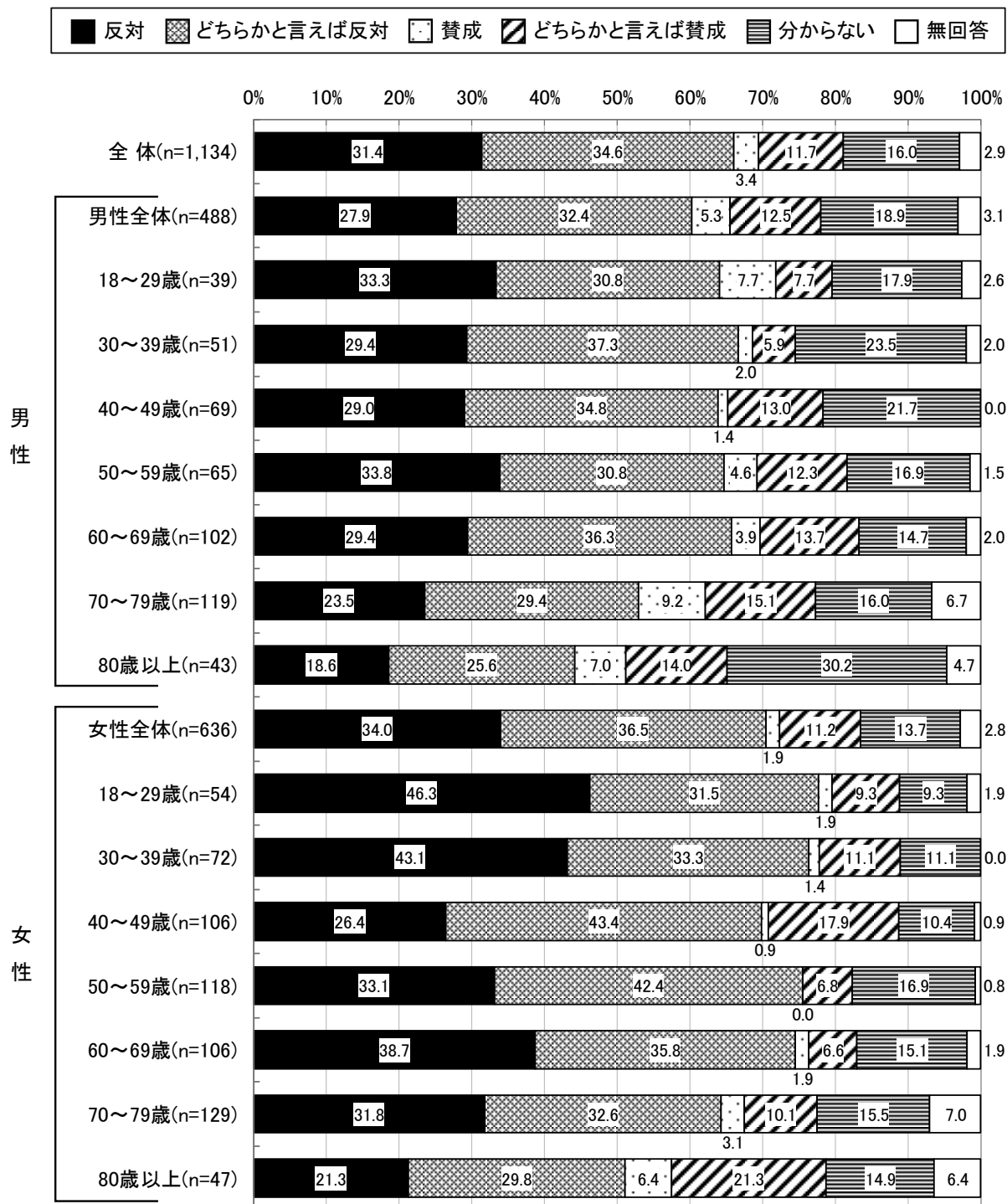
「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果、最も多かったのは、「どちらかと言えば反対」(34.6%)であった。次いで、「反対」(31.4%)、「分からない」(16.0%)、「どちらかと言えば賛成」(11.7%)、「賛成」(3.4%)が続く。「反対」、「どちらかと言えば反対」を合わせた《反対派》が、6割を超える結果となった。

過去調査と比較すると、前回(平成26年)より《反対派》が 11.0%増加する結果となった。



【性別・年齢別】「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

性別・年齢別にみると、すべての性別・年齢で、《反対派》が《賛成派》を上回る結果となった。
 《反対派》の比率は全体的にみると男性よりも女性の方が高い。特に、女性の18歳～29歳、30歳代、50歳代、60歳代で比率が高くなっている。
 「賛成」、「どちらかと言えば賛成」を合わせた《賛成派》は女性の80歳代で最も高くなっている。

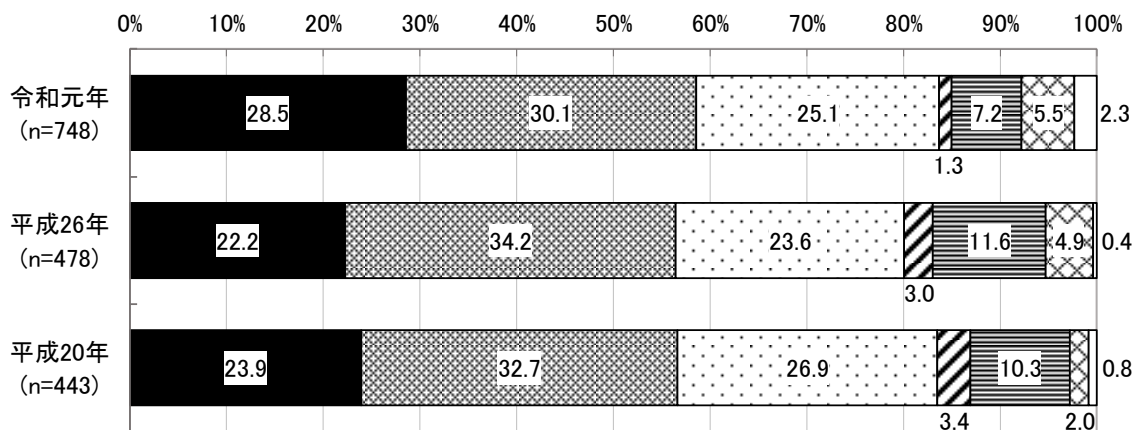
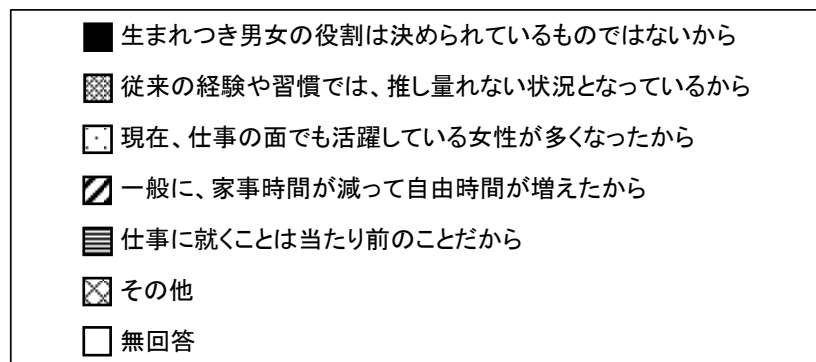


(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

問33 問32で「1 反対」または「2 どちらかと言えば反対」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

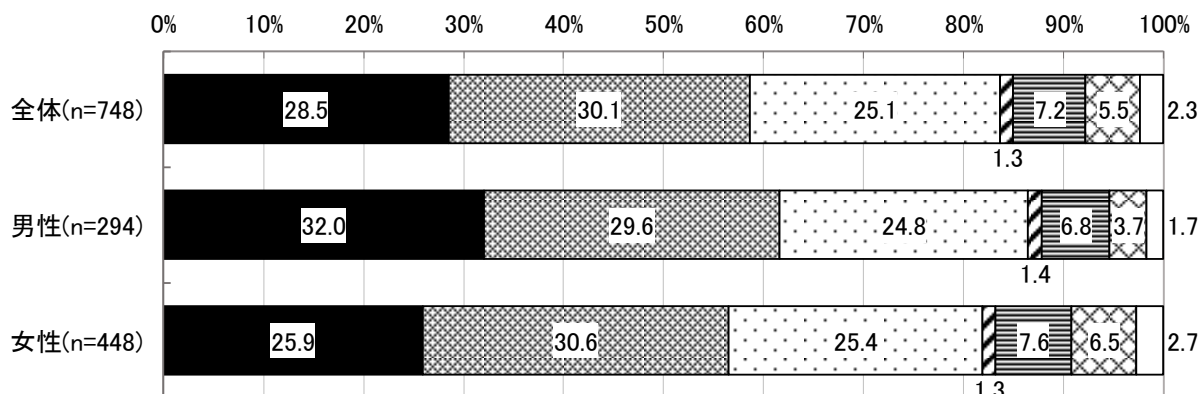
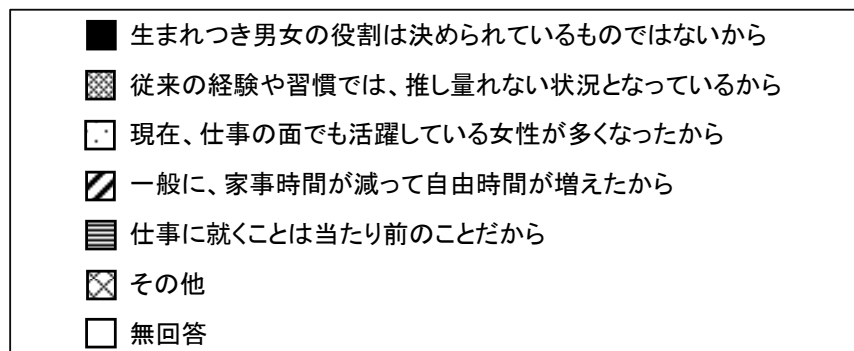
「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、推し量れない状況となっているから」(30.1%)であった。次いで、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(28.5%)、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」(25.1%)、「仕事に就くことは当たり前のことだから」(7.2%)、「一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから」(1.3%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」は今回（令和元年）の調査から比率が高くなっている。反対に、「従来の経験や習慣では、推し量れない状況となっているから」、「仕事に就くことは当たり前のことだから」は前回（平成26年）の調査より比率が低くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

性別にみると、1位は、男性が「生まれつき男女の割合は決められているものではないから」で、女性は「従来の経験や習慣では、押し量れない状況となっているから」となっている。2位は、男性が「従来の経験や習慣では、押し量れない状況になっているから」で、女性が「生まれつき男女の割合は決められているものではないから」となっている。また、女性では男性に比べ、「仕事に就くことは当たり前のことだから」が若干高い比率となった。

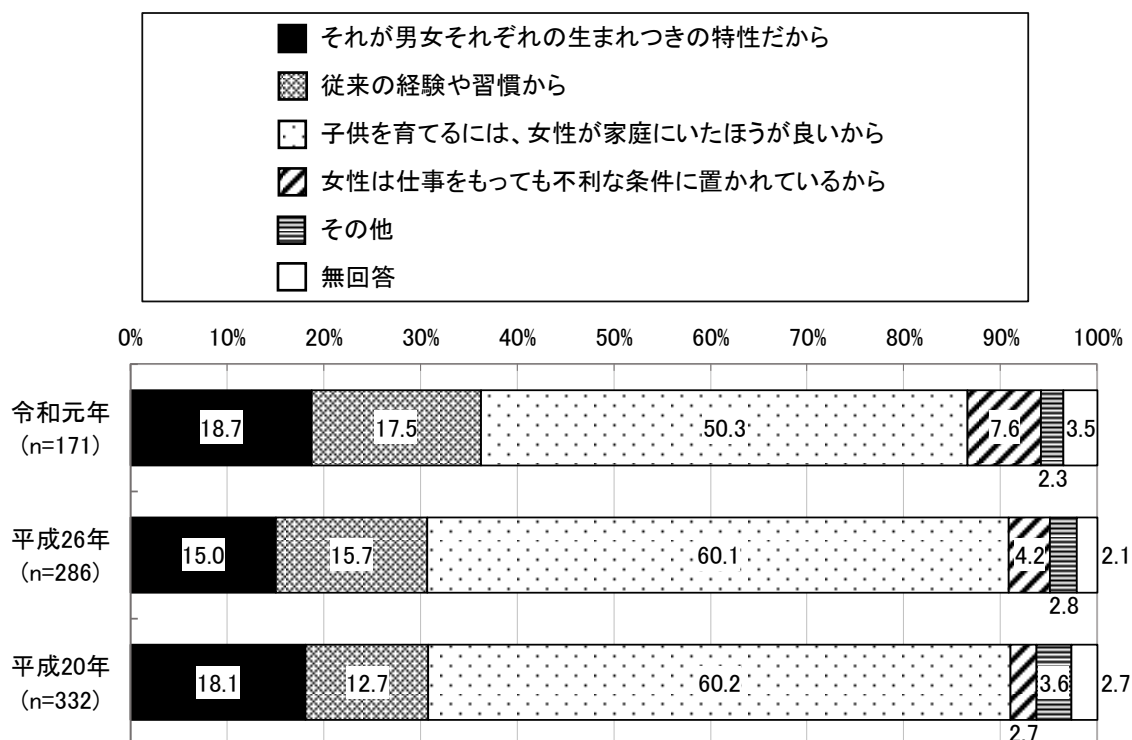


(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

問34 問32で「3 賛成」または「4 どちらかと言えば賛成」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

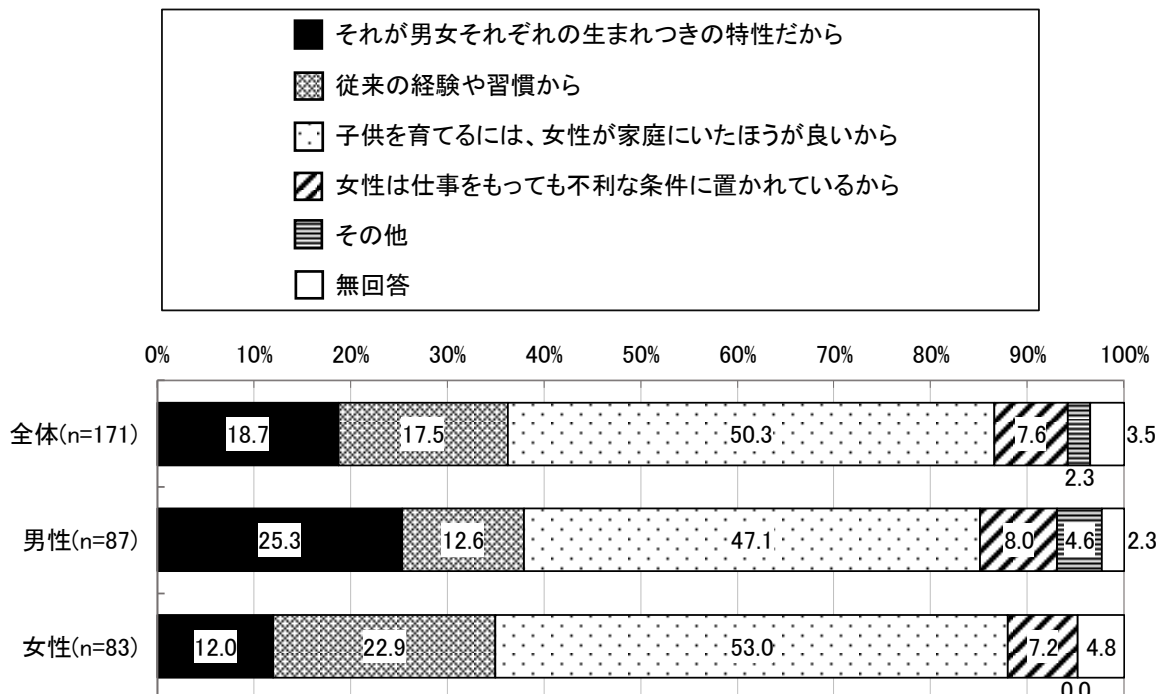
「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」(50.3%)であった。次いで、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」(18.7%)、「従来の経験や習慣から」(17.5%)、「女性は仕事をもっても不利な条件に置かれているから」(7.6%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」は前回(平成26年)調査より比率が低くなっている。「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」、「従来の経験や習慣から」、「女性は仕事をもっても不利な条件に置かれているから」で若干比率が高くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

性別で見ると、男女とも「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」が全体と同じく1位となっているが、2位は、女性は「従来の経験や習慣から」で、男性が「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」となっている。また、「女性は仕事をもっても不利な条件に置かれているから」は男女でほぼ同じ比率となっている。

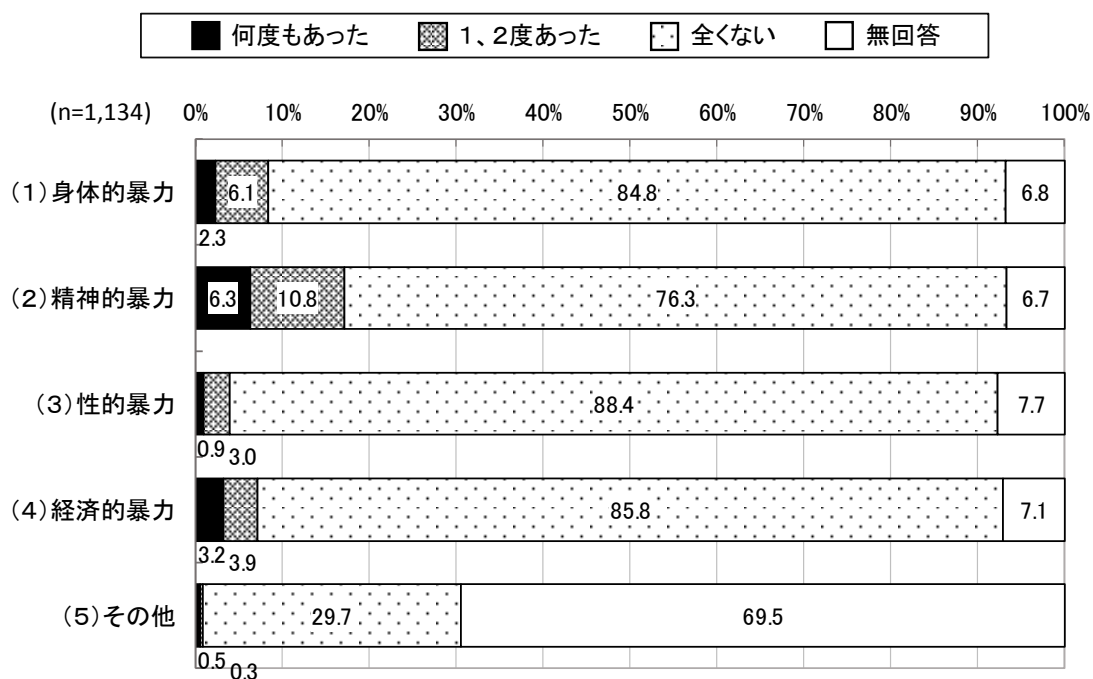


(4) パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

問35 あなたはこれまでにパートナー(配偶者や恋人)から次のようなことをされたことがありますか。当てはまる番号をそれぞれ1つ選んでください。
【1つの項目について、○は1つずつ】

パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験を聞いた結果、最も多かったのは、どの項目でも「全くない」であった。次いで、「1、2度あった」、「何度もあった」が続く。項目別に比べると、精神的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高くなっている。

- (1) 身体的暴力(殴る/蹴る/物を投げる/髪を引っ張る/引きずり回す等)
- (2) 精神的暴力(暴言を吐く/大事な物を壊す/交友関係を監視・制限する等)
- (3) 性的暴力(性行為を強要する/避妊に協力しない/ポルノを見せる等)
- (4) 経済的暴力(生活費を渡さない/仕事を制限する/借金を重ねる等)
- (5) その他

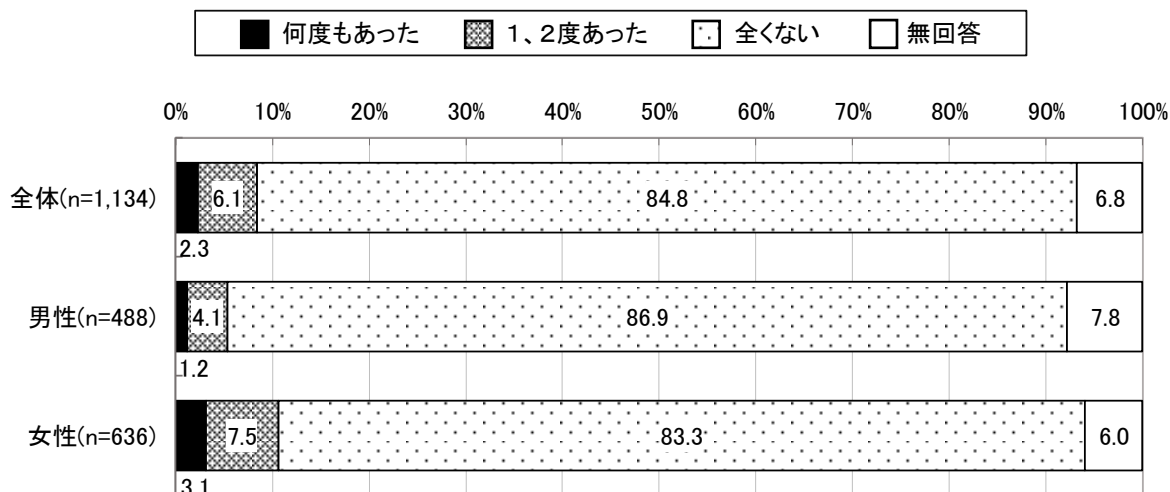


その他の被害では、「子供に暴力」、「モラルハラスメント的な言葉を言う」、「自由な時間がない」などが挙げられた。

【性別】パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

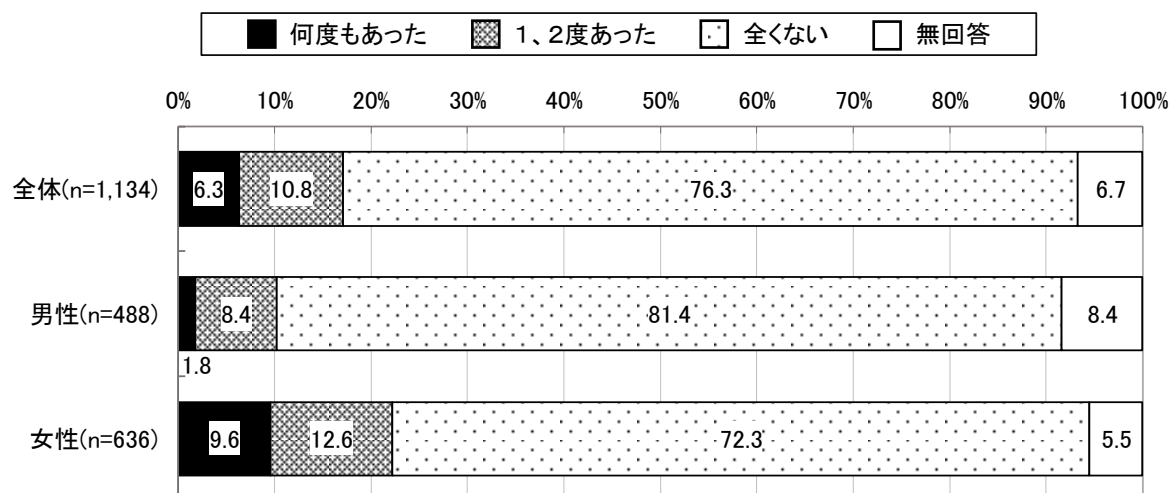
(1) 身体的暴力(殴る／蹴る／物を投げる／髪を引っ張る／引きずり回す等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何度もあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。



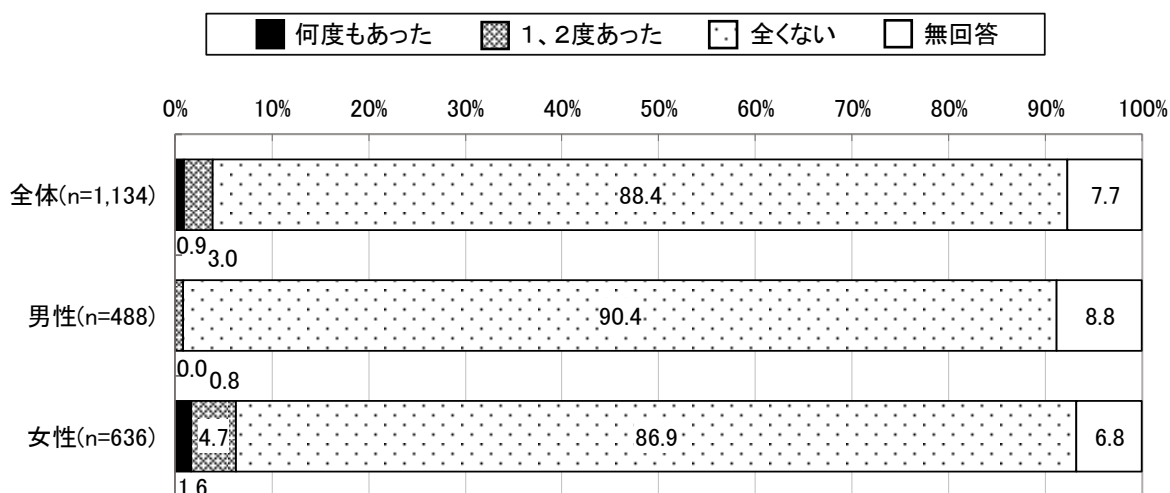
(2) 精神的暴力(暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何どもあった」、「1、2度あった」ともに男性より女性の方で比率が高くなっている。他のドメスティック・バイオレンスの経験と比べ、女性で「何どもあった」の比率が特に高いことが目立つ。



(3) 性的暴力(性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)

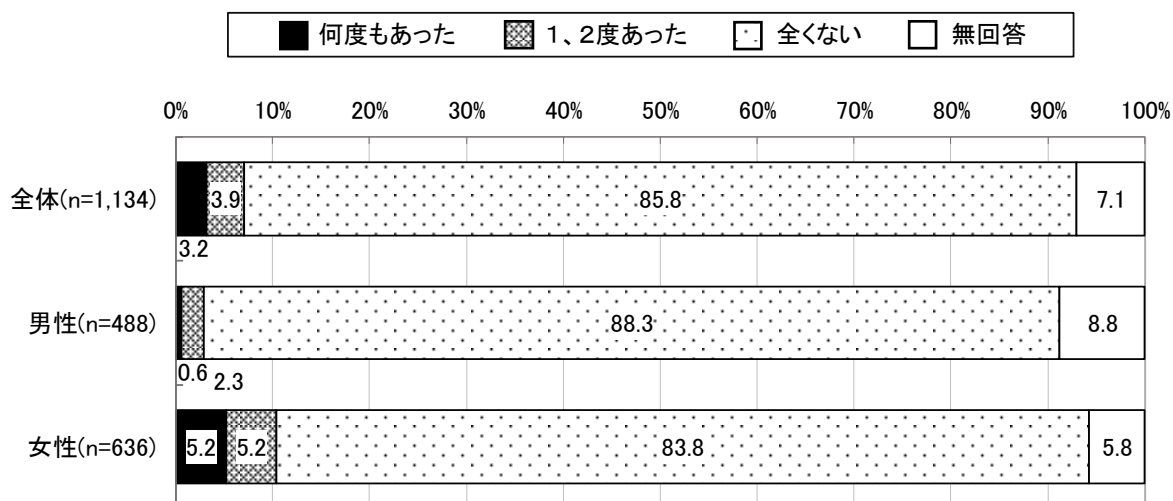
「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何度もあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。



(4) 経済的暴力(生活費を渡さない／仕事を制限する／借金を重ねる等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何どもあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。

女性の「何どもあった」と「1、2度あった」はともに5%を超えている。

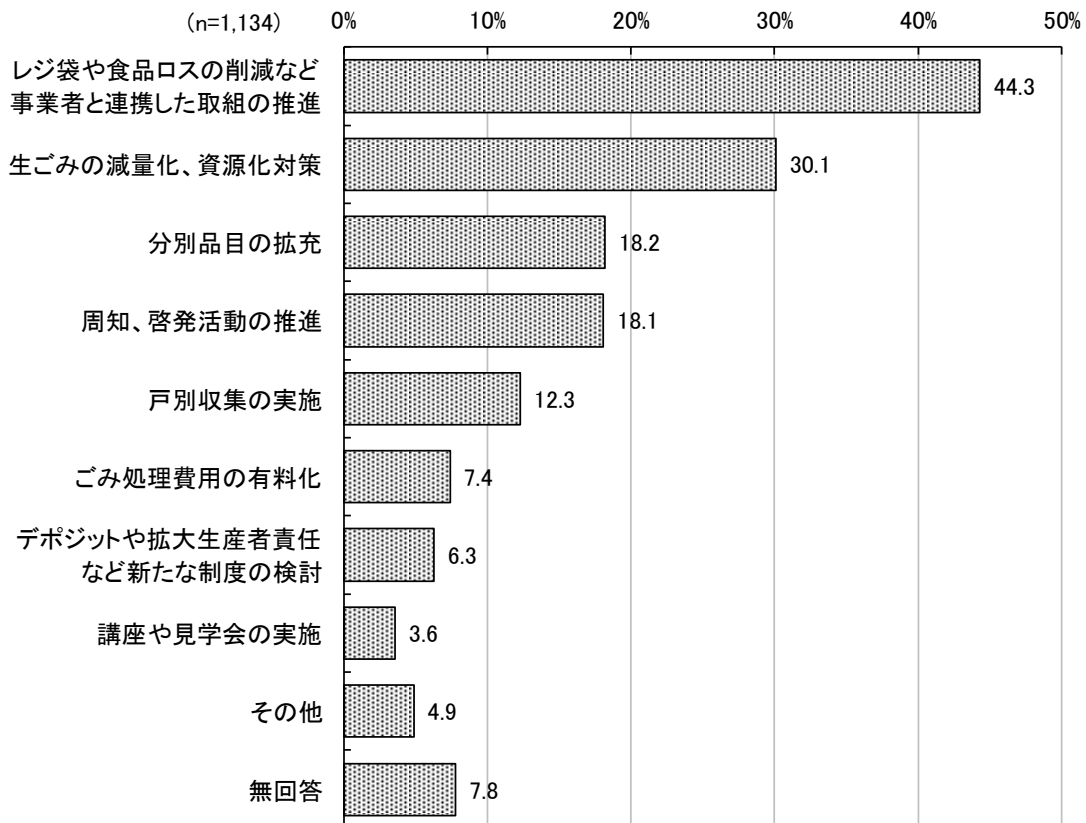


10 資源循環社会について

(1) ごみの減量化や資源化を推進していく上で力を入れていくべき施策

問36 ごみの減量化や資源化を推進していく上で、座間市が力を入れていくべき施策は何だと考えますか。【〇は2つまで】

ごみの減量化や資源化を推進していく上で力を入れていくべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」(44.3%)であった。次いで、「生ごみの減量化、資源化対策」(30.1%)、「分別品目の拡充」(18.2%)、「周知、啓発活動の推進」(18.1%)が続く。



【住まいの地域別】ごみの減量化や資源化を推進していく上で力を入れていくべき施策

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」は、相模が丘、入谷・入谷東・明王で比率が高く、反対に東原・さがみ野、立野台で比較的比率が低くなっている。

全体で2位だった「生ごみの減量化、資源化対策」は、座間、入谷・入谷東・明王で、第3位だった「分別品目の拡充」は、相武台・栗原・広野台、栗原中央・西栗原・南栗原で比率が高くなっている。

	全体【実数】	ごみ処理費用の有料化	戸別収集の実施	分別品目の拡充	周知、啓発活動の推進	講座や見学会の実施	生ごみの減量化、資源化対策	デポジットや拡大生産者責任など新たな制度の検討	事業者と連携した取組の削減の推進など	その他	無回答	
全体	1,134	7.4	12.3	18.2	18.1	3.6	30.1	6.3	44.3	4.9	7.8	
住まいの地域	新田宿・四ツ谷	49	4.1	16.3	18.4	10.2	6.1	26.5	6.1	44.9	8.2	12.2
	座間	74	12.2	8.1	12.2	10.8	1.4	36.5	8.1	40.5	8.1	8.1
	入谷・入谷東・明王	171	5.3	11.7	17.5	21.1	2.3	34.5	6.4	49.1	6.4	5.8
	立野台	46	6.5	6.5	17.4	26.1	4.3	23.9	6.5	37.0	4.3	13.0
	緑ヶ丘	59	11.9	18.6	13.6	15.3	-	25.4	5.1	45.8	3.4	10.2
	相武台・栗原・広野台	137	8.8	10.9	22.6	16.8	5.1	32.1	6.6	46.7	4.4	3.6
	相模が丘	193	5.7	14.5	19.2	18.7	5.2	28.0	8.8	49.2	3.6	5.7
	小松原	46	10.9	10.9	19.6	19.6	2.2	26.1	10.9	47.8	6.5	4.3
	ひばりが丘	120	11.7	13.3	13.3	19.2	3.3	30.0	5.0	40.8	2.5	9.2
	東原・さがみ野	100	7.0	10.0	18.0	17.0	4.0	32.0	7.0	36.0	5.0	9.0
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	4.0	12.7	21.4	19.8	4.0	29.4	1.6	38.9	4.8	9.5
	無回答	13	-	15.4	30.8	15.4	-	7.7	-	53.8	-	30.8

11 環境問題について

(1) 一番気になる環境問題

問37 座間市に住んでいて、一番気になる環境問題は何ですか。
【〇は3つまで】

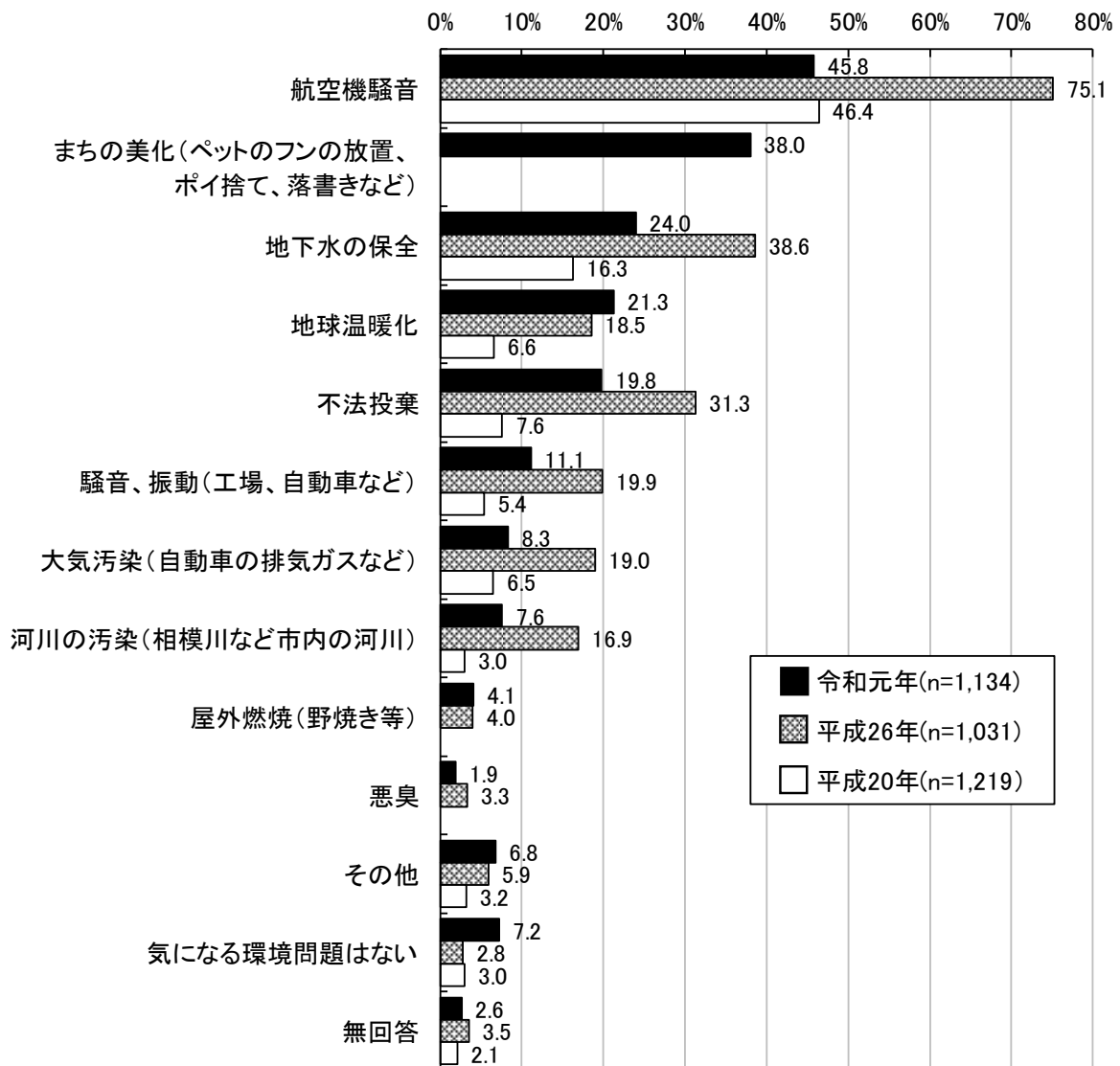
一番気になる環境問題を聞いた結果、最も多かったのは、「航空機騒音」(45.8%)であった。次いで、「まちの美化(ペットのフンの放置、ポイ捨て、落書きなど)」(38.0%)、「地下水の保全」(24.0%)、「地球温暖化」(21.3%)、「不法投棄」(19.8%)、「騒音、振動(工場・自動車など)」(11.1%)、「大気汚染(自動車の排気ガスなど)」(8.3%)と続く。

「航空機騒音」が前回(平成26年)調査では極端に多く、今回(令和元年)の調査では前々回(平成20年)調査とほぼ同じ比率となった。

多くの項目で前回調査を下回っており、「気になる環境問題はない」も4.4ポイント増加している。

※前々回調査(平成20年)まで、回答の選択は1つの設問であったため、比率を単純に比較することはできない。過去のデータは参考として掲載する。

※「悪臭」「屋外燃焼(野焼き等)」は前回(平成26年)から、「まちの美化(ペットのフンの放置、ポイ捨て、落書きなど)」は今回(令和元年)から調査項目に加わったため、それ以前のデータはない。



【住まいの地域別】一番気になる環境問題

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「航空機騒音」は、栗原中央・西栗原・南栗原が最も高く、次いで東原・さがみ野と続き、6割を超えている。反対に、新田宿・四ツ谷が最も比率が低く、1割台半ば近くとなっている。

全体で2位だった「まちの美化(ペットのフンの放置、ポイ捨て、落書きなど)」は、小松原で最も高く、反対に、栗原中央・西栗原・南栗原で比率が低くなった。

また、「騒音、振動(工場、自動車など)」は小松原が28.3%と高くなっているのが目立つ。

%	全 体 【 実 数 】	大 気 汚 染 (自 動 車 の 排 気 ガ ス な ど)	悪 臭	屋 外 燃 焼 (野 焼 き 等)	地 下 水 の 保 全	河 川 の 汚 染 (相 模 川 な ど 市 内 の 河 川)	騒 音 、 振 動 (工 場 、 自 動 車 な ど)	航 空 機 騒 音	地 球 温 暖 化	不 法 投 棄	ま ち の 美 化 (ペ ット の フ ン の 放 置 、 ポ イ 捨 て 、 落 書 き な ど)	そ の 他	気 に な る 環 境 問 題 は な い	無 回 答	
	全体	1,134	8.3	1.9	4.1	24.0	7.6	11.1	45.8	21.3	19.8	38.0	6.8	7.2	2.6
	新田宿・四ツ谷	49	6.1	-	16.3	26.5	18.4	8.2	14.3	26.5	34.7	36.7	8.2	8.2	8.2
	座間	74	8.1	2.7	5.4	18.9	9.5	10.8	33.8	20.3	18.9	39.2	9.5	10.8	5.4
	入谷・入谷東・明王	171	3.5	1.2	6.4	32.7	10.5	8.2	31.0	29.8	22.8	39.8	6.4	7.6	1.2
	立野台	46	6.5	-	2.2	28.3	15.2	2.2	43.5	17.4	23.9	37.0	2.2	10.9	2.2
	緑ヶ丘	59	11.9	-	1.7	20.3	5.1	8.5	42.4	16.9	13.6	44.1	6.8	6.8	5.1
	相武台・栗原・広野台	137	7.3	5.1	7.3	24.8	5.1	7.3	54.0	21.2	21.2	39.4	10.2	5.1	0.7
	相模が丘	193	7.8	1.0	1.6	21.2	4.7	10.4	44.0	21.8	20.2	39.4	9.3	4.1	2.1
	小松原	46	10.9	4.3	-	21.7	8.7	28.3	52.2	17.4	23.9	47.8	10.9	2.2	2.2
	ひばりが丘	120	9.2	1.7	-	20.0	5.0	15.8	52.5	19.2	16.7	35.0	5.0	6.7	5.0
	東原・さがみ野	100	15.0	1.0	2.0	21.0	5.0	16.0	60.0	15.0	11.0	38.0	4.0	12.0	1.0
	栗原中央・西栗原・南栗原	126	8.7	1.6	4.0	24.6	8.7	12.7	60.3	20.6	19.0	28.6	1.6	8.7	1.6
	無回答	13	15.4	7.7	7.7	23.1	-	-	53.8	15.4	15.4	38.5	7.7	7.7	7.7

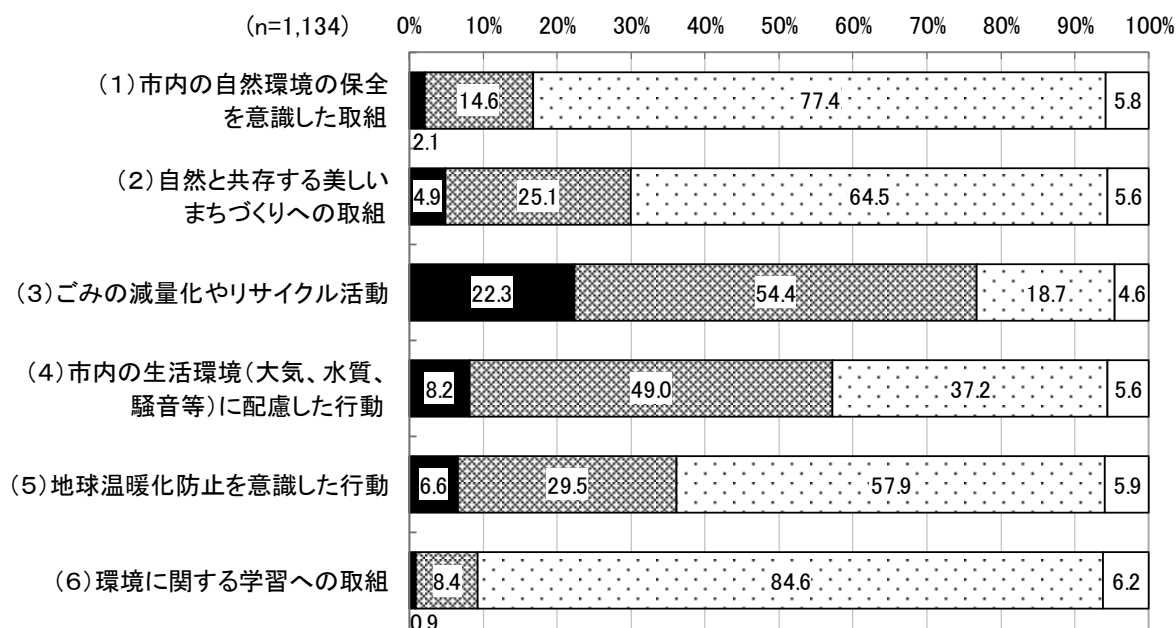
(2) 環境に配慮した取組を行ったかどうか

問38 最近1～2年の間に、次のような環境に配慮した取組を行いましたか。
 当てはまる番号をそれぞれ1つ選んでください。
 【1つの項目について、○は1つずつ】

最近1～2年の間に、環境に配慮した取組を行ったかどうかを聞いた結果、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいる」を合わせた《取組を行った》とする回答が最も多かったのは、「(3)ごみの減量化やリサイクル活動」(76.7%)で、7割を超えている。次いで、「(4)市内の生活環境(大気、水質、騒音等に配慮した行動」(57.2%)、「(5)地球温暖化防止を意識した行動」(36.1%)、「(2)自然と共存する美しいまちづくりへの取組」(30.0%)が続く。「(1)市内の自然環境の保全を意識した取組」(16.7%)、「(6)環境に関する学習への取組」(9.3%)は比較的低い結果となった。

- (1) 市内の自然環境の保全を意識した取組
 (例:緑化イベントや自然観察会への参加、農業とのふれあい等)
- (2) 自然と共存する美しいまちづくりへの取組
 (例:地域や社会での美化活動、クリーンキャンペーン等への参加)
- (3) ごみの減量化やリサイクル活動
 (例:製品の unnecessary 買替えの自粛、ごみの排出ルールの徹底)
- (4) 市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動
 (例:環境に配慮した生活用品の使用、エコドライブの実践等)
- (5) 地球温暖化防止を意識した行動(例:省エネ対策、住宅用太陽光発電設備の設置等)
- (6) 環境に関する学習への取組(例:講演会、学習会、自然観察会等への参加)

■ 積極的に取り組んでいる ▨ 取り組んでいる ▩ 取り組んでいない □ 無回答



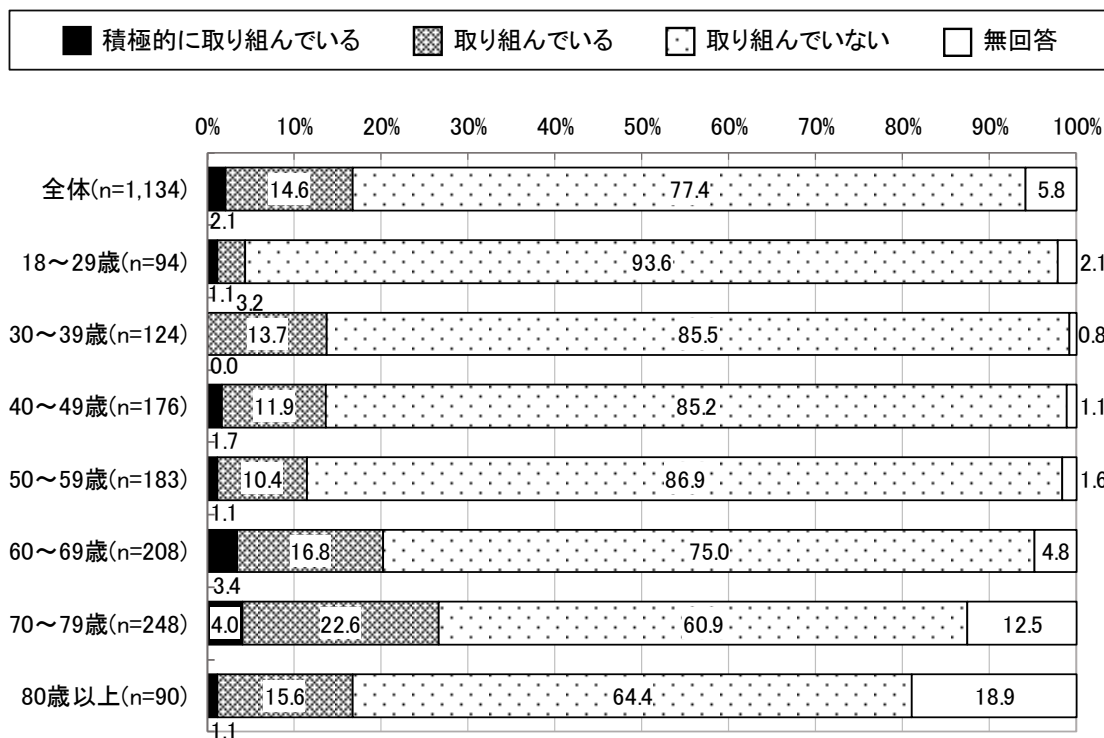
【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(1) 市内の自然環境の保全を意識した取組

(例:緑化イベントや自然観察会への参加、農業とのふれあい等)

《取組を行った》とする回答は60歳代と70歳代で比較的高くなっている。

反対に、18～59歳までの世代では《取組を行った》比率が低くなっており、特に18～29歳の比率が低いことが目立つ。



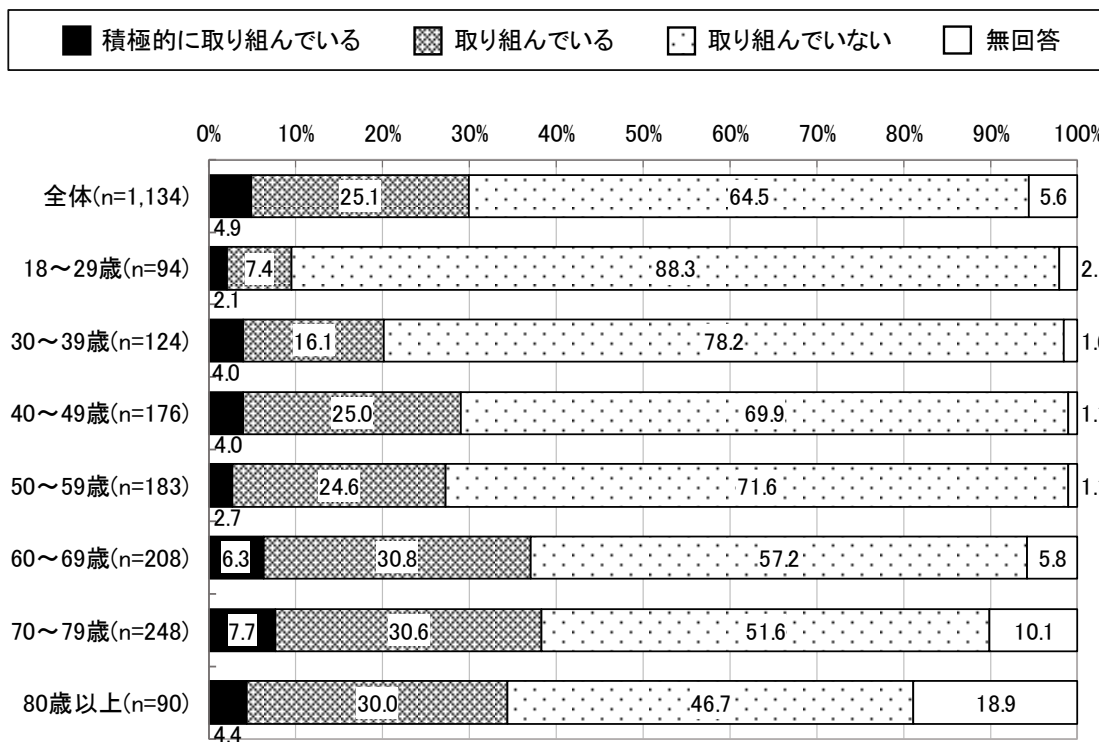
【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(2) 自然と共存する美しいまちづくりへの取組

(例: 地域や社会での美化活動、クリーンキャンペーン等への参加)

《取組を行った》とする回答は70歳代が最も高くなっており、60歳～80歳以上の世代では3割を超えている。

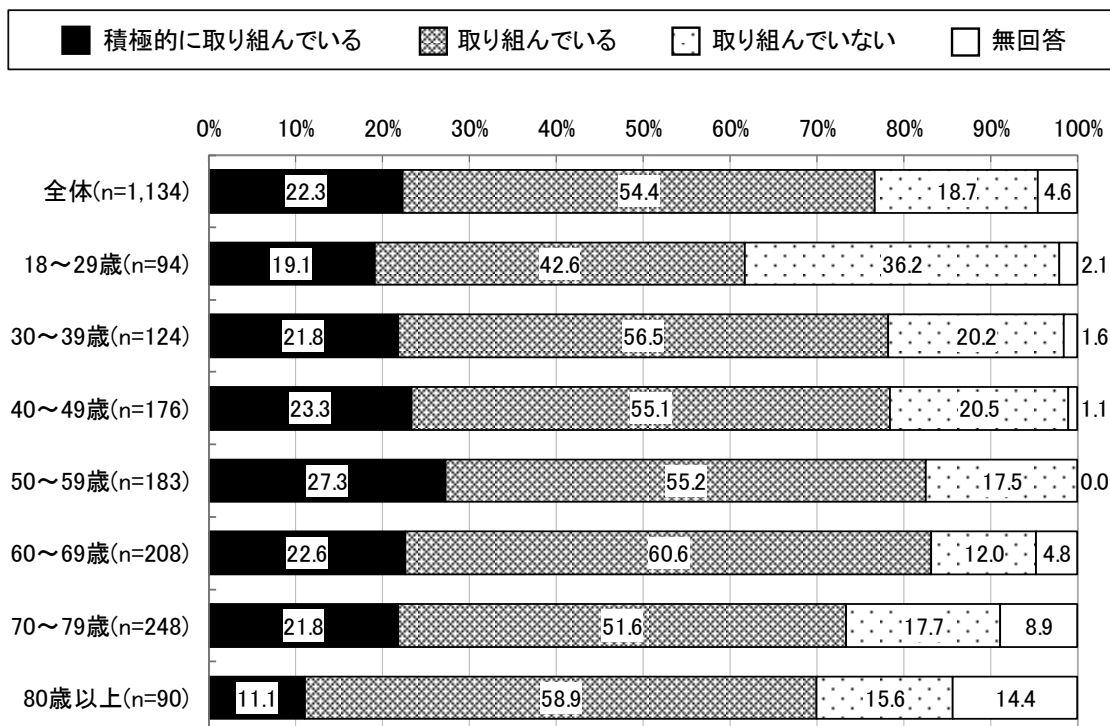
反対に、18～29歳では《取組を行った》は1割を下回り、比率が低いのが目立つ。



【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(3)ごみの減量化やリサイクル活動(例:製品の不必要な買替えの自粛、ごみの排出ルール徹底)

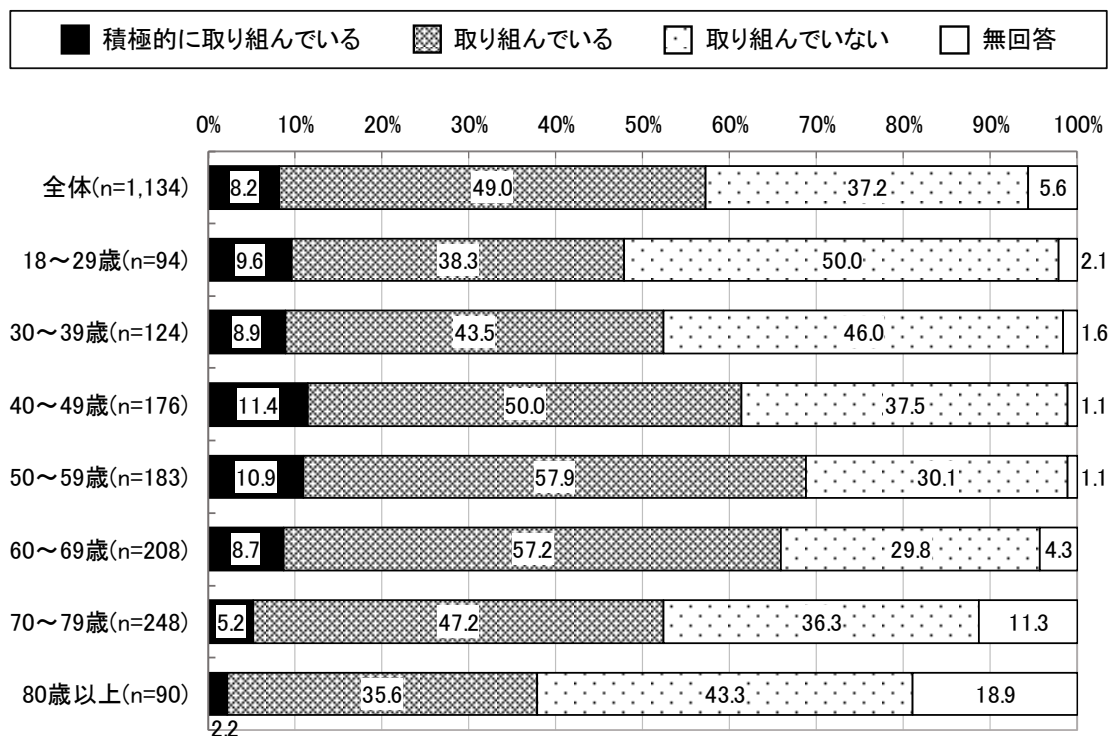
《取組を行った》とする回答は全体的に高く、すべての年代で6割を超えている。その中では、50歳代、60歳代で比較的比率が高く、8割を超えている。



【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(4) 市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動
(例:環境に配慮した生活用品の使用、エコドライブの実践等)

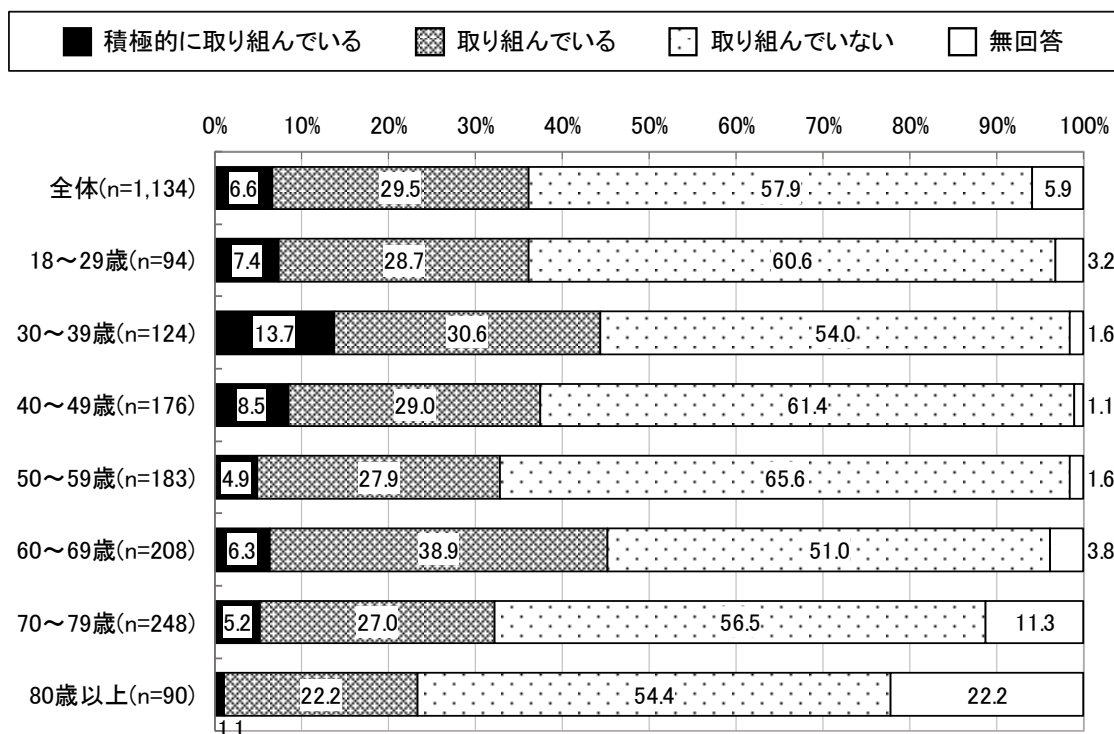
《取組を行った》とする回答は、18～29歳と80歳以上を除くすべての年代で5割を超えている。
反対に、80歳以上は4割未満となっており、比較的低くなっている。



【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(5) 地球温暖化防止を意識した行動(例:省エネ対策、住宅用太陽光発電設備の設置等)

《取組を行った》とする回答は、60歳代で4割台半ばと最も比率が高くなっている。次いで30歳代が4割台半ば近くとなっており、特に30歳代では「積極的に取り組んでいる」の比率が高くなっている。
反対に、80歳以上の比率が低く、《取組を行った》は2割台半ば近くとなっている。

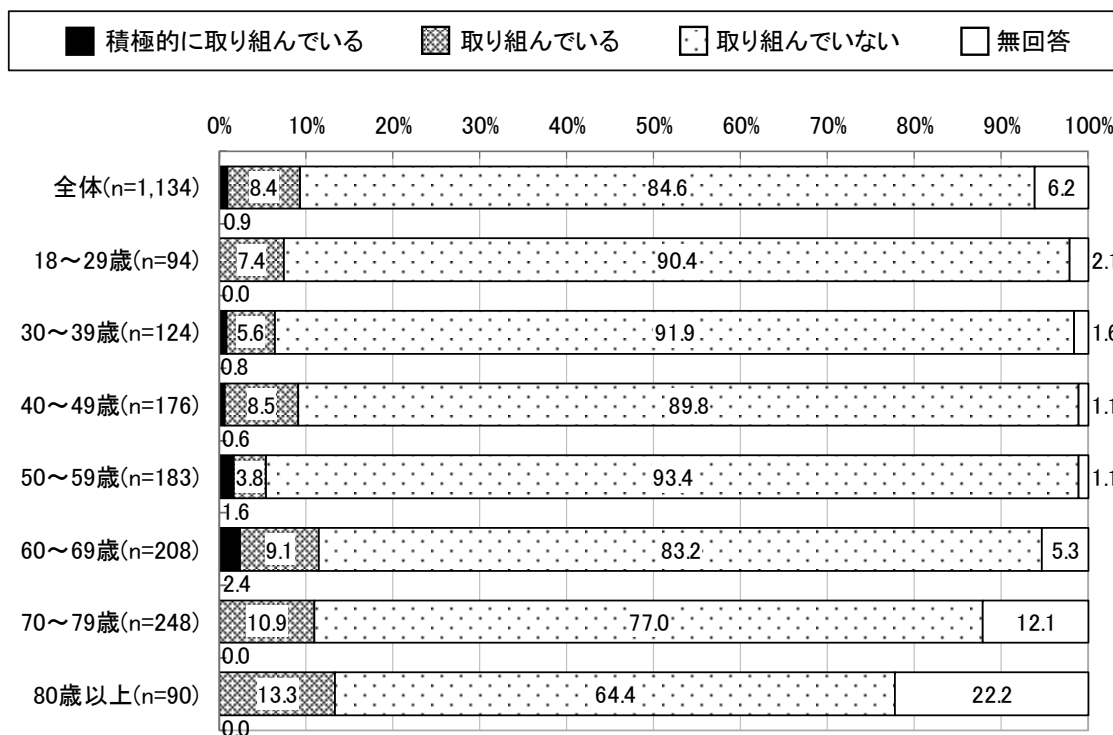


【年齢別】環境に配慮した取組を行ったかどうか

(6) 環境に関する学習への取組(例:講演会、学習会、自然観察会等への参加)

全体的に《取組を行った》とする回答は低くなっており、60歳以降の年代では1割を超えているが、50歳未満の世代では1割未満となっている。

「積極的に取り組んでいる」は60歳代で最も高くなっている。



12 自由時間(余暇)について

(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策、施設

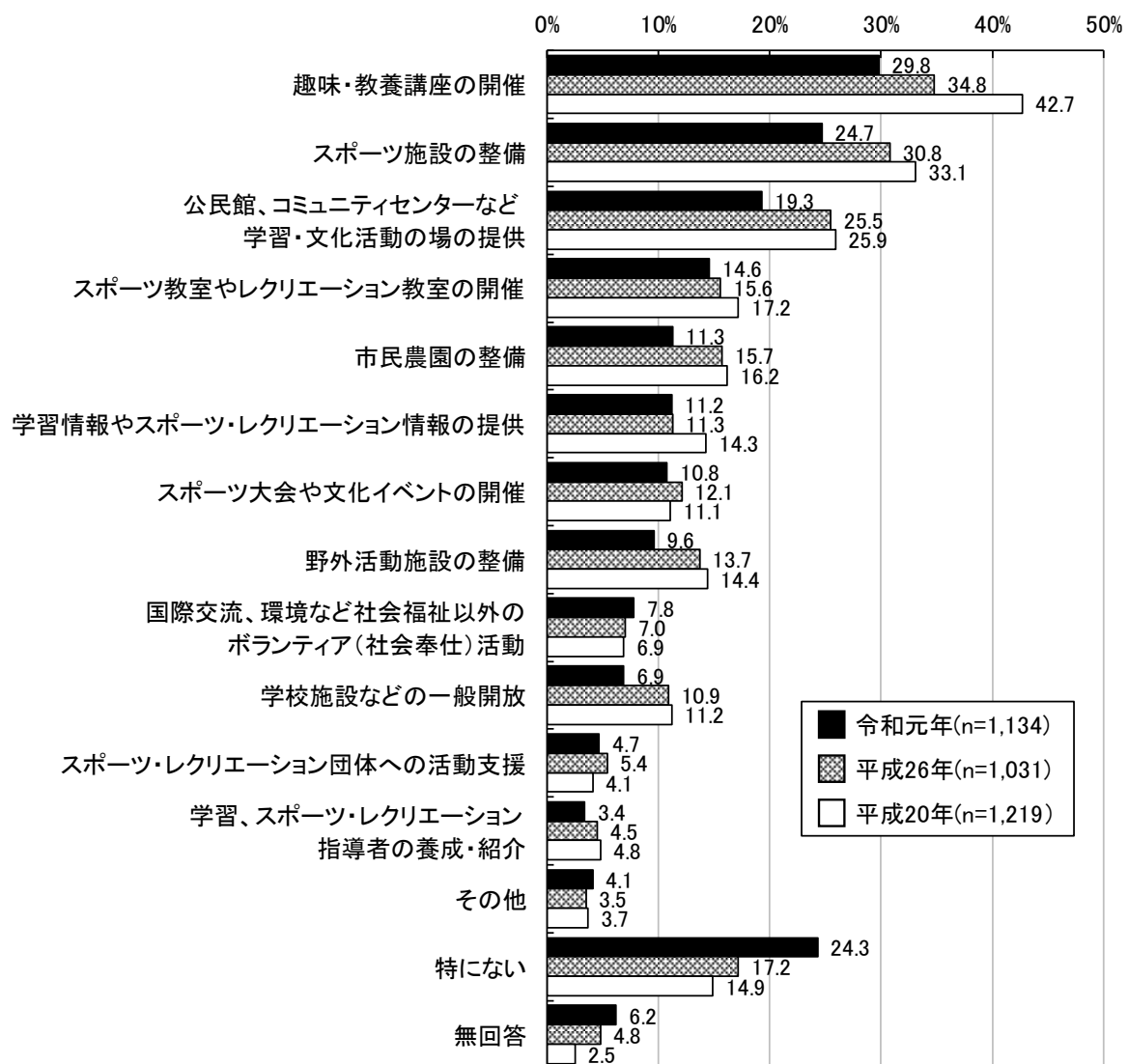
問39 あなたが自由時間を過ごすために、どのような施策、施設が必要だとお考えですか。【〇は3つまで】

自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策や施設を聞いた結果、最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(29.8%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(24.7%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(19.3%)、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」(14.6%)、「市民農園の整備」(11.3%)が続く。

過去の調査と比較すると、「国際交流、環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動」、「その他」を除く全ての施策・施設項目で減少しており、前回(平成26年)、前々回(平成20年)に比べて大幅に減少している項目が多い。

反対に、「特にない」は増加傾向となっており、前回(平成26年)と比べて7.1ポイント増加している。

※前回(平成26年)と前々回(平成20年)は「『自然の村』など野外活動施設の充実」を調査項目としていたが、今回(令和元年)から「野外活動施設の整備」と調査項目の表現が変更となっている。同様の設問内容のため、同じ項目として集計している。



【性別・年齢別】自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策、施設

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「趣味・教養講座の開催」は、全体的に男性よりも女性で比率が高い傾向となっており、特に女性の60歳代で4割を超える比率となっている。反対に男性の40歳代と50歳代で1割台と比率が低いのが目立つ。

全体で2位であった「スポーツ施設の整備」は、男性の18～29歳と30歳代で4割以上と比率が高くなっている。また、ほとんどの年代で女性よりも男性の比率が高くなっているが、女性は40歳代の比率が最も高い。

(その1)

%	全 体 【 実 数 】	文 化 ポ ー ツ 大 会 や イ ベ ン ト の 開 催	ス ポ ー ツ 施 設 の 整 備	公 民 館 、 コ ミ ュ ニ テ ィ セ ン タ ー 場 等 の 提 供	学 校 施 設 な ど の 一 般 開 放	学 習 情 報 の 提 供	レ ク リ エ ー シ ョ ン ・ ス ポ ー ツ ・ 指 導 者 の 養 成 ・ 紹 介	学 習 、 レ ク リ エ ー シ ョ ン ・ 指 導 者 の 養 成 ・ 紹 介	ス ポ ー ツ 教 室 の 開 催	
										ス ポ ー ツ 教 室 の 開 催
全 体	1,134	10.8	24.7	19.3	6.9	11.2	3.4	14.6		
性別・年齢	男性	全 体	488	12.3	30.5	16.6	9.6	11.7	3.5	12.5
		18～29歳	39	15.4	46.2	7.7	12.8	5.1	5.1	5.1
		30～39歳	51	17.6	49.0	15.7	9.8	13.7	3.9	9.8
		40～49歳	69	4.3	24.6	11.6	10.1	11.6	5.8	17.4
		50～59歳	65	13.8	38.5	12.3	15.4	4.6	3.1	7.7
		60～69歳	102	11.8	27.5	15.7	8.8	16.7	2.0	11.8
		70～79歳	119	11.8	26.9	26.1	6.7	12.6	2.5	17.6
		80歳以上	43	16.3	9.3	16.3	7.0	11.6	4.7	9.3
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	全 体	636	9.6	20.3	21.5	4.7	10.8	3.5	16.5	
	18～29歳	54	13.0	27.8	14.8	11.1	11.1	1.9	5.6	
	30～39歳	72	22.2	23.6	13.9	8.3	5.6	5.6	16.7	
	40～49歳	106	7.5	32.1	16.0	3.8	8.5	3.8	19.8	
	50～59歳	118	7.6	23.7	16.1	4.2	11.9	5.1	17.8	
	60～69歳	106	9.4	20.8	29.2	2.8	22.6	1.9	21.7	
	70～79歳	129	6.2	5.4	28.7	4.7	7.0	3.9	14.0	
	80歳以上	47	6.4	6.4	31.9	-	6.4	-	10.6	
	無回答	4	-	75.0	-	-	-	-	50.0	

(その2)

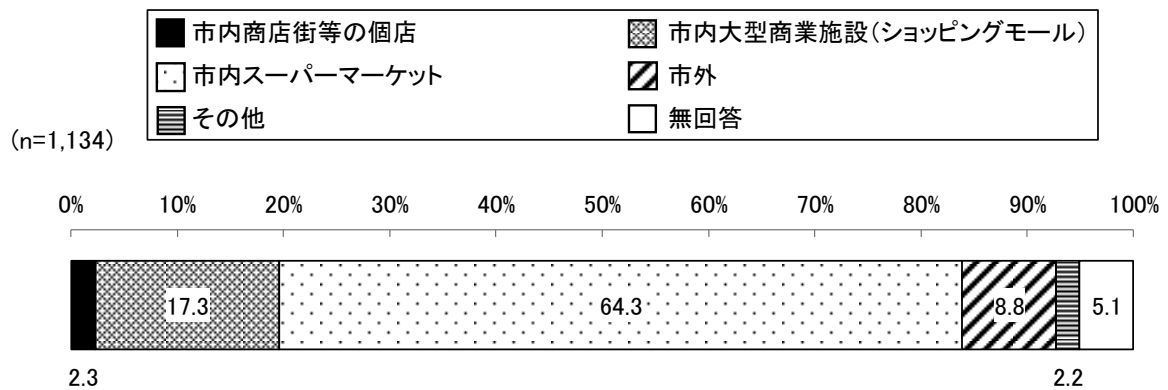
%	趣 味 ・ 教 養 講 座 の 開 催	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン の 支 援	社 会 福 祉 以 外 の 活 動 （ 社 会 奉 仕 ）	国 際 交 流 、 環 境 な ど	野 外 活 動 施 設 の 整 備	市 民 農 園 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
										無 回 答
全 体	29.8	4.7	7.8	9.6	11.3	4.1	24.3	6.2		
性別・年齢	男性	全 体	24.6	5.3	6.4	12.9	12.7	3.3	24.6	5.1
		18～29歳	23.1	7.7	17.9	10.3	10.3	2.6	23.1	5.1
		30～39歳	23.5	5.9	7.8	23.5	3.9	9.8	9.8	2.0
		40～49歳	17.4	5.8	5.8	11.6	18.8	-	34.8	2.9
		50～59歳	18.5	7.7	7.7	9.2	7.7	3.1	30.8	-
		60～69歳	32.4	-	4.9	13.7	18.6	1.0	22.5	6.9
		70～79歳	26.1	8.4	4.2	12.6	11.8	4.2	23.5	6.7
		80歳以上	25.6	2.3	2.3	9.3	11.6	4.7	25.6	11.6
		無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	全 体	34.0	4.1	9.0	7.1	10.2	4.6	23.9	6.8	
	18～29歳	33.3	5.6	14.8	9.3	9.3	5.6	22.2	-	
	30～39歳	20.8	4.2	13.9	5.6	5.6	9.7	27.8	-	
	40～49歳	34.9	0.9	8.5	9.4	15.1	7.5	22.6	0.9	
	50～59歳	35.6	5.1	10.2	4.2	12.7	3.4	24.6	5.1	
	60～69歳	44.3	5.7	12.3	12.3	13.2	1.9	15.1	4.7	
	70～79歳	31.8	1.6	3.1	3.9	7.8	3.1	28.7	16.3	
	80歳以上	29.8	10.6	2.1	6.4	2.1	2.1	27.7	21.3	
	無回答	50.0	-	-	-	-	-	25.0	-	

13 商業施設の利用・イベントについて

(1) 日常的な買い物をする場所

問40 日常的な買い物はどこですか。
【〇は1つ】

日常的な買い物をする場所を聞いた結果、最も多かったのは、「市内スーパーマーケット」(64.3%)であった。次いで「市内大型商業施設(ショッピングモール)」(17.3%)、「市外」(8.8%)、「市内商店街等の個店」(2.3%)が続く。

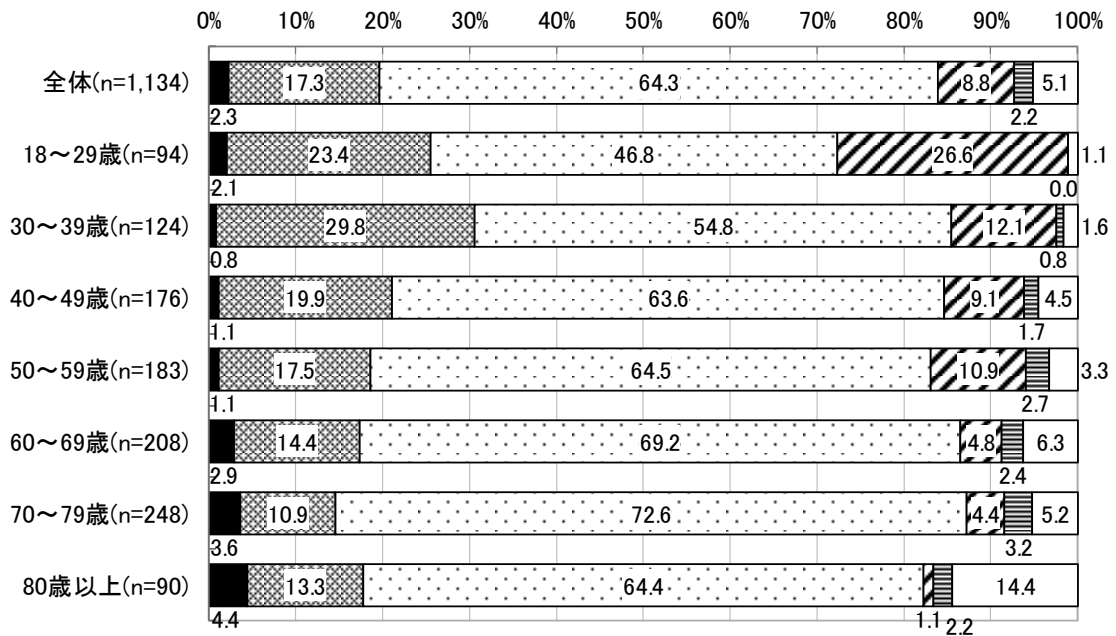
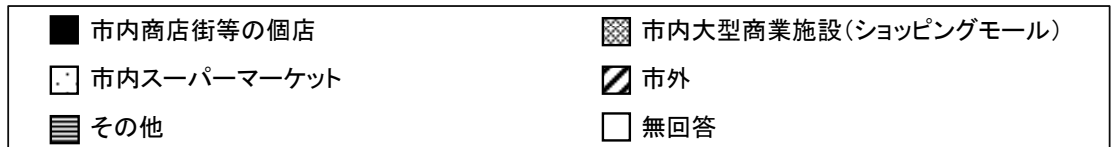


【年齢別】日常的な買い物をする場所

日常的な買い物をする場所を年齢別にみると、全世代で「市内スーパーマーケット」の比率が最も高く、30～79 歳までの世代では、2位が「市内大型商業施設(ショッピングモール)」、3位が「市外」となっている。

18 歳～29 歳では2位が「市外」、3位が「市内大型商業施設(ショッピングモール)」となっており、80 歳以上では2位が「市内大型商業施設(ショッピングモール)」、3位が「市内商店街等の個店」となっている。

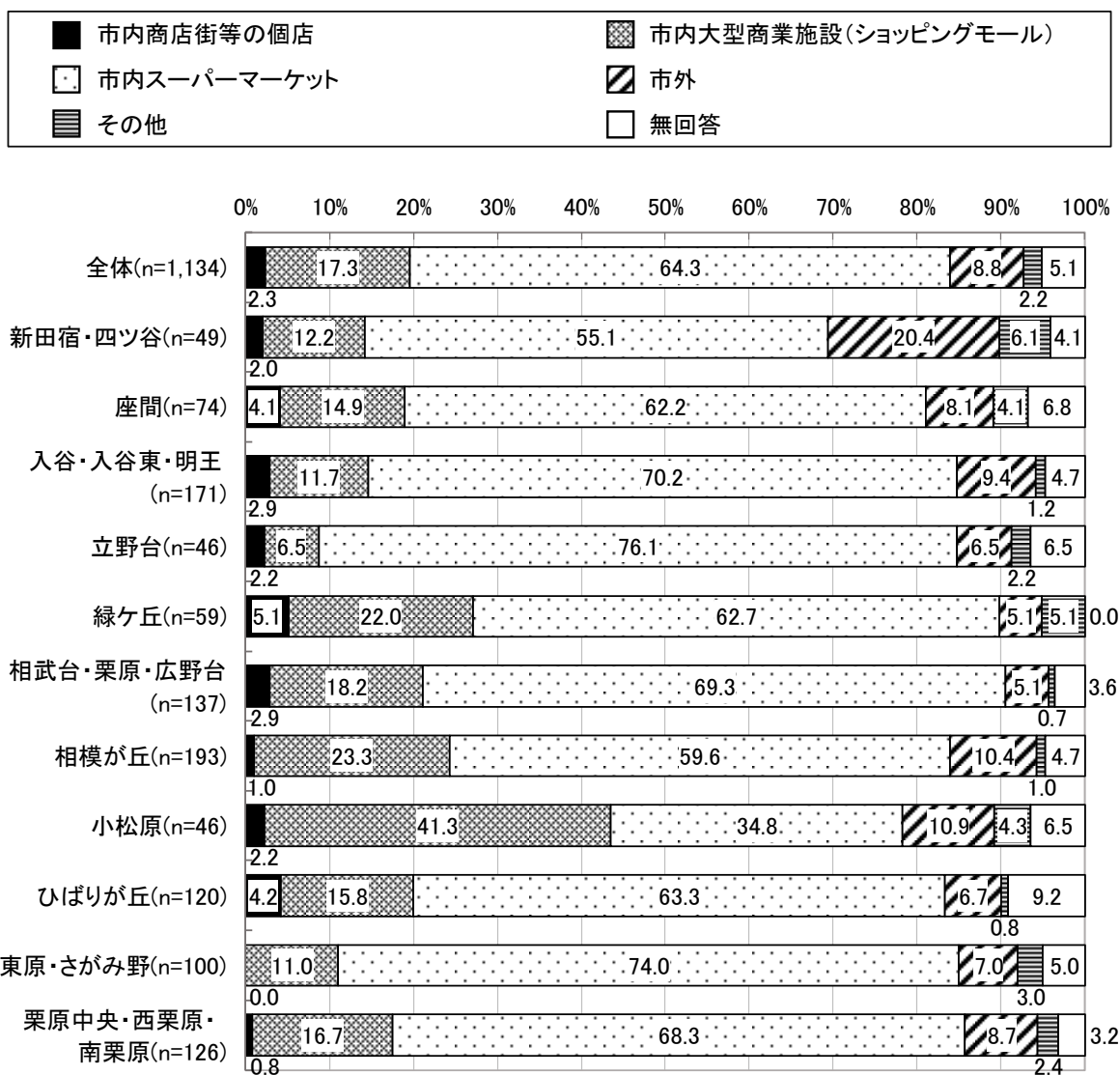
おおむね、年代があがるにつれ、「市内商店街等の個店」が増加し、「市内大型商業施設(ショッピングモール)」、「市外」が減少する傾向にある。



【住まいの地域別】 日常的な買い物をする場所

日常的な買い物をする場所を住まいの地域別にみると、全体で1位であった「市内スーパーマーケット」は立野台、東原・さがみ野、入谷・入谷東・明王で比率が高く、7割を超えている。また、全体で2位であった「市内大型商業施設(ショッピングモール)」は小松原で4割を超えており、比率が高くなっていることが目立つ。

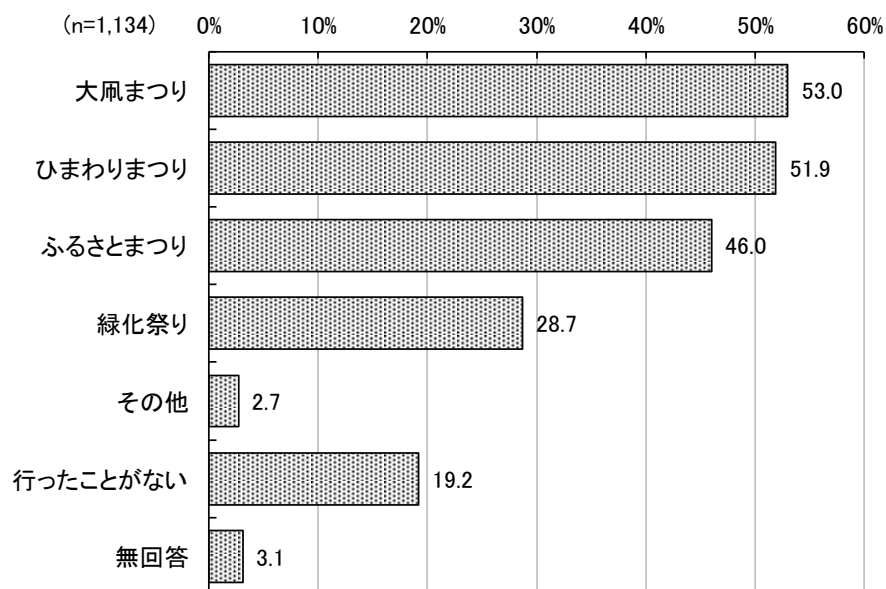
また、「市外」では新田宿・四ツ谷が、「市内商店街等の個店」では緑ヶ丘の比率が比較的高くなっている。



(2) 座間市内でのイベントの参加について

問41 座間市に住んでから、どのイベントに行ったことがありますか。
【当てはまるもの全てに○】

座間市内でのイベントの参加について聞いた結果、最も多かったのは、「大凧まつり」(53.0%)であった。次いで「ひまわりまつり」(51.9%)、「ふるさとまつり」(46.0%)、「緑化祭り」(28.7%)と続いている。「行ったことがない」は 19.2%となっている。



【年齢別】座間市内でのイベントの参加

座間市でのイベントの参加について年齢別にみると、「大風まつり」では全年代を通しておおむね同じ比率となっているが、「緑化祭り」と「ふるさとまつり」では年代が上がるにつれて参加している比率が高くなり、「ひまわりまつり」では減少する傾向にある。

また、「行ったことがない」は 18～29 歳で 25.5%と最も高く、若年層ほど参加していない比率が高くなっている。

%		全 体 【 実 数 】	緑 化 祭 り	大 風 ま つ り	ひ ま わ り ま つ り	ふ る さ と ま つ り	そ の 他	行 っ た こ と が な い	無 回 答
全 体		1,134	28.7	53.0	51.9	46.0	2.7	19.2	3.1
年 齢	18～29歳	94	16.0	51.1	55.3	40.4	4.3	25.5	1.1
	30～39歳	124	18.5	46.0	55.6	40.3	3.2	21.0	-
	40～49歳	176	22.7	46.0	54.5	44.3	2.3	23.3	-
	50～59歳	183	27.3	55.2	55.2	43.2	1.6	20.2	1.6
	60～69歳	208	31.7	53.8	48.6	49.0	2.4	17.8	3.8
	70～79歳	248	40.3	58.9	50.8	51.6	2.8	15.3	4.8
	80歳以上	90	33.3	57.8	45.6	47.8	4.4	13.3	10.0
	無回答	11	18.2	36.4	27.3	36.4	-	27.3	18.2

【在住年数別】座間市内でのイベントの参加

座間市でのイベントの参加について在住年数別にみると、おおむね在住年数が長くなるごとに各種イベントへの参加率も高くなっているが、「ひまわりまつり」は平成 27 年以降でも 48.3%と高い比率となっている。

また、「緑化まつり」は昭和 20 年～昭和 29 年で 60.0%である一方、平成 27 年以降では 9.9%と、その差が大きくなっている。

「行ったことがない」は平成 17 年～平成 26 年で2割を超え、平成 27 年以降では3割を超えている。

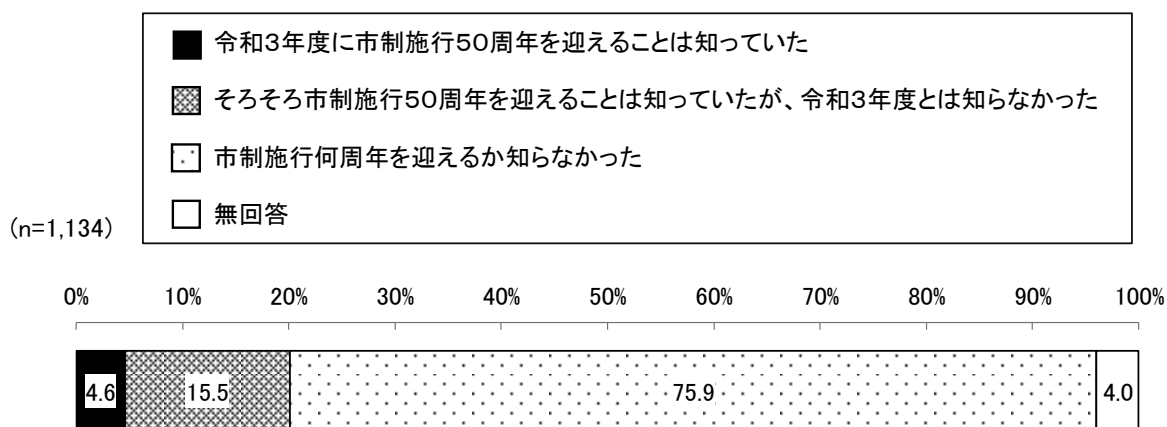
%		全 体 【 実 数 】	緑 化 祭 り	大 凧 まつ り	ひ ま わ り まつ り	ふ る さ と まつ り	そ の 他	行 っ た こ と が な い	無 回 答
全 体		1134	28.7	53.0	51.9	46.0	2.7	19.2	3.1
居 住 年 数	昭和19年以前	12	50.0	66.7	66.7	66.7	8.3	8.3	8.3
	昭和20年～昭和29年	10	60.0	50.0	60.0	60.0	10.0	10.0	10.0
	昭和30年～昭和39年	35	22.9	57.1	40.0	54.3	-	5.7	14.3
	昭和40年～昭和49年	111	47.7	68.5	53.2	62.2	0.9	9.9	6.3
	昭和50年～昭和59年	146	43.8	64.4	51.4	59.6	2.7	11.0	4.1
	昭和60年～平成6年	162	32.7	61.7	55.6	53.1	1.2	11.7	1.2
	平成7年～平成16年	238	28.2	55.9	52.5	47.1	3.8	18.9	3.4
	平成17年～平成26年	231	20.8	42.4	52.8	35.9	3.0	26.4	-
	平成27年以降	172	9.9	33.1	48.3	27.3	3.5	34.3	1.7
	無回答	17	23.5	58.8	41.2	29.4	-	17.6	11.8

14 市制施行 50 周年について

(1) 座間市の市制施行 50 周年に関する認知度

問42 令和3年度に座間市が市制施行 50 周年を迎えることを知っていましたか？
【〇は1つ】

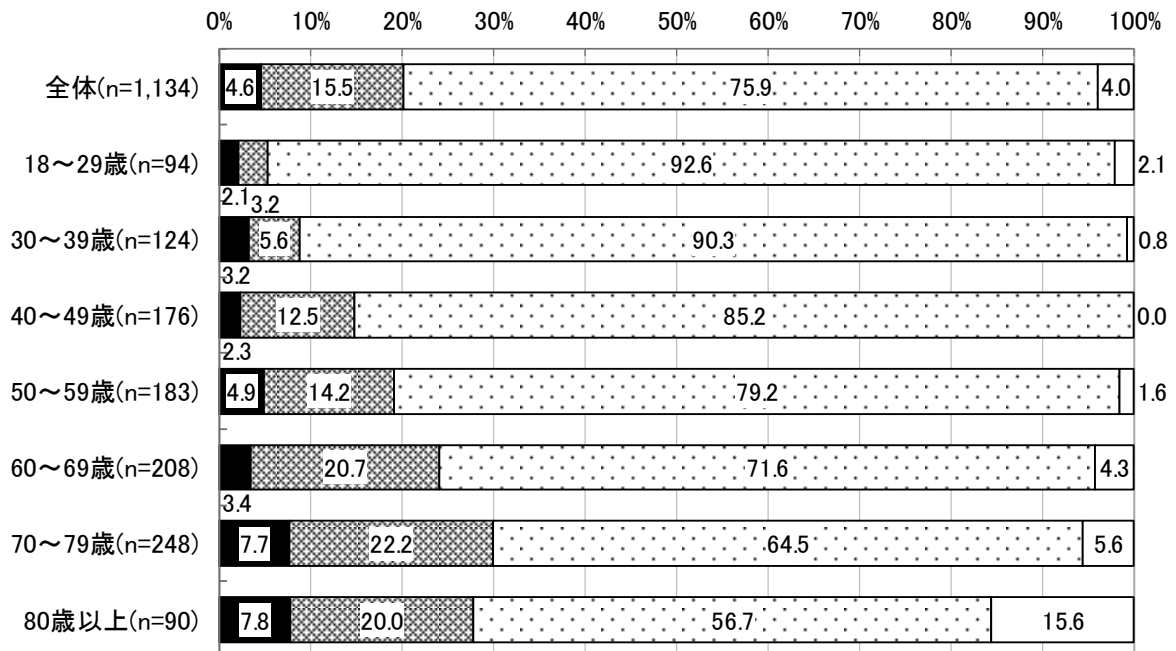
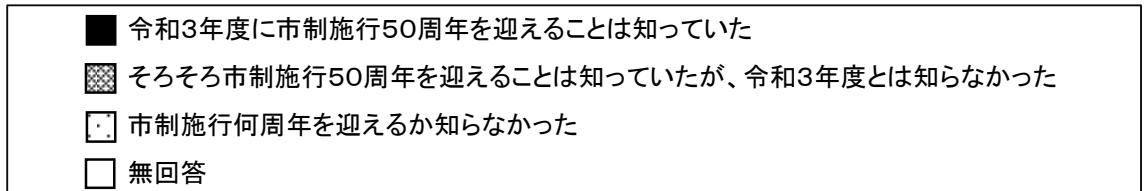
座間市の市制施行 50 周年に関する認知度について聞いた結果、最も多かったのは、「市制施行何周年を迎えるか知らなかった」(75.9%)であった。次いで、「そろそろ市制施行 50 周年を迎えることは知っていたが、令和3年度とは知らなかった」(15.5%)、「令和3年度に市制施行 50 周年を迎えることは知っていた」(4.6%)と続く。



【年齢別】座間市の市政施行 50 周年に関する認知度

座間市の市政施行 50 周年に関する認知度について年齢別にみると、「令和3年度に座間市が市制施行 50 周年を迎えることは知っていた」は 70 歳以降の年代では 7.0%を超えているが、全体的に低い比率となっている。

「そろそろ市制施行 50 周年を迎えることは知っていたが、令和3年度とは知らなかった」は 40～59 歳の年代では1割を超え、60 歳以降の年代では 2 割を超えているが、18～39 歳の年代では1割未満となっている。

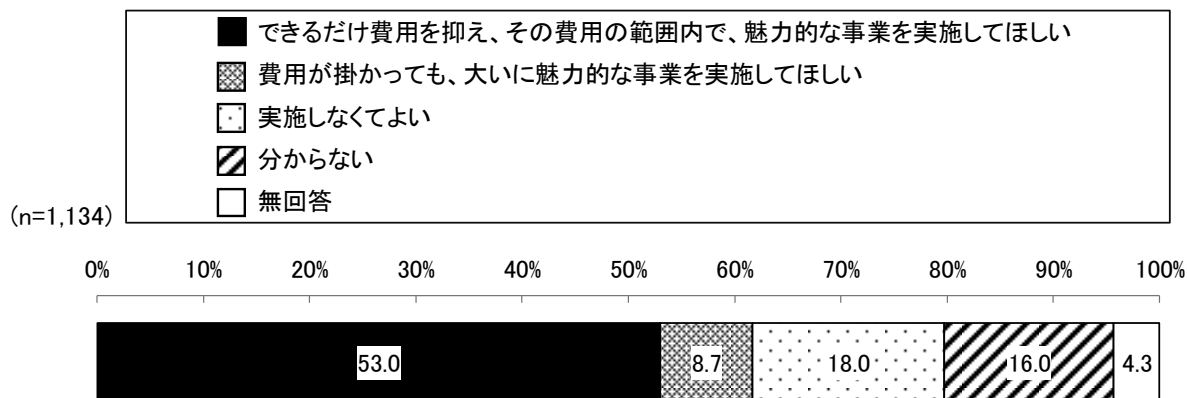


(2) 市制施行 10 周年ごとの記念事業について

問43 座間市では市制施行 10 周年ごとに記念事業を実施していますが、あなたは、市にどのような記念事業の実施を期待しますか。【〇は1つ】

市制施行 10 周年ごとの記念事業について聞いた結果、最も多かったのは、「できるだけ費用を抑え、その費用の範囲内で、魅力的な事業を実施してほしい」(53.0%)であった。次いで、「実施しなくてよい」(18.0%)、「分からない」(16.0%)と続く。

また、「費用が掛かっても、大いに魅力的な事業を実施してほしい」は 8.7%と、1割未満となっている。

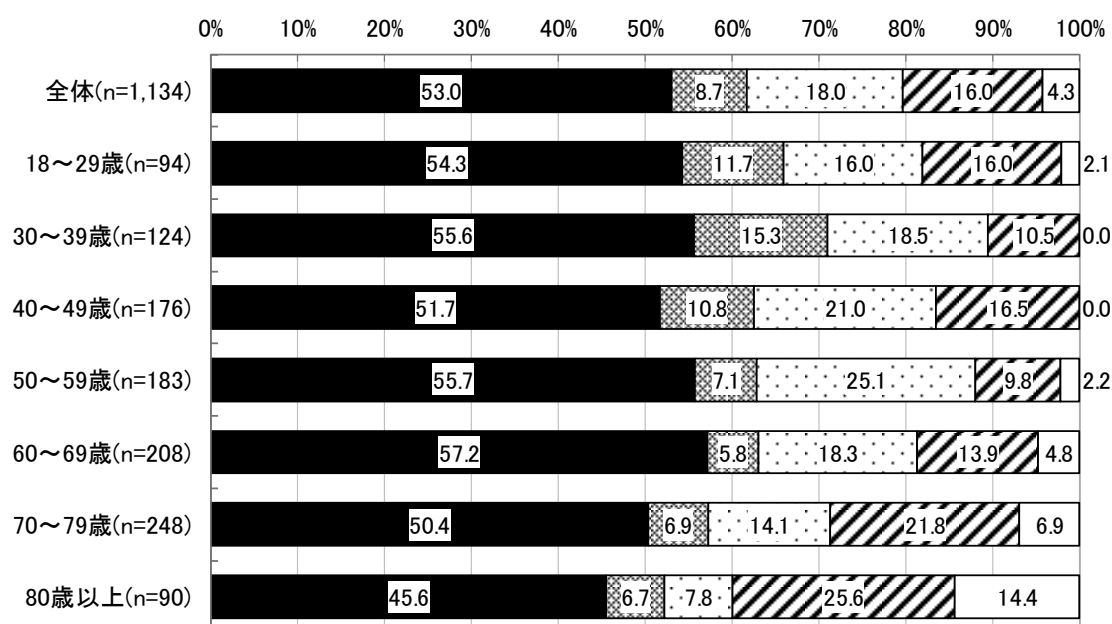
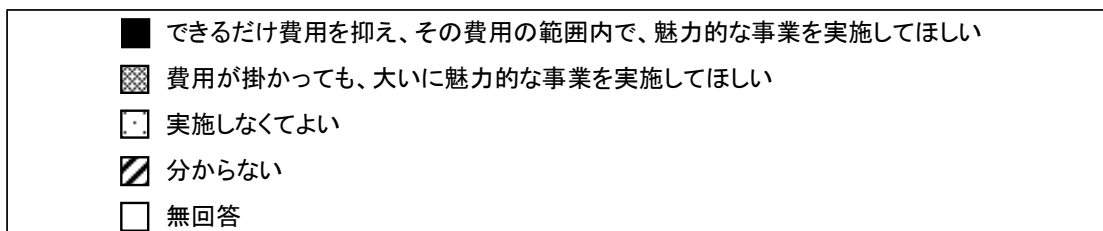


【年齢別】市制施行 10 周年ごとの記念事業について

市制施行 10 周年ごとの記念事業について年齢別にみると、「できるだけ費用を抑え、その費用の範囲内で、魅力的な事業を実施してほしい」は 80 歳以上で4割台となっているが、その他の世代の全てで5割台となっている。

「費用が掛かっても、大いに魅力的な事業を実施してほしい」は 30 歳代で 15.3%と最も高く、18～49 歳の年代では1割を超えている。

「実施しなくてよい」は 50 歳代で 25.1%と最も高く、40～59 歳の世代で2割を超えている。



15 自由意見

問44 あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのように市民生活を送れるようにしていけばよいか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見を記入してもらった結果、1,148 件の意見が寄せられた。意見を要旨にまとめて項目別に整理し、件数の多い順から掲載した。※複数の意見を記入してあるものは意見ごとに1件とした

道路に関する意見

【115件】

歩道の確保・整備をしてほしい	28
道路を拡張・拡幅してほしい	26
道路を整備してほしい	22
自転車専用レーンの設置・整備をしてほしい	15
メインでない通りも整備してほしい	5
車がすれ違えない程の道幅が狭い道路を、一方通行にしてほしい	3
道路の水はけを整備してほしい	3
通勤・通学しやすい道路にしてほしい	2
大きな施設を建設する際には周辺の道路整備もしてほしい	2
通り抜けできない私道を改善してほしい	2
市道拡幅のための地主への交渉を進めてほしい	1
車両侵入防止のポールが歩行者通行を妨げているため改善してほしい	1
道路の不具合を報告して対応できる仕組みを整備してほしい	1
イオンへ行く道路を作してほしい	1
道路工事が多い気がする	1
道路が整備されてよかった	1
側溝に蓋をしてほしい	1

健康・医療・福祉に関する意見

【70件】

医療機関を充実させてほしい	7
子育てに関する施策を充実させてほしい	6
老人ホーム・施設を充実させてほしい	5
生活保護受給者をしっかり精査してほしい	4
小児医療助成の対象拡充をしてほしい	4
生活保護の見直しをしてほしい	4
高齢者が安心して地域で暮らせるような施策の充実・まちづくりをしてほしい	4
医療制度を充実させてほしい	3
保育施設を充実させてほしい	3
介護制度を充実させてほしい	3
高齢者が気軽に利用できる場所が近くにほしい	3
高齢化に伴い、買い物に不安がある	3
地域ごとの高齢者対策を実施してほしい	3
市を越境しても受けられるサービスの連携制度がほしい	2
保育環境を充実させてほしい	2
高齢者・一人暮らしの孤立化を防ぐ対策をしてほしい	2
総合病院の交通の便を改善してほしい	2
低料金の高齢者入居施設を開設してほしい	1
訪問診療・訪問看護を充実させてほしい	1

道路脇に、高齢者が休むための椅子を設置してほしい	1
小児・周産期医療を充実してほしい	1
幼児医療費の無償化をしてほしい	1
終末期の訪問診療を充実してほしい	1
検診の指定医療機関を拡充してほしい	1
高齢者が入居できる住宅や施設を整備・充実させてほしい	1
食品ロスを無くす市にしてほしい	1
コストがかからない健康活動を実施してほしい	1

防犯・治安に関する意見

【91 件】

LED 街灯を設置してほしい	23
安心・安全な街にしてほしい	14
空き家対策に取り組んでほしい	10
防犯対策に力を入れてほしい	7
防犯カメラを設置してほしい	6
夜、街灯の光が届かず暗い場所が多い	5
歩きたばこの取り締まりをしてほしい	5
自動車・バイクの騒音対策をしてほしい	3
見守りをしてほしい	2
コンビニ利用者のマナーが悪い	2
不審者情報の提供をしてほしい	2
防犯カメラ設置の助成をしてほしい	1
廃れた施設・空間の放置が心配である	1
マナーや協力の呼びかけをしてほしい	1
落書きへの対策をしてほしい	1
犬の鳴き声がうるさい	1
ネコの放し飼いをやめてほしい	1
ノラネコへのエサさを規制してほしい	1
繁華街の騒音対策を実施してほしい	1
近隣の騒音対策を実施してほしい	1
屋外での喫煙を禁止してほしい	1
泥棒が多かった	1
屋外での燃焼を禁止してほしい	1

交通に関する意見

【105 件】

コミュニティバスの増設・増便をしてほしい	15
公共交通の便をよくしてほしい	14
渋滞の緩和・解消してほしい	14
路線バスの増便・ルート拡張してほしい	13
コミュニティバスのルートを拡張してほしい	8
高齢者の移動手段の確保や補助を検討してほしい	4
相武台駅に急行が停まってほしい	4
免許返納後の交通手段の確保を検討してほしい	3
市営バス・コミュニティバス相互、またはそれぞれの利便性を高めてほしい	2
市内のバス運行の案内がほしい	2
バスの運行時間を延ばしてほしい	2
市役所への交通が不便である	2
小田急線の踏切待ちが長い、高架などの対策に取り組んでほしい	2

病院への交通の便をよくしてほしい	2
コミュニティバスを大きくしてほしい	2
バス停を増設してほしい	2
鉄道関連の事故防止策をしてほしい	1
踏切の幅を広くしてほしい	1
踏切の待ち時間を緩和してほしい	1
踏切だらけを解消してほしい	1
近くに駅が出来てほしい	1
駅の周辺をきれいにしてほしい	1
入谷駅にエレベーターを設置してほしい	1
相武台駅のターミナルが使いにくくなった	1
相武台駅南口に駐停車が増えて、ひどいので対策してほしい	1
相武台駅前にロータリーを設置してほしい	1
車を持たない人も生活しやすいようにしてほしい	1
コミュニティバスのバス停を屋根付きのいす有りにしてほしい	1
シェア電動自転車をおいてほしい	1
交通弱者に寛容な社会にしてほしい	1

自然環境に関する意見

【49件】

緑化を推進してほしい	25
花や緑が素敵に見える街づくりをしてほしい	4
桜並木の整備がよかった	3
緑地の保全に力を入れてほしい	3
さがみ野駅の桜並木が楽しみである	2
花や緑が多くて良いと思う	2
自然（特に地下水）を大切にしてほしい	2
地下水を保全してほしい	2
地下水の保全対策について知りたい	1
緑の豊かさを保つには規制も必要だと思う	1
ひまわりに力を入れてほしい	1
緑が減って心配である	1
座間市の環境を大切にしたい	1
さがみ野駅付近の桜をまた植えてほしい	1

コミュニティに関する意見

【55件】

自治会のあり方について再考してほしい	8
自治会の活性化が必要	5
挨拶や声かけができるまちにほしい	5
居住する地域に満足している	4
住民同士の意思疎通をはからせたい	3
地域の子育て力を向上させてほしい	3
自治会に参加できなくても、美化活動は地域のみで行いたい	3
もっと地域で行われる活動の周知をしてほしい	3
他地域から若い世代に移住してもらえようような取り組みを行ってほしい	2
忙しい人のため参加できる活動の場が欲しい	2
ボランティアの養成講座を開催してほしい	1
地域の人々の子どもへの接し方が良いと思う	1
周辺地域を盛り上げる、よい取り組みがなされていると思う	1

老人のひとり歩行が危険である	1
日中、お年寄りが退屈そうにしている	1
地域のマナー・ルールを守れない人を注意してほしい	1
桜並木を通る人のマナーが悪い	1
地域になじめていない	1
初心者が入りやすいサークルを作ってほしい	1
人口が少ないことを活かした助け合いに力をいれてほしい	1
地域で定期的な会合を行えるようにしてほしい	1
高齢者の学びの場を拡充してほしい	1
子ども食堂の取り組みに関する情報を周知してほしい	1
自治会の役員の負担が重すぎるので軽減してほしい	1
子育てする母親の多忙さを自治会は理解していない	1
自治会の参加率の低いイベントは開催しなくてよいと思う	1
ボランティアの養成講座を開催してほしい	1

まちづくりに関する意見

【170件】

座間駅前再整備・再開発してほしい	19
駅を中心とした再開発してほしい	18
都市計画の見直ししてほしい	12
電柱の埋設してほしい	11
活気のある街にほしい	10
子育てしやすい環境や制度を整えてほしい	10
安全で安心して暮らせるまちづくりしてほしい	9
景観を意識したまちづくりにしてほしい	8
特色がほしい	7
魅力的なまちにほしい	7
ひとつの理念でまとまった施策を行ってほしい	4
若者にやさしい街にほしい	4
座間駅踏切の、鉄道高架化または地下道を実現させてほしい	4
座間の特色を生かしたまちづくりしてほしい	3
移り住んでくる人も意識しての街づくりしてほしい	3
座間駅付近の坂が辛いので何とかしてほしい	2
高齢者にやさしい街づくりしてほしい	2
相武台前駅の活性化を図ってほしい	2
国際交流の場を設けてほしい	2
道路沿いの美化活動してほしい	2
道路看板の色・大きさの制限してほしい	2
買い物の便や公園も近く便利である	2
ベンチや時計などのまちの設備を充実させてほしい	1
古くなった電柱を交換してほしい	1
駐輪場の整備が整っていない	1
イオンモールや座間市役所周辺に地下鉄を入れるべき	1
小規模の建売住宅の増加が気になる	1
花壇がコンクリートで埋められて悲しくなった	1
災害防止の工事は一貫した作業で完成させてほしい	1
他地域から人が集まる街にほしい	1
放置林の整備してほしい	1
道路状況を視野に入れた区画整備してほしい	1
相武台駅前をきれいにしてほしい	1

歴史や自然の豊かさを活用したまちづくりに力を入れてほしい	1
自然環境にやさしいまちづくりをしてほしい	1
他の地域の良い点を取り入れることも検討してほしい	1
程よい距離間の地域づくりを推進してほしい	1
古い団地を活用してほしい	1
放置された農地への対策をしてほしい	1
障がい者にやさしい街づくりにしてほしい	1
相武台前駅前を広くしてほしい	1
都市ガスを整備してほしい	1
日当たりのよい家庭でありたい	1
よい住宅地を提供してほしい	1
空き土地を細切れに売らないでほしい	1
ゴルフクラブを振っても良い場所を設けてほしい	1
中原中学校を残してほしい	1
日産跡地を有効活用してほしい	1
座間駅ビルの今後の計画を知りたい	1

公園に関する意見

【67件】

公園の遊具の点検・整備や草取りなどしてほしい	13
子どもが安心して遊べる公園を整備してほしい	12
公園や道路（歩道）沿いの木の剪定、草刈りなど美化管理をしてほしい	9
小さい子どもが遊べる場所を整備してほしい	7
公園を増やしてほしい	5
芹沢公園の整備がよかった	3
大規模な公園が少ない	2
公園街路樹などを整備してほしい	2
公園や並木の桜の木が減ってしまって寂しい	2
桜を切らないでほしかった	2
公園内に遊具やトイレ・ベンチを設置してほしい	2
広い仲よし広場があり、多くの子どもが遊んでいる	1
公園に日影の対策をしてほしい	1
公園での喫煙が改善されるとよい	1
かにが沢公園をリニューアルしてほしい	1
公園を活用したイベントを実施してほしい	1
かにがさわ公園のトイレが薄暗くてこわいので改善してほしい	1
芹沢公園のアスレチックが増えて良かった	1
かにが沢公園の管理はよかった	1

商工業に関する意見

【47件】

商店街（個人商店）を活性化してほしい	6
駅周辺の商業施設の活性化	5
産業・商業施設を誘致してほしい	4
風俗店を排除してほしい	4
買い物がしやすい	3
座間駅前に商店が少ない	3
個人商店・商店街の衰退が心配である	3
本屋がほしい	3
スーパーやコンビニを増やしてほしい	2

お店の閉店時間を遅くしてほしい	2
衣料品店を増やしてほしい	2
買い物ができる場所を充実させてほしい	2
食事できるお店が増えてほしい	2
パチンコ、ゲームセンター、コンビニが多い	1
商業施設は充実していると思う	1
駅に売店を設置してほしい	1
相武台駅周辺に、行きたくなるようなお店がほしい	1
ファミリーレストランがほしい	1
イオンモールを有効活用してほしい	1

基地問題に関する意見

【9件】

基地と市民との交流の場を設けてほしい	3
航空機騒音を解消してほしい	3
基地の街にしないで欲しい	1
米軍基地跡地を有効活用してほしい	1
キャンプ座間を活用した	1

ごみ処理に関する意見

【52件】

生ごみを散らかすカラスやネコへの対策をしてほしい	9
犬やネコ等のペットのフンの後始末を飼い主に呼びかけをしてほしい	5
ふん害など動物に関する問題に取り組んでほしい	5
吸い殻・ポイ捨てのごみが多い	4
ごみ収集・処理のあり方を改善してほしい	4
美化活動に力を入れてほしい	4
不法投棄の対策を実施してほしい	3
ごみ出しのルールを徹底してほしい	3
ごみ集積所を増やしてほしい	3
粗大ごみを持ち込みできるようにしてほしい	2
ごみ袋を有料化しないでほしい	2
ごみ集積所はコンクリート打ちで設置してほしい	1
ごみの回収ボックスを設置してほしい	1
個人宅前の清掃を呼びかけてほしい	1
ゴミの収集を戸別にしてほしい	1
リサイクルの取り組みがすばらしい	1
粗大ゴミ捨てられる場所を拡張してほしい	1
粗大ゴミの申請が不便である	1
自治会に加入せずにゴミを出したい	1

スポーツ・レクリエーションに関する意見

【18件】

スポーツ施設を充実させてほしい	5
おまつりやスポーツのイベントを開催してほしい	4
市営の室内プールを設置してほしい	2
体育館併設のコミュニティセンターを整備してほしい	1
月に一度、軽い運動をする集まる場を提供してほしい	1

スポーツや趣味の教室を増やしてほしい	1
運動の拠点を増やしてほしい	1
パブリックビューイングの場を設置してほしい	1
座間市は他市に比べて市民講座やスポーツ教室に力を入れてないと感じる	1
お祭りを刷新してほしい	1

交通安全に関する意見

【38 件】

交通違反の自転車の取り締まりの強化	7
通学路の安全に配慮してほしい	6
運転マナーの改善・向上に力を入れてほしい	4
交通違反の自動車の取り締まりを実施してほしい	3
横断歩道やミラー設置の見直しをしてほしい	3
飛び出しの多い地点や見えにくい道路にミラーを設置してほしい	2
危険な道路の交通規制を実施してほしい	1
横断歩道を設置してほしい	1
ガードレールを設置してほしい	1
正しい自転車の乗り方を指導してほしい	1
交通事故の防止対策を実施してほしい	1
住宅地内の道路に速度制限をしてほしい	1
歩きスマホの取り締まりをしてほしい	1
自転車走行上のマナーを守ってほしい	1
無信号交差点を対策してほしい	1
歩車分離式信号を設置してほしい	1
交通安全の教育を実施してほしい	1
音の出る信号機を夜間も鳴らしてほしい	1
大型車の通行に不安を感じる	1

公共施設に関する意見

【41 件】

図書館を充実させてほしい	8
保育園を拡充させてほしい	5
図書館を増やしてほしい	4
子育て支援センターに行きやすくしてほしい	3
スポーツ施設を充実させてほしい	2
図書館の設備を充実させてほしい	2
トイレを最新のものに変えてほしい（市役所・小学校など）	2
公共施設を見直ししてほしい	2
文化施設を充実させてほしい	1
公共施設が有効活用されるように周知や案内をしてほしい	1
公共施設を充実させてほしい	1
学童施設を整備してほしい	1
子育て施設を整備してほしい	1
雨の日でも子どもが遊べる施設がほしい	1
水道局建屋が立派すぎる	1
市民菜園を活用してほしい	1
公共施設の開放時間を長くしてほしい	1
文化的な拠点を増やしてほしい	1
コミュニティセンターの学習室を充実させてほしい	1
くつろげる空間の設置をしてほしい	1

学童を増やしてほしい	1
------------	---

防災に関する意見

【38件】

災害への対策をしてほしい	7
防災無線の機能向上と使用方法を改善してほしい	6
水害への対策をしてほしい	5
ペットも一緒に避難できる避難所を設置してほしい	4
防災無線が聞こえない・聞きづらい	4
崩落や土砂崩れの危険性への対応をしてほしい	2
いさまメールが広範囲すぎてわかりにくい	1
災害時に真っ先に高台の避難所を開放してほしい	1
自主防災組織を設立してほしい	1
緑化を視野に入れた災害対策をしてほしい	1
緊急時の避難情報を的確にしてほしい	1
地域の防災訓練がよかった	1
座間市は地盤が良く安心である	1
住民に関心を持ってもらえるような防災イベントを開催してほしい	1
防災フェンスを設置してほしい	1
防災活動に力を入れてほしい	1

上水道・下水道に関する意見

【16件】

下水道の整備をしてほしい	8
道路横の排水路を整備してほしい	2
美味しい水道水を続けてほしい	2
水道代が周辺の市と比べて高く感じる	1
水道水の水質が気になる	1
地下水道の使用が市内全域でできるようにしてほしい	1
排水溝の清掃を機械化してほしい	1

市役所に関する意見

【115件】

今の座間市に満足している	12
もっと市のPRをしてほしい	9
市職員の対応・態度を改善してほしい	6
ざまりんをもっとアピールしてほしい	6
住民税が高いと思う	6
今まで通りでよいと思う	5
市役所に対する労いの言葉	5
人口減少に伴う諸問題	4
イベントを開催してほしい	4
イベントを周知してほしい	3
どんな人にも市の情報が伝わるようにしてほしい	3
座間市はよい街である	3
隣接市と合併してほしい	2
害獣・害虫の対策をしてほしい	2
近隣市町村と連携してほしい	2

市役所の手続きが面倒である	2
予算に合わせたコンパクト化してほしい	2
地域によって差がはげしいので何とかしてほしい	2
税金を大切に使うしてほしい	2
予算の見直しを検討してほしい	1
ざまりんグッズの開発・活用してほしい	1
税収を確保してほしい	1
パッカー車担当の人が親切である	1
悪いイメージを払拭してほしい	1
市の人口減少への対策してほしい	1
今回のアンケート結果を市のホームページに掲載してほしい	1
市役所に行った際の案内を分かりやすくしてほしい	1
情報誌「ざま〜る」を復活させてほしい	1
税制と人材の改革してほしい	1
すべての人から税金を徴収してほしい	1
全て座間市で出来るようにしてほしい	1
市役所の対応に不満を感じる	1
イメージを良くしてほしい	1
大風せんべいを復活のために助成金を出してほしい	1
市の事業や行事に関心を持ってない	1
地域ごとに格差を感じる	1
座間市役所の職員の対応がよかった	1
市長と副市長を定年制にしてほしい	1
市長と市議の方は普段何をされているのか気になります	1
全てのカードを統一化してほしい	1
電動自転車の補助金を出してほしい	1
市の職員が自治会行事に参加してほしい	1
テニスコートの使用の申し込みをインターネットでできるようにしてほしい	1
市の駐車場とも格安で作ってほしい	1
保育園の待機児童問題と保育士さんに給与を補填してほしい	1
市政に偏りを感じる	1
広報誌の内容がワンパターン化している	1
座間市での子育てに魅力を感じない	1
投票所の変更に納得いかない	1
市政に偏りを感じる	1
井上尚弥選手を座間市のPRに活用することに反対	1
ふるさと納税の返礼品	1
中学校の自校給食	1
小学校の統廃合	1

その他

【52 件】

アンケート用紙に関する意見	7
警察官に巡回してほしい	7
交番に警察官がいるようにしてほしい	1
違法駐車を取り締まり・排除してほしい	1
信号無視の取り締まりを強化してほしい	1
速度超過の車の取り締まりを強化してほしい	1
海老名市に負けないでほしい	1
電車の騒音対策してほしい	1

駅周辺の駐車料金を安くしてほしい	1
駅前にポストを設置してほしい	1
建物等の建築に関する許可を安易にしないでほしい	1
時間貸し駐車場における迷惑行為を何とかしてほしい	1
交通規定の改定をしてほしい	1
相武台駅近くの喫煙所が不快である	1
市民個々の努力も必要だと思う	1
歴史を学び、郷土愛を深める	1
離婚の少ない市を目指してほしい	1
事件があったこと	1
自殺が目につく	1
海老名駅周辺のような開発は要らない	1
市の記念事業などは必要ない	1
鉄道で人身事故の対策をしてほしい	1
ポストが少ない	1
ドローンを飛ばさないでほしい	1
座間市で買い物することがない	1
議員さんに労いの言葉	1
P T Aの負担を軽減してほしい	1
環境は良くなっているので、下水の清掃も自治会を活用したら良い	1
町作りよりも自分のこれからの生活が心配である	1
健康でしょうぶなお年寄りには本人の希望で働く場があっても良いと思う	1
座間市をこれからもっと知っていきたい	1
姉妹都市と座間市の関係がよく分らない	1
住んでいる建物が古く、個人売買が困難で将来に不安がある	1
虐待、いじめ、〇〇ハラの問題をなんとかしてほしい	1
コミセンと社協をもっと開放してほしい	1
市まかせでなく自らも環境に配慮した行動、生活を続けていく事が大切だと思う	1
相模が丘地区は、道路に街路樹	1
減量専門センター、禁煙センターを充実	1
市の職員はこうきょうイベントなどの割引がすごくあるのはなぜか	1
その他（内容不明瞭）	1

IV 調査票

令和元年度座間市市民意識調査

調査票



—ご協力をお願い—

日頃より市政にご協力いただきありがとうございます。

この調査は、市民の皆さまの生活意識や、市政に対する満足度、要望などを伺い、市政運営や政策立案の基礎資料として活用するために、ほぼ5年おきに実施しています。

調査の実施に当たっては、18歳以上の市民の皆さまの中から、2,500人を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年11月 座間市

● ご記入に当たってのお願い

- 1 この調査は、宛て名のご本人（代筆可）がお答えください。
- 2 筆記用具はどのようなものでも構いません。
- 3 各質問の指示（【○は1つ】【当てはまるもの全てに○】など）に従い、当てはまる番号を○で囲んでください。
- 4 「その他」を選択した場合は、（ ）内になるべく具体的な内容をお書きください。

※この調査は、無記名で回答していただくものであり、個人が特定されることはありません。また、回答結果は統計的に処理し、この調査の目的以外には使用しません。

【 返送方法 】

記入していただいた調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、令和元年12月11日（水）までに投かんしてください。

問合せ先：座間市役所（市民部広聴人権課）

〒252-8566 座間市緑ヶ丘一丁目1番1号

電話：046-252-8146（直通）

046-255-1111（代表）

あなた自身についてお伺いします。



問1 あなたの性別をお選びください。【〇は1つ】

- 1 男性 2 女性 3 その他 () 4 回答しない

問2 あなたの年齢をお選びください。【〇は1つ】

- 1 18～29歳 3 40～49歳 5 60～69歳 7 80～89歳
2 30～39歳 4 50～59歳 6 70～79歳 8 90歳以上

問3 あなたの主たる職業をお選びください。【〇は1つ】

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1 商工業 | 7 人材派遣会社への登録 |
| 2 サービス業 | 8 パート、アルバイト |
| 3 農林業 | 9 学生 |
| 4 専門、技術職（医師、教授、技師など） | 10 専業主婦・主夫 |
| 5 事務職（一般事務、経理、営業など） | 11 無職 |
| 6 労務職（店員、工員、作業員など） | 12 その他 () |

問4 問3で1～9を選択された方に伺います。
あなたの勤務地（通学地）をお選びください。【〇は1つ】

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 自宅 | 4 横浜市、川崎市 |
| 2 座間市内 | 5 その他の県内 |
| 3 相模原市、厚木市、大和市、海老名市
綾瀬市、愛川町、清川村 | 6 東京都内 |
| | 7 その他 (県) |

問5 あなたの家の世帯状況をお選びください。【〇は1つ】

- 1 単身世帯 3 二世帯世帯（親と子） 5 その他 ()
2 夫婦のみ 4 三世帯世帯（親と子と孫）

問6 現在お住まいの住居の形態をお選びください。【〇は1つ】

- 1 持ち家（一戸建て） 4 民営借家（共同住宅） 7 その他 ()
2 持ち家（共同住宅） 5 公営住宅
3 民営借家（一戸建て） 6 官・公舎

問7 現在のお住まいにいつごろから住んでいますか。【〇は1つ】

- 1 昭和19年以前 4 昭和40年～昭和49年 7 平成7年～平成16年
2 昭和20年～昭和29年 5 昭和50年～昭和59年 8 平成17年～平成26年
3 昭和30年～昭和39年 6 昭和60年～平成6年 9 平成27年以降

問8 あなたがお住まいの地域をお選びください。【〇は1つ】

- | | | | | |
|-------|-------|---------|----------|---------|
| 1 新田宿 | 5 入谷東 | 9 相武台 | 13 小松原 | 17 栗原中央 |
| 2 四ツ谷 | 6 明王 | 10 栗原 | 14 ひばりが丘 | 18 西栗原 |
| 3 座間 | 7 立野台 | 11 広野台 | 15 東原 | 19 南栗原 |
| 4 入谷 | 8 緑ヶ丘 | 12 相模が丘 | 16 さがみ野 | |

座間市の生活環境についてお伺いします。

問9 あなたが座間市に住んだ主な理由は何ですか。 【〇は1つ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 手頃な家や土地があったから | 6 親兄弟や親戚が近くにいたから |
| 2 結婚や家族の転居に伴って | 7 自然環境や土地柄が良かったから |
| 3 仕事や学校の関係で | 8 自分の家や土地があるから |
| 4 自分の生まれ育った所だから | 9 その他 () |
| 5 通勤、通学が便利だから | |

問10 今後も今の場所に住み続けたいと思いますか。 【〇は1つ】

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|---------|
| 1 住み続けたい | 2 市内で移りたい | 3 市外へ移りたい | 4 分からない |
|----------|-----------|-----------|---------|

**問11 問10で「1 住み続けたい」を選択された方に伺います。
今の場所に住み続けたい理由は何ですか。 【〇は1つ】**

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 自分の家や土地があるから | 7 親兄弟や親戚が近くにいるから |
| 2 住み慣れて愛着があるから | 8 人間関係が良いから |
| 3 自然環境や土地柄が良いから | 9 子供の生活環境、教育環境が良いから |
| 4 自分が生まれ育った所だから | 10 何となくイメージが良いから |
| 5 通勤、通学などが便利だから | 11 その他 () |
| 6 仕事や学校の関係で | |

**問12 問10で「2 市内で移りたい」または「3 市外へ移りたい」を選択された方に伺います。
他の場所へ移りたい主な理由は何ですか。 【〇は1つ】**

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 自然環境が悪いから | 8 地代、家賃が高いから |
| 2 公共施設や病院が不十分だから | 9 人間関係が良くないから |
| 3 自分の家や土地ではないから | 10 子供の教育の関係で |
| 4 通勤、通学などが不便だから | 11 高級店や娯楽施設が少ないから |
| 5 仕事や学校の関係で | 12 航空機騒音がひどいから |
| 6 何となくイメージがぱっとしないから | 13 その他 () |
| 7 日常の買い物が不便だから | |



問13 お住まいの周辺の環境にどの程度満足されていますか。
 当てはまる番号をそれぞれ1つ選んでください。【1つの項目について、○は1つずつ】

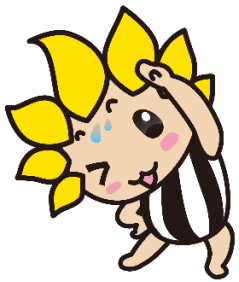
お住まいの周辺の環境への満足度	満 足	まあ満足	普 通	やや不満	不 満
(1) 飲み水	1	2	3	4	5
(2) 日当たりや風通しなど	1	2	3	4	5
(3) 日常の買い物	1	2	3	4	5
(4) 台所、風呂などの排水処理	1	2	3	4	5
(5) ごみ処理	1	2	3	4	5
(6) 周囲の自然環境	1	2	3	4	5
(7) 雨水の排水処理	1	2	3	4	5
(8) 通勤、通学の便	1	2	3	4	5
(9) 市役所や出張所への行きやすさ	1	2	3	4	5
(10) 治安や風紀	1	2	3	4	5
(11) 病院や診療所など	1	2	3	4	5
(12) 地震や火災に対する安全性	1	2	3	4	5
(13) 公園や子供の遊び場	1	2	3	4	5
(14) 街並みなどの景観	1	2	3	4	5
(15) 文化、スポーツ、娯楽などの施設	1	2	3	4	5
(16) 交通安全について	1	2	3	4	5
(17) 道路の整備状況	1	2	3	4	5
(18) 騒音、大気汚染など	1	2	3	4	5

問14 問13の(1)~(18)までの項目を総合的に考えて、住み心地はいかがですか。【○は1つ】

1 住みやすい	3 どちらとも言えない	5 住みにくい
2 まあ住みやすい	4 やや住みにくい	

健康づくりについてお伺いします。

問15 ご自身の健康づくりのために、今後どのようなことが重要だとお考えですか。
 【○は2つまで】

1 定期検診などによる健康管理	
2 市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報、知識を得る	
3 食生活と運動習慣の講座等	
4 スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり	
5 過労防止のための適切な休養	
6 その他（	
7 特にない	

市民生活・広報についてお伺いします。

問16 身の周りのことで要望や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【〇は1つ】

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 市長宛てに手紙、電子メールを出す | 5 住民運動を通して伝える |
| 2 自分で直接市役所に連絡する | 6 地元の有力者に頼む |
| 3 自治会を通して連絡する | 7 言っても無駄だと思う |
| 4 市議会に陳情する | 8 その他 () |

問17 日常生活に役立つ情報を知るために、どのような媒体（メディア）を使っていますか。
【下の一覧からよく使う順に3つ選んで番号を1つずつ記入】

1 番良く使う

2 番目に使う

3 番目に使う

- | | | |
|----------------|---------------|---------------------------|
| 1 「広報ざま」などの広報紙 | 7 インターネット | 13 家族、友人、知人 |
| 2 テレビ | 8 ポスター、看板、掲示板 | 14 ソーシャルネットワーキングサービス（SNS） |
| 3 ラジオ | 9 自治会の回覧版 | 15 その他 () |
| 4 新聞、雑誌 | 10 テレフォンサービス | |
| 5 携帯電話、スマートフォン | 11 ファクスサービス | |
| 6 書籍、チラシ | 12 ダイレクトメール | |

問18 市のお知らせについては、「広報ざま」や「市ホームページ」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。【当てはまるもの全てに〇】

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 ビデオテープやDVD等の貸し出し | 5 ファクスサービス |
| 2 市役所や各出張所などでのビデオ上映 | 6 その他 () |
| 3 録音テープによる電話サービス | |
| 4 ケーブルテレビ | |

※「広報ざま」や「市ホームページ」のほかに、テレビ「J：COMのL字放送」、「座間市緊急情報メール」、「ツイッター」でも市のお知らせを提供しています。

問19 座間市のホームページを閲覧したことがありますか。【〇は1つ】

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問20 問19で「1 ある」を選択された方に伺います。
現在のホームページに満足していますか。【〇は1つ】

- | | | | | |
|------|--------|------|--------|------|
| 1 満足 | 2 まあ満足 | 3 普通 | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|------|--------|------|



公園・広場・緑地についてお伺いします。

問21 自宅周辺の緑に満足していますか。【〇は1つ】

- | | | | | |
|------|--------|------|--------|------|
| 1 満足 | 2 まあ満足 | 3 普通 | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|------|--------|------|

景観形成についてお伺いします。

問22 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
【〇は1つ】

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 建築物の高さ規制の導入 | 6 屋外広告物対策 |
| 2 緑地の保全 | 7 色彩のルールづくり |
| 3 農地の保全 | 8 公共施設における景観への配慮 |
| 4 並木の創出 | 9 その他 () |
| 5 身近な地区を対象としたルールづくり | |

問23 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。
【〇は1つ】

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 1 大変気になる | 3 全く気にならない | 5 その他 () |
| 2 気になる | 4 どちらとも言えない | |

問24 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思いますか。
【当てはまるもの全てに〇】

- | | | | |
|-------|--------|-----------|-----------|
| 1 日照 | 3 電波障害 | 5 周辺との不調和 | 7 その他 () |
| 2 圧迫感 | 4 風害 | 6 街並み | |

問25 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思いますか。 【〇は1つ】

- | |
|-------------------------------|
| 1 どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である |
| 2 現在の法規則で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない |
| 3 どちらとも言えない |
| 4 分からない |
| 5 その他 () |

防災・減災についてお伺いします。

問26 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。
【当てはまるもの全てに〇】

- | |
|------------------------------------|
| 1 近くの学校や公園など避難場所を決めている |
| 2 家具を固定している |
| 3 飲料水や食料を準備している |
| 4 消火器の設置や水のため置きをしている |
| 5 医薬品や非常持ち出し品を準備している |
| 6 地域の防災訓練に参加、または隣近所との協力について話し合っている |
| 7 火災警報器を設置している |
| 8 その他 () |
| 9 特に何もしていない |



問27 防災・減災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 市民の防災・減災意識の高揚 | 4 飲料水、食料などの確保 |
| 2 自主防災組織づくり | 5 正確な情報を伝達する体制づくり |
| 3 避難場所の確保 | 6 その他 () |

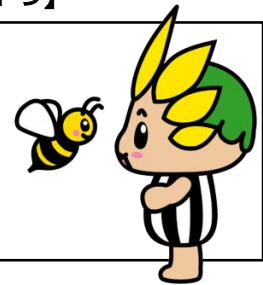
問28 座間市が提供・実施している防災・減災対策や、災害時の情報伝達手段について知っていますか。【知っているもの全てに〇】

- | | |
|--|---------------|
| 1 市ホームページ災害関連情報 | 6 緊急速報メール |
| 2 防災行政無線（スピーカー放送） | 7 防災マップ（配布） |
| 3 音声自動応答サービス
（フリーダイヤル 0120-673-679） | 8 総合防災ガイド（配布） |
| 4 緊急情報いさまメール | 9 総合防災訓練 |
| 5 座間市いっせい防災行動訓練（シェイクアウト） | |

コミュニティ活動についてお伺いします。

問29 今後どのような近所付き合いをしていきたいと思えますか。【〇は1つ】

- | |
|-------------------------|
| 1 お互いに助け合うなど親密な付き合いをしたい |
| 2 世間話をする程度の気軽な付き合いをしたい |
| 3 あいさつ程度の付き合いをしたい |
| 4 近所付き合いはしたくない |
| 5 その他 () |



問30 あなたはどのような地域活動に参加していますか。【当てはまるもの全てに〇】

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 1 自治会 | 9 農協、商工会などを通じた地域活動 |
| 2 子供会 | 10 趣味、学習、伝統文化などを通じた地域活動 |
| 3 婦人会 | 11 高齢者、身体・知的・精神障がい者などに対する社会福祉活動 |
| 4 老人クラブ | 12 国際交流、環境など社会福祉以外のボランティア（社会奉仕）活動 |
| 5 P T A | 13 リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動 |
| 6 さま遊友クラブ | 14 その他 () |
| 7 青少年の健全育成 | 15 特に活動していない |
| 8 スポーツ団体 | |

問31 問30で「15 特に活動していない」を選択された方に伺います。活動していない主な理由は何ですか。【〇は3つまで】

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 家族の反対や世話など家庭の事情で | 5 健康、体力にあまり自信がないから |
| 2 どのような活動が行われているのかあまり知らないから | 6 知り合いがないから |
| 3 近くに参加したい団体、活動がないから | 7 参加したくないから |
| 4 活動する時間がないから | 8 その他 () |

男女共同参画についてお伺いします。

問32 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて、あなたはどのように考えますか。 【〇は1つ】

1 反対	3 賛成	5 分からない
2 どちらかと言えば反対	4 どちらかと言えば賛成	

問33 問32で「1 反対」または「2 どちらかと言えば反対」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。 【〇は1つ】

1 生まれつき男女の役割は決められているものではないから
2 従来経験や習慣では、押し量れない状況となっているから
3 現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから
4 一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから
5 仕事に就くことは当たり前のことだから
6 その他 ()

問34 問32で「3 賛成」または「4 どちらかと言えば賛成」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。 【〇は1つ】

1 それが男女それぞれの生まれつきの特性だから
2 従来経験や習慣から
3 子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから
4 女性は仕事をもっても不利な条件に置かれているから
5 その他 ()

問35 あなたはこれまでにパートナー（配偶者や恋人）から次のようなことをされたことがありますか。

当てはまる番号をそれぞれ1つ選んでください。 【1つの項目について、〇は1つずつ】

	何度もあった	1、2度あった	全くない
パートナー（配偶者や恋人）からの暴力			
(1) 身体的暴力（殴る/蹴る/物を投げる/髪を引っ張る/引きずり回す等）	1	2	3
(2) 精神的暴力（暴言を吐く/大切な物を壊す/交友関係を監視・制限する等）	1	2	3
(3) 性的暴力（性行為を強要する/避妊に協力しない/ポルノを見せる等）	1	2	3
(4) 経済的暴力（生活費を渡さない/仕事を制限する/借金を重ねる等）	1	2	3
(5) その他 ()	1	2	3



問43 座間市では市制施行10周年ごとに記念事業を実施していますが、あなたは、市にどのような記念事業の実施を期待しますか。 【〇は1つ】

- 1 できるだけ費用を抑え、その費用の範囲内で、魅力的な事業を実施してほしい
- 2 費用が掛かっても、大いに魅力的な事業を実施してほしい
- 3 実施しなくてよい
- 4 分からない

最後に、全体を通した自由な意見をお聞かせください。

問44 あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのような市民生活が送れるようにしていけばよいか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書きください。

・ お住まいの地域のまちづくりについて

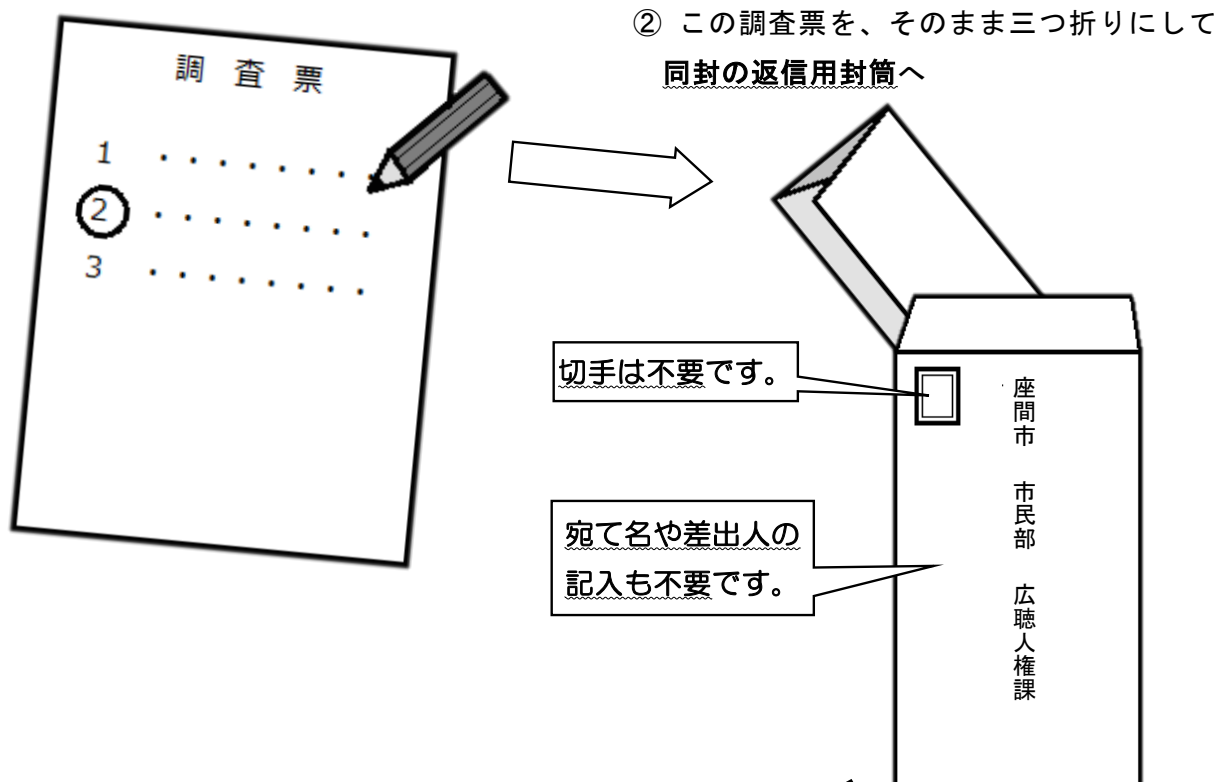
・ 座間市全体のまちづくりについて

・ その他

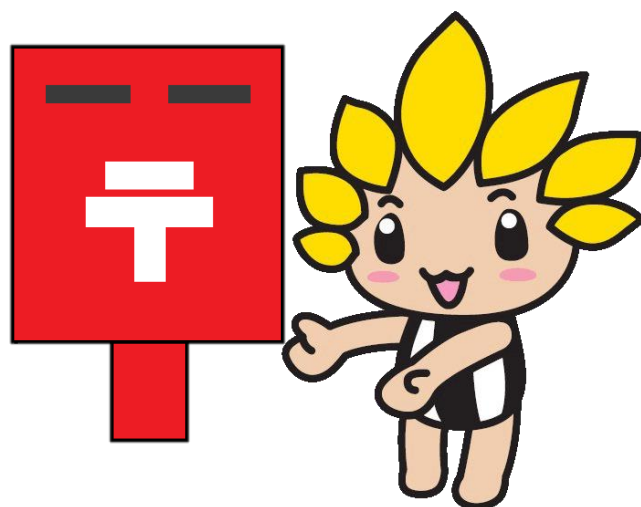


市民の皆さまのご意見やご要望を市政に反映するために
調査にご協力をお願いします。

- ① 無記名で、調査票に回答
各質問の当てはまる番号を○で囲んでください。



令和元年12月11日（水）までに
投かんしてください。



令和2年3月
座間市「市民意識調査」報告書

発行 座間市広聴人権課
〒252-8566 神奈川県座間市緑ヶ丘一丁目1番1号
電話 (046) 255-1111 (代表)
